

男女共同参画社会に関するアンケート調査

集計結果

(単純集計、クロス集計、自由記述回答、前回調査等との比較)

令和5年2月

目 次

| | |
|--|----|
| 調査概要 | 1 |
| 記述回答について | 2 |
| クロス集計について | 3 |
| 調査結果の概要 | 5 |
| 1. 回答者の属性 | 5 |
| 問 1 あなたの性別は（戸籍上の性別に限りません） | 5 |
| 問 2 あなたの年齢はおいくつですか（令和 4 年 11 月 1 日現在の満年齢） | 5 |
| 問 3 お住まいの地区はどちらですか | 5 |
| 問 4 あなたは結婚していますか | 6 |
| 問 5 あなたと配偶者・パートナーの職業は何ですか | 6 |
| 問 6 あなたの家族構成は次のどれですか | 7 |
| 2. 男女平等に関する意識について | 7 |
| 問 7 次の分野において男女の地位は平等になっていると思いますか | 7 |
| 問 8 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか | 14 |
| 問 8-1 「男は仕事、女は家庭」と思う理由を教えてください（複数回答） | 14 |
| 問 8-2 「男は仕事、女は家庭」と思わない理由を教えてください（複数回答） | 17 |
| 問 9 次のことがらについて、主に男性、女性のどちらが担う方がよいと思いますか | 20 |
| 3. 結婚に対する意識について | 27 |
| 問 10 あなたのお考えに近いものを選んでください | 27 |
| 4. 仕事に対する意識について | 31 |
| 問 11 女性が仕事をするということについてどう思われますか | 31 |
| 問 12 今の職場で性別によって差があると思いますか | 34 |
| 問 13 あなたは今後働きたいとお考えですか | 38 |
| 問 13-1 今後は働きたいけれども、現在働くことができない理由は何ですか（複数回答） | 39 |
| 問 13-2 「いいえ」と回答した理由は何ですか（複数回答） | 41 |
| 問 14 出産、育児、介護・看護などの理由で女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか（回答は 3 つまで） | 43 |
| 問 15 出産、育児、介護・看護などで仕事を辞めた後、再就職を希望する女性が再就職しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか（回答は 3 つまで） | 45 |
| 5. 「仕事」「家庭や地域活動」「プライベートの時間」の関わり方について | 47 |
| 問 16 生活の中で「仕事」、「家庭や地域活動」、「プライベートの時間」で何を優先しますか | 47 |

| | | |
|-------------------------------------|--|-----|
| 問 17 | 今後、男性が家事・子育て・介護・地域活動に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか（回答は3つまで） | 51 |
| 問 18 | 現在地域活動に参加されていますか | 53 |
| 問 18-1 | あなたが現在参加している、または今後参加してみたいと思われる地域活動は何ですか（複数回答） | 54 |
| 問 18-2 | 地域活動に参加できない、参加したくない理由は何ですか（複数回答） | 56 |
| 6. DV（ドメスティック・バイオレンス）について | | 58 |
| 問 19 | 配偶者・パートナーからの暴力（なぐる、ける、無視するなどの身体的、精神的な暴力等）について、相談できる窓口があることを知っていますか | 58 |
| 問 19-1 | 相談窓口としてどのようなものを知っていますか（複数回答） | 58 |
| 問 20 | 交際相手から、次のようなことをされたことがありますか | 59 |
| 問 21 | あなたは配偶者やパートナーから、次のようなことをされたことがありますか | 60 |
| 問 22 | そのことを誰かに打ち明けたり、相談しましたか（複数回答） | 65 |
| 問 22-1 | どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった）のはなぜですか（複数回答） | 67 |
| 7. 性暴力・性犯罪について | | 70 |
| 問 23 | 次のことはセクシャル・ハラスメント（性的嫌がらせ）だと思いますか | 70 |
| 問 23-1 | 次のことを職場や学校、地域などでされたことはありますか（複数回答） | 74 |
| 問 24 | これまでに望まないのに性的な行為をされたことがありますか | 76 |
| 問 24-1 | そのことを誰かに打ち明けたり、相談しましたか（複数回答） | 77 |
| 問 24-2 | どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった）のはなぜですか（複数回答） | 79 |
| 問 24-3 | 人権に関する相談窓口（主なもの）には次のようなものがあります、知っているものはありますか（複数回答） | 82 |
| 8. 男女共同参画に関する用語の認知度について | | 83 |
| 問 25 | 次の言葉について、あてはまるものはどれですか | 83 |
| 9. 男女共同参画社会の実現に向けて | | 84 |
| 問 26 | 男女共同参画社会を推進していくために府や市町村は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか（複数回答） | 84 |
| 自由記述回答 | | 85 |
| 前回調査結果や内閣府調査・大阪府調査結果との比較について | | 103 |
| 調査結果からわかる豊能町の施策課題等について | | 122 |

調査概要

この調査は、平成 25 年 3 月に策定した「第 2 次豊能町男女共同参画プラン」を見直すにあたり、町民に男女共同参画社会への意識や課題等についてのご意見を伺い、「第 3 次豊能町男女共同参画プラン」策定に向けての資料とするために実施したものである。

以下に調査方法の概要を整理する。

| 対象地域 | 豊能町内全域 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|--|-------------|-------------|----|---|---------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|-----------|---------|----------|----------|-----------|---------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|-----------|---------|----------|----------|-----------|--------|-----------|----------|-----------|---|-------------|-------------|-------------|
| 調査方法 | 郵送法（郵送による調査票の配布・回収） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 調査期間 | 郵送日：令和 4 年 11 月 22 日 締切日：令和 4 月 12 月 13 日 ※十分な回収数を確保するため、12 月 16 日までの回収分を分析の対象とした。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 調査方法 | 郵送法（郵送による調査票の配布・回収） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象者 | <p>18 歳以上の町民 3,000 名 年代別・性別の対象者数は以下の通りである。</p> <p>■配布数（部）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年代</th> <th>男性</th> <th>女性</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18～19 歳</td> <td>134 (10)</td> <td>115 (14)</td> <td>249 (24)</td> </tr> <tr> <td>20～29 歳</td> <td>325 (47)</td> <td>326 (56)</td> <td>651 (103)</td> </tr> <tr> <td>30～39 歳</td> <td>300 (49)</td> <td>300 (64)</td> <td>600 (113)</td> </tr> <tr> <td>40～49 歳</td> <td>225 (30)</td> <td>225 (68)</td> <td>450 (98)</td> </tr> <tr> <td>50～59 歳</td> <td>175 (40)</td> <td>175 (63)</td> <td>350 (103)</td> </tr> <tr> <td>60～69 歳</td> <td>175 (85)</td> <td>175 (98)</td> <td>350 (183)</td> </tr> <tr> <td>70 歳以上</td> <td>175 (105)</td> <td>175 (76)</td> <td>350 (181)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,509 (366)</td> <td>1,491 (439)</td> <td>3,000 (805)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※（ ）内はそれぞれの回収数。年代が不明、性別が無回答・不明の回答者もいるため、（ ）内の数値の合計は 817 とはならない。</p> | 年代 | 男性 | 女性 | 計 | 18～19 歳 | 134 (10) | 115 (14) | 249 (24) | 20～29 歳 | 325 (47) | 326 (56) | 651 (103) | 30～39 歳 | 300 (49) | 300 (64) | 600 (113) | 40～49 歳 | 225 (30) | 225 (68) | 450 (98) | 50～59 歳 | 175 (40) | 175 (63) | 350 (103) | 60～69 歳 | 175 (85) | 175 (98) | 350 (183) | 70 歳以上 | 175 (105) | 175 (76) | 350 (181) | 計 | 1,509 (366) | 1,491 (439) | 3,000 (805) |
| 年代 | 男性 | 女性 | 計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 18～19 歳 | 134 (10) | 115 (14) | 249 (24) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 20～29 歳 | 325 (47) | 326 (56) | 651 (103) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 30～39 歳 | 300 (49) | 300 (64) | 600 (113) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 40～49 歳 | 225 (30) | 225 (68) | 450 (98) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 50～59 歳 | 175 (40) | 175 (63) | 350 (103) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 60～69 歳 | 175 (85) | 175 (98) | 350 (183) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 70 歳以上 | 175 (105) | 175 (76) | 350 (181) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 1,509 (366) | 1,491 (439) | 3,000 (805) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 回収数 | 817 通（回収率：817/3,000=27.2%） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

記述回答について

回答用紙の裏面にある【自由記述】欄の他、以下の設問では選択肢「その他」等で記述回答欄がある。

問 4：あなたは結婚していますか

問 5：あなたと配偶者・パートナーの職業は何ですか

問 6：あなたの家族構成は次のどれですか

問 8-1：「男は仕事、女は家庭」という理由を教えてください

問 8-2：「男は仕事、女は家庭」と思わない理由を教えてください

問 11：女性が仕事をするについてどう思われますか

問 13：あなたは今後働きたいとお考えですか

問 13-1：今後は働きたいけれども、現在働くことができない理由は何ですか

問 13-2：問 13 で「いいえ」と回答した理由は何ですか

問 14：出産、育児、介護・看護などの理由で女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか

問 15：出産、育児、介護・看護などで仕事を辞めた後、再就職を希望する女性が再就職しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか

問 16：生活の中で「仕事」、「家庭や地域活動」、「プライベートの時間」で何を優先しますか (1) 希望として

問 16：生活の中で「仕事」、「家庭や地域活動」、「プライベートの時間」で何を優先しますか (2) 現実（現状）として

問 17：今後、男性が家事・子育て・介護・地域活動に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか

問 18-1：あなたが現在参加している、または今後参加してみたいと思われる地域活動は何ですか

問 18-2：地域活動に参加できない、参加したくない理由は何ですか

問 22：そのことを誰かに打ち明けたり、相談しましたか

問 22-1：どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった）のはなぜですか

問 24-1：そのことを誰かに打ち明けたり、相談しましたか

問 24-2：どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった）のはなぜですか

問 26：男女共同参画社会を推進していくために府や市町村は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか

クロス集計について

以下の設問では、単純集計に加えて「男女別」および「年代別」のクロス集計も行った。なお「年代別」は、問2の選択肢「60～64歳」と「65～69歳」を合わせて、「60～69歳」としてクロス集計した。

(男女別クロス集計を行った設問)

問7：我が国ではこれまで、「男は仕事、女は家庭」という風潮がありましたが、あなたは「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか

問8-1：「男は仕事、女は家庭」と思う理由を教えてください

問8-2：「男は仕事、女は家庭」と思わない理由を教えてください

問9：あなたは次のことがらについて、主に男性、女性のどちらが担う方がよいと思いますか

問10：【結婚に対する意識について】あなたのお考えに近いものを選んでください

問11：女性が仕事をするということについてどう思われますか

問12：あなたは今の職場で性別によって差があると思いますか

問13：あなたは今後働きたいとお考えですか

問13-1：今後は働きたいけれども、現在働くことができない理由は何ですか

問13-2：問13で「いいえ」と回答した理由は何ですか

問14：出産、育児、介護・看護などの理由で女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか

問15：出産、育児、介護・看護などで仕事を辞めた後、再就職を希望する女性が再就職しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか

問16：生活の中で「仕事」、「家庭や地域活動」、「プライベートの時間」で何を優先しますか (1) 希望として

問16：生活の中で「仕事」、「家庭や地域活動」、「プライベートの時間」で何を優先しますか (2) 現実（現状）として

問17：今後、男性が家事・子育て・介護・地域活動に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか

問18：あなたは、現在地域活動に参加されていますか

問18-1：あなたが現在参加している、または今後参加してみたいと思われる地域活動は何ですか

問18-2：地域活動に参加できない、参加したくない理由は何ですか

問20：あなたは交際相手から、次のようなことをされたことがありますか

問21：あなたは配偶者やパートナーから（事実婚や別居中含む）から、次のようなことをされたことがありますか

問 22：そのことを誰かに打ち明けたり、相談しましたか

問 22-1：どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった）のはなぜですか

問 23：あなたは、次のことはセクシャル・ハラスメント（性的嫌がらせ）だと思いますか。

問 23-1：あなたは、次のことを職場や学校、地域などでされたことはありますか

問 24：あなたは、これまでに望まないのに性的な行為をされたことがありますか

問 24-1：そのことを誰かに打ち明けたり、相談しましたか

問 24-2：どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった）のはなぜですか

※「男女別クロス集計」では、性的マイノリティと推測される「性別無回答」者の状況もグラフで表した。ただし、母数が 10 名と、男性と回答した者が 366 名、女性と回答した者が 440 名と比べて大幅に少ないことから、選択肢ごとの割合が大きく表現されてしまう。よって、特徴ある結果についてのみコメントを付した。

(年代別クロス集計を行った設問)

問 7：我が国ではこれまで、「男は仕事、女は家庭」という風潮がありましたが、あなたは「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか

問 8-1：「男は仕事、女は家庭」と思う理由を教えてください

問 8-2：「男は仕事、女は家庭」と思わない理由を教えてください

問 9：あなたは次のことがらについて、主に男性、女性のどちらが担う方がよいと思いますか

問 10：【結婚に対する意識について】あなたのお考えに近いものを選んでください

問 11：女性が仕事をするということについてどう思われますか

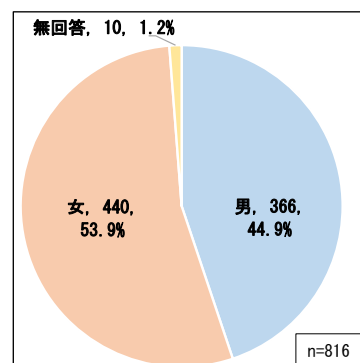
調査結果の概要

※以下、調査結果の概要に掲載している数値(%)は、四捨五入のため、内訳合計が100%にならない場合がある。

1. 回答者の属性

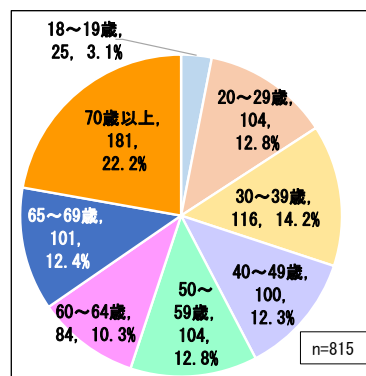
問1 あなたの性別は（戸籍上の性別に限りません）

- ・「男性」が44.9%、「女性」が53.9%で、女性が多くなっている。
- ・この結果と、女性の調査対象者数が男性よりも少ないことから、女性の方が男女共同参画に関心を持っていることが推測できる。



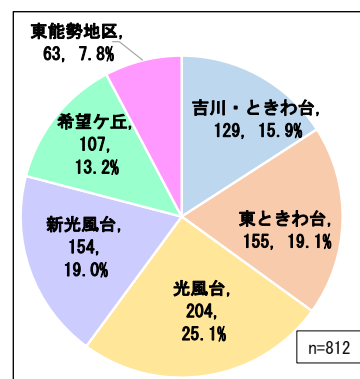
問2 あなたの年齢はおいくつですか（令和4年11月1日現在の満年齢）

- ・「70歳以上」が22.2%と最も多く、次いで「30～39歳」が14.2%、「20～29歳」と「50～59歳」が同率で12.8%となっている。
- ・65歳以上の高齢者の割合が34.6%と全体の1/3以上を占めているが、「30～39歳」と「40～49歳」の子育て世代が26.5%、「18～19歳」と「20～29歳」の若い世代も15.9%と、両者を合計すると4割以上となっている。



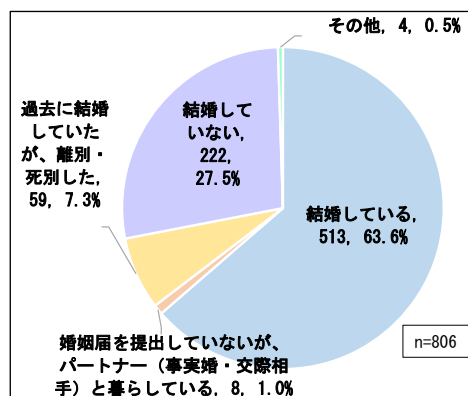
問3 お住まいの地区はどちらですか

- ・「光風台地区」が25.1%と最も多く、次いで「東ときわ台地区」が19.1%、「新光風台地区」が19.0%となっている。



問4 あなたは結婚していますか

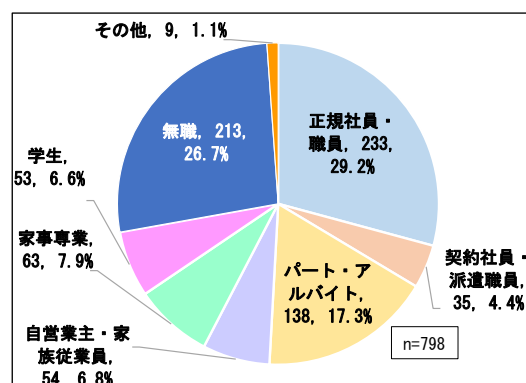
- ・「結婚している」が63.6%と最も多く半数以上であり、次いで「結婚していない」が27.5%となっている。



問5 あなたと配偶者・パートナーの職業は何ですか

(あなた)

- ・「正規社員・職員」が29.2%と最も多く、次いで「無職」が26.7%、「パート・アルバイト」が17.3%となっている。

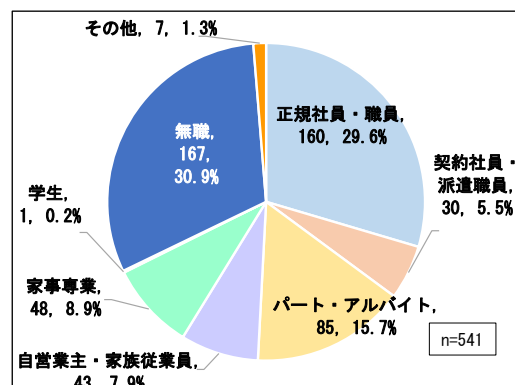


【主なその他回答】

- ・フリーランス ・学校講師
- ・音楽家 ・公務員 ・受験生 など

(配偶者・パートナー)

- ・「無職」が30.9%と最も多く、次いで「正規社員・職員」が29.6%、「パート・アルバイト」が15.7%となっている。



【主なその他回答】

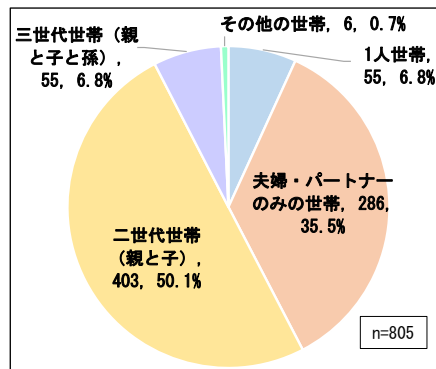
- ・農業 ・準社員 ・大学教授
- ・学習指導員 など

問6 あなたの家族構成は次のどれですか

- ・「二世世代 (親と子)」が 50.1%と最も多く半数以上であり、次いで「夫婦・パートナーのみの世帯」が 35.5%となっている。

【主なその他回答】

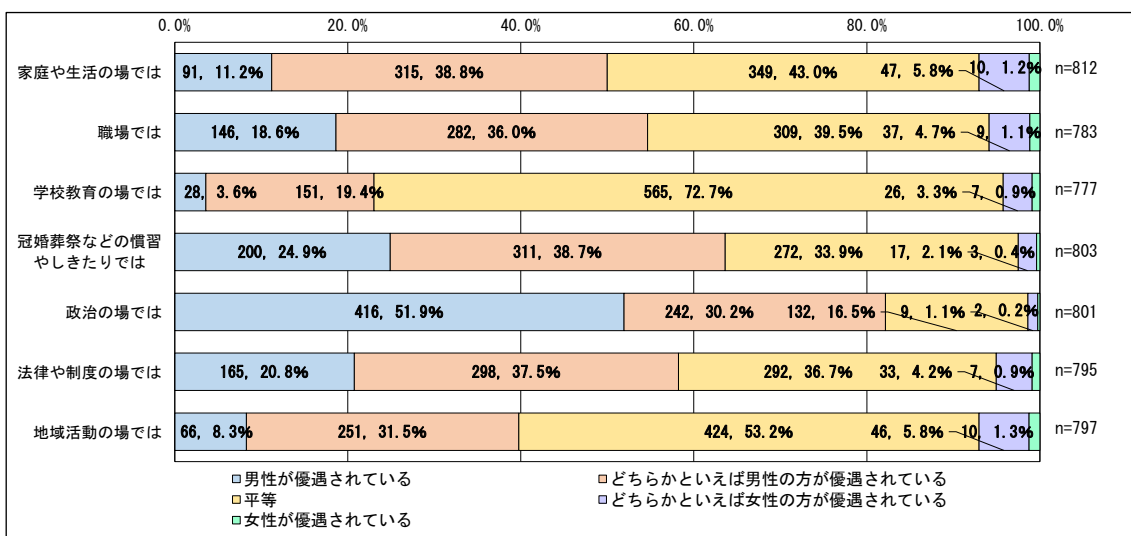
- ・祖母と2人 ・兄弟 など



2. 男女平等に関する意識について

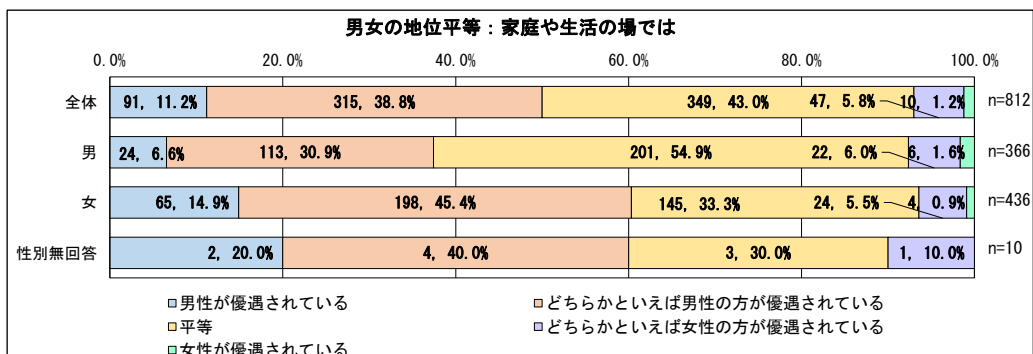
問7 次の分野において男女の地位は平等になっていると思いますか

- ・「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は、「政治の場では」が 82.1%と最も多く、次いで「冠婚葬祭などの慣習やしきたりでは」が 63.6%となっている。
- ・特に「政治の場では」の「男性が優遇されている」は、50.1%と半数を超えている。
- ・「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計は、「地域活動の場では」が 7.1%で最も多いが、どの分野も 1ケタ%と極めて少なくなっている。

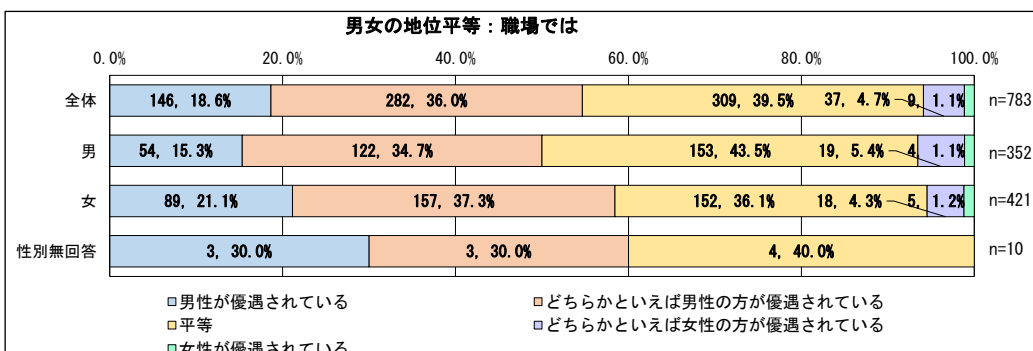


【男女別クロス集計】

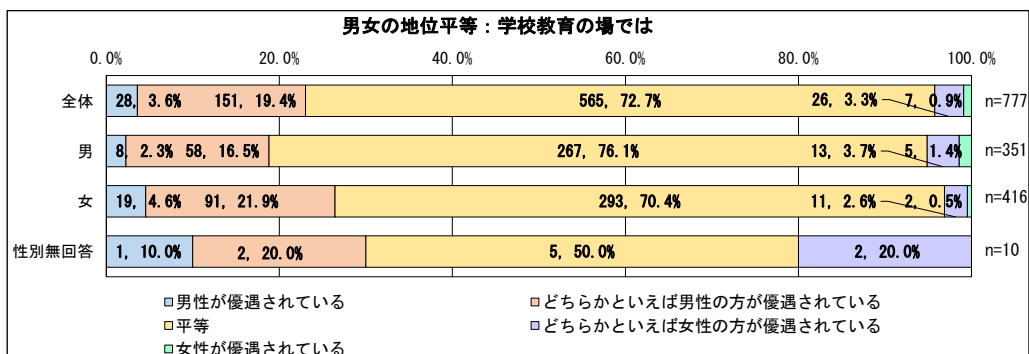
- ・家庭や生活の場では、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は、男性が37.4%、女性が60.3%と、20ポイント以上の差で女性がかかなり多くなっている。



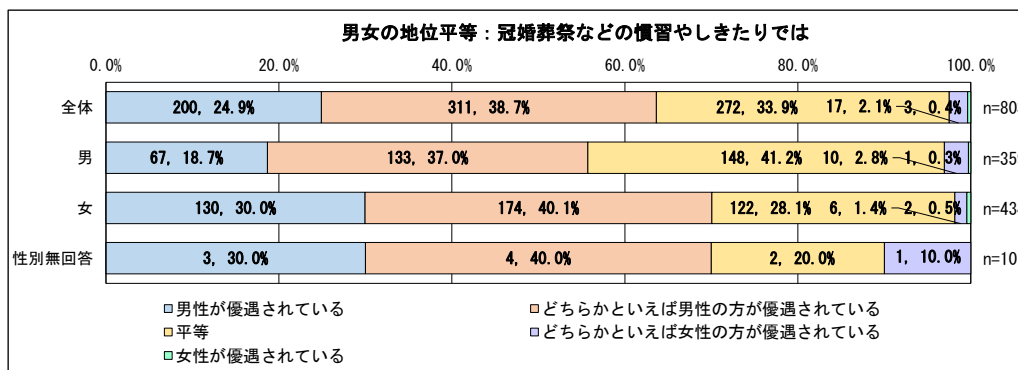
- ・職場では、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は、男性が50.0%、女性が58.4%と、8ポイント以上の差で女性が多くなっている。



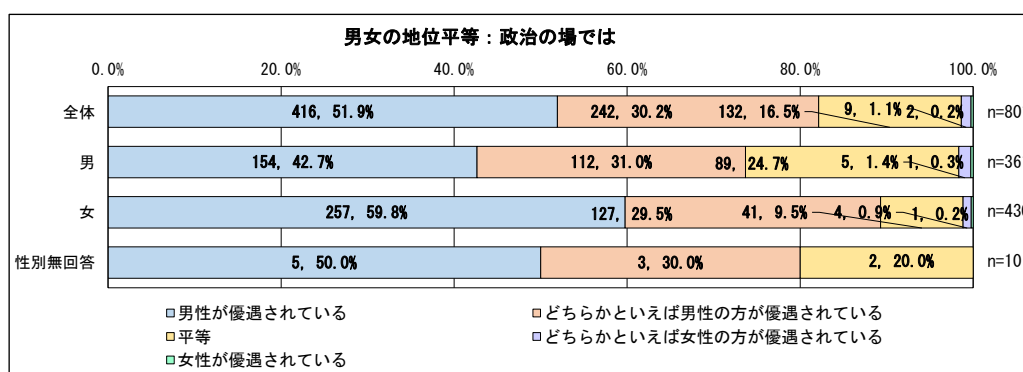
- ・学校教育の場では、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は、男性が18.8%、女性が26.4%と、8ポイント以上の差で女性が多くなっている。



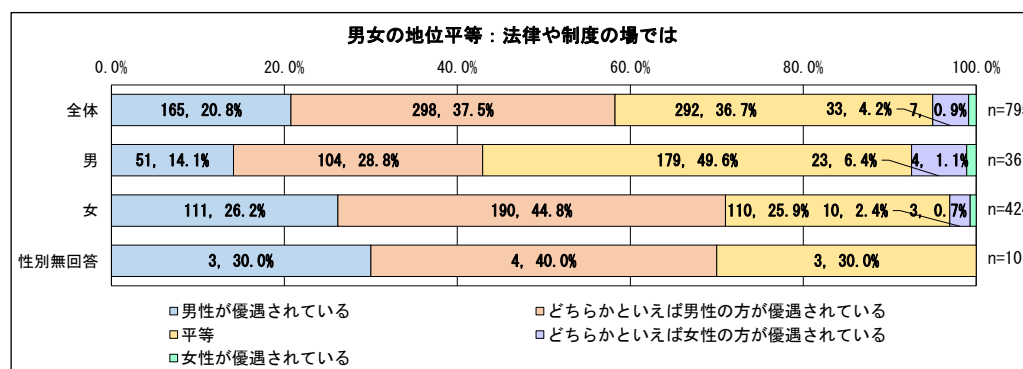
- 冠婚葬祭などの慣習やしきたりでは、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は、男性が 55.7%、女性が 70.0%と、15 ポイント程度の差で女性がかかなり多くなっている。



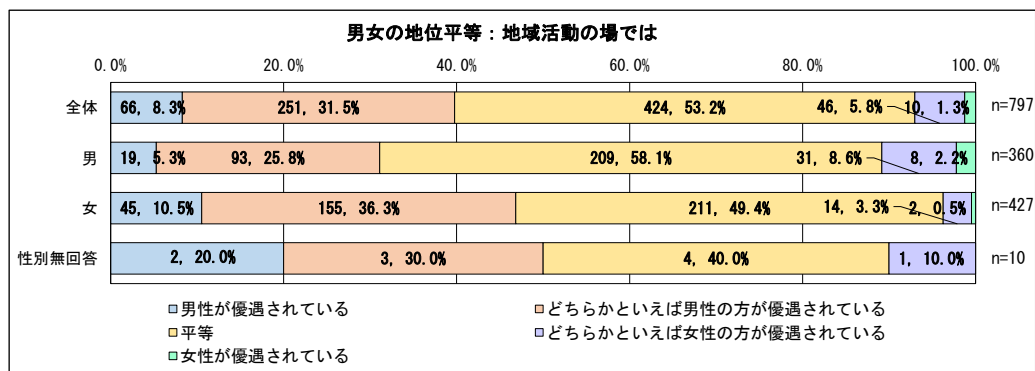
- 政治の場では、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は、男性が 73.7%、女性が 89.3%と、15 ポイント以上の差があるが、男性も 7 割以上が「政治の場での男性優遇」を認識している。



- 法律や制度の場では、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は、男性が 42.9%、女性が 71.0%と、一連の項目のなかでは最も大きい 30 ポイント弱の差で女性がかかなり多くなっている。

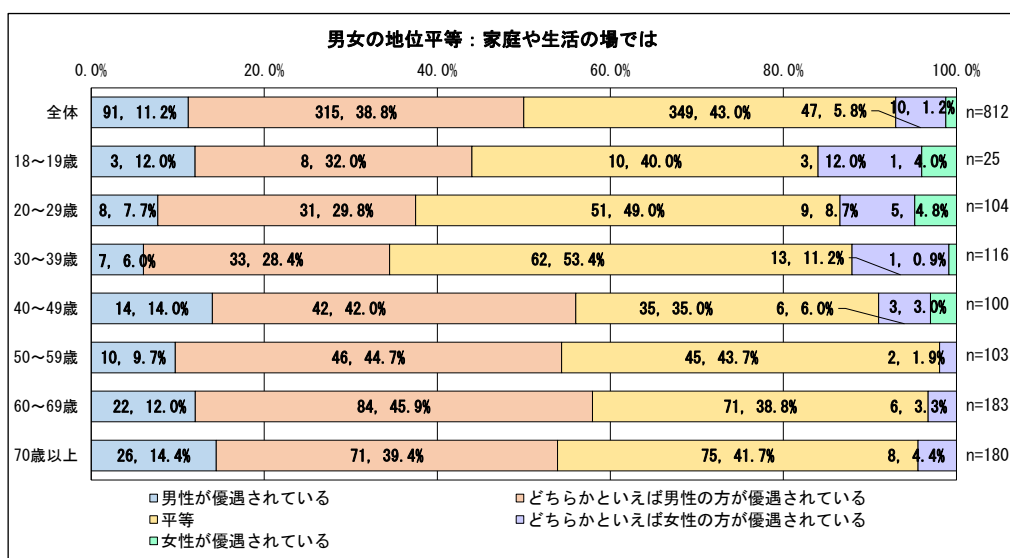


- ・地域活動の場では、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は、男性が31.1%、女性が46.8%と、15ポイント以上の差で女性がかかなり多くなっている。
- ・また、「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計は、男性が10.8%、女性が3.7%と、割合が3倍以上異なっていることから、この項目は男女間での認識の差が一定みられる。

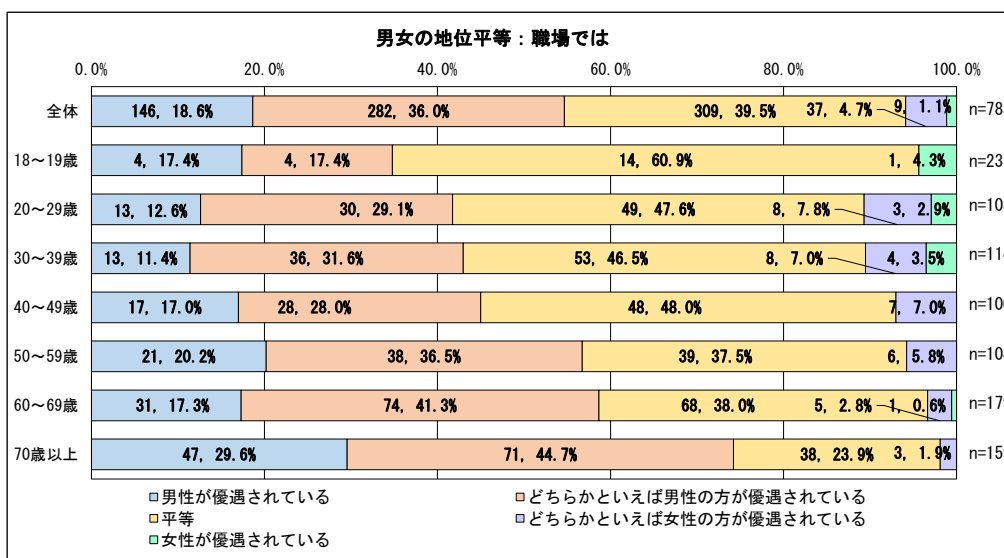


【年代別クロス集計】

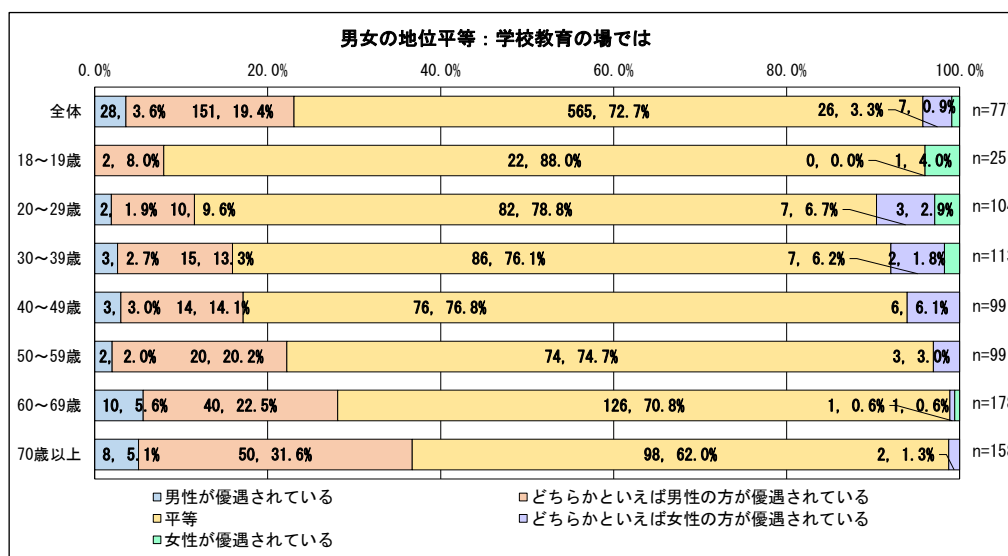
- ・家庭や生活の場では、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は、60～69歳が最も多く57.9%、次いで40～49歳の56.0%となっている。
- ・一方、「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計は、18～19歳が最も多く16.0%、次いで20～29歳の13.5%であることから、若い世代ほど女性優遇の認識が多くなっている。



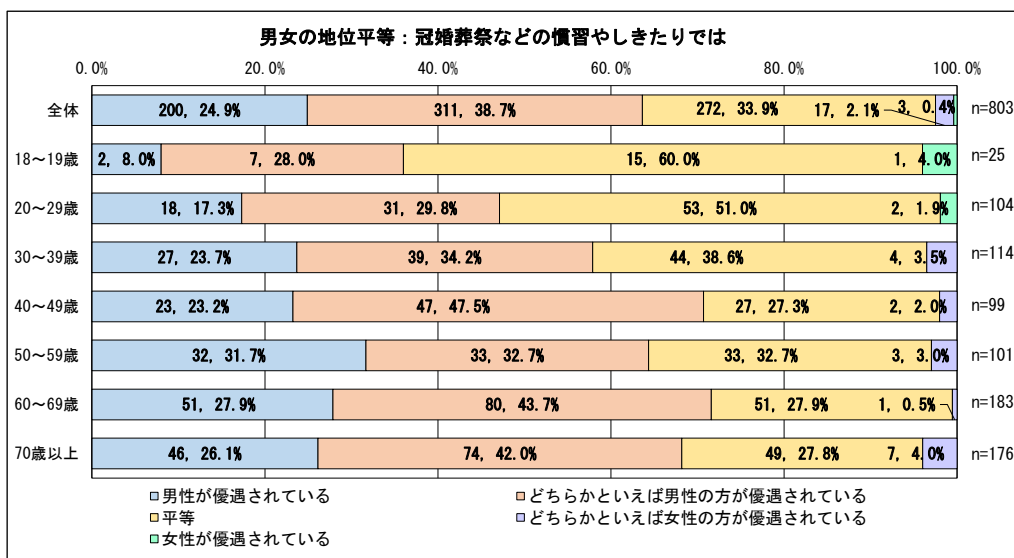
- ・職場では、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は、70歳以上が最も多く74.2%、次いで60～69歳の58.7%となっている。
- ・一方、「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計は、20～29歳が最も多く10.7%、次いで30～39歳の10.5%であることから、若い世代ほど女性優遇の認識が多くなっている。
- ・18～19歳は「平等」が最も多く60.9%で、他世代よりも職場での平等意識が高くなっている。



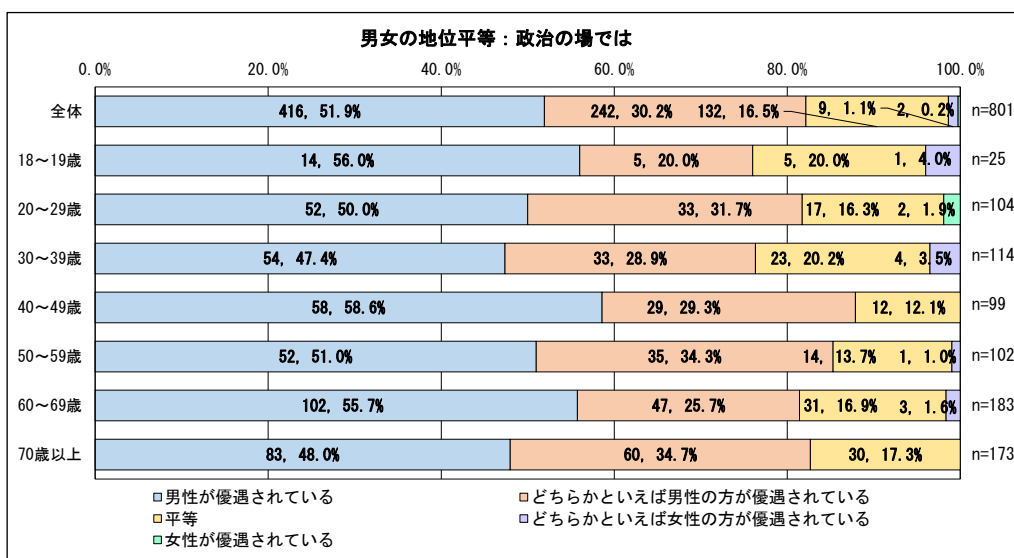
- ・学校教育の場では、「平等」が70歳以上を除く全世代で7割を超えている。
- ・特に、20～29歳は78.8%と8割弱、18～19歳は88.0%と9割弱であり、若い世代ほど学校教育の場での地位平等が進んでいることが分かる。



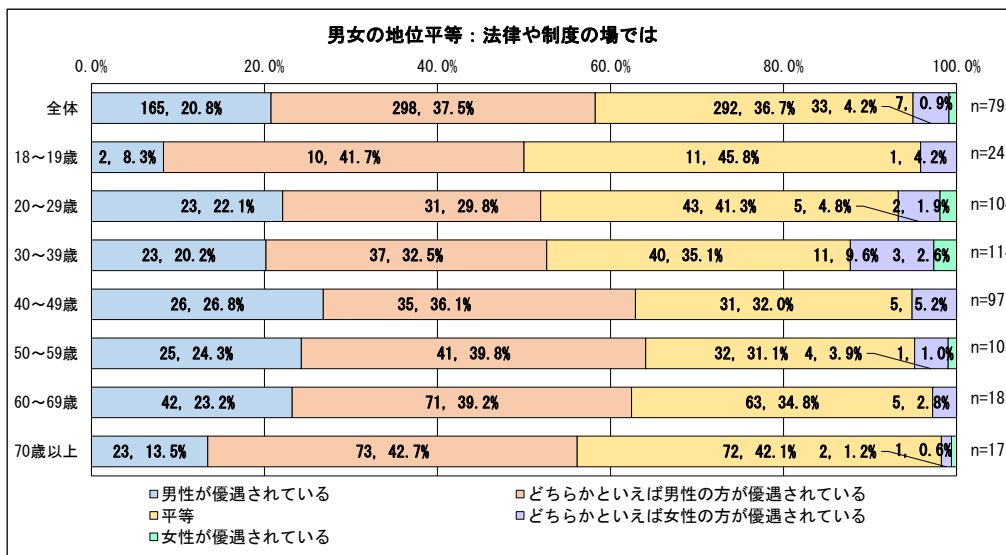
- 冠婚葬祭などの慣習やしきたりでは、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は、60～69歳が最も多く71.6%、次いで40～49歳の70.7%となっている。
- この割合は、40代以上は高止まりだが、30～39歳は57.9%、20～29歳は47.1%と世代ごとに10ポイント以上低下し、「平等」がそれぞれ51.0%、60.0%となっていることから、若い世代ほど冠婚葬祭などの慣習やしきたりでの地位平等が進んでいることが考えられる。



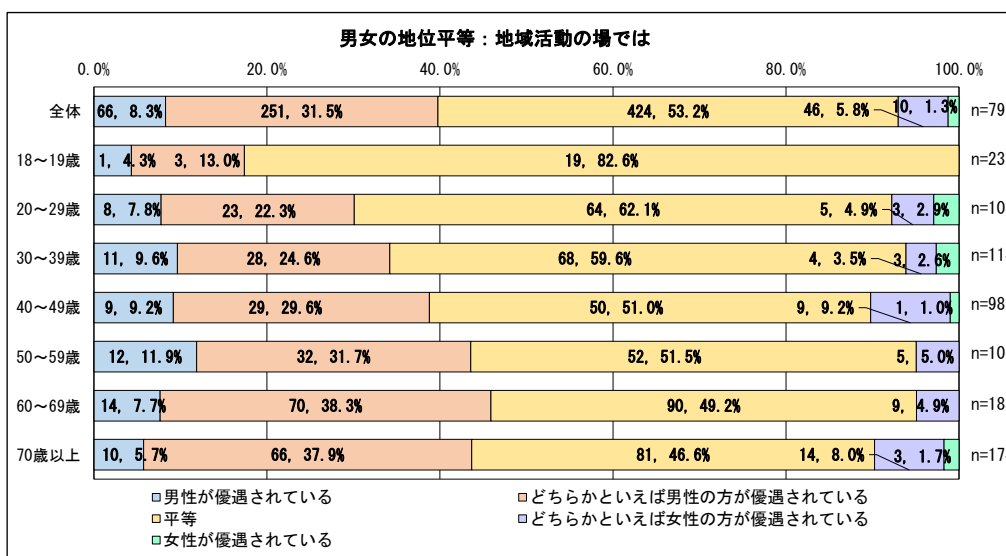
- 政治の場では、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は、40～49歳が最も多く87.9%、次いで70歳以上の82.7%となっている。
- すべての世代で、7割以上が男性優遇と認識している。



- ・法律や制度の場では、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は、50～59歳が最も多く64.1%、次いで40～49歳の62.9%となっている。
- ・一方、「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計は、30～39歳の12.3%で、他の世代と比べて突出した値となっている。

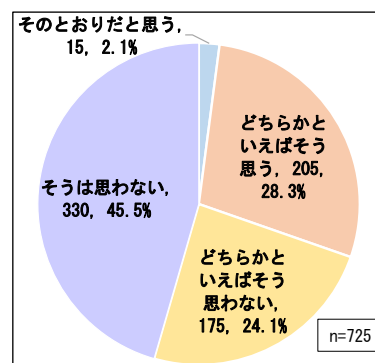


- ・地域活動の場では、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は、60～69歳が最も多く45.9%、次いで50～59歳の43.6%となっている。
- ・この割合は、世代が若くなるにつれて低下し、「平等」が50～59歳で5割を超え、30～39歳で6割弱、20～29歳で6割を超え、18～19歳では9割弱になっていることから、若い世代ほど地域活動の場での地位平等が進んでいることが考えられる。



問8 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか

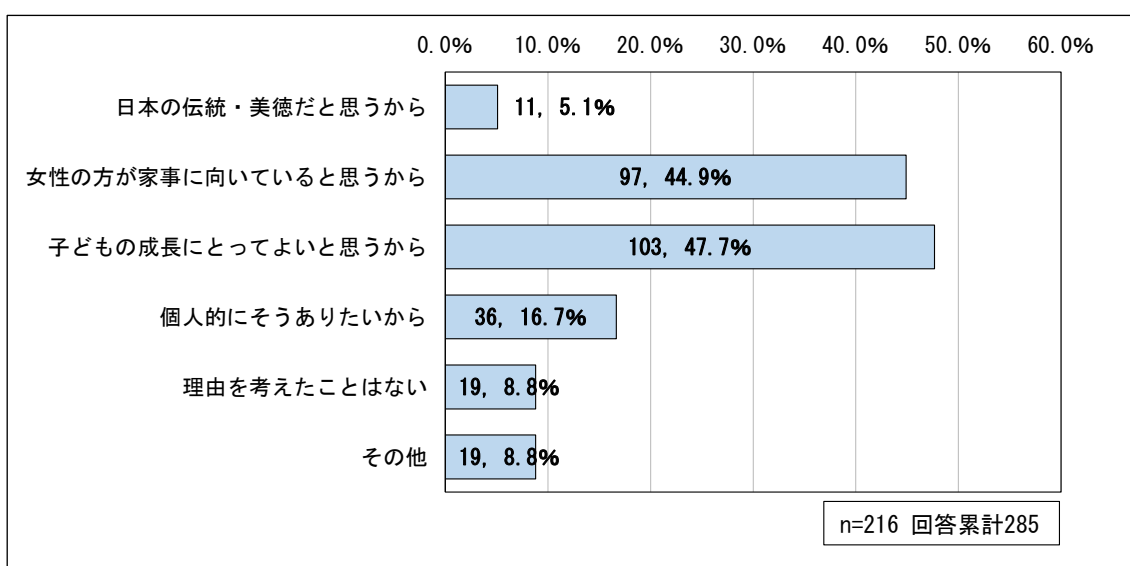
- ・「そうは思わない」が45.5%と最も多く半数に近いが、「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計も30.4%あり、旧来の考えを持つ方も3割程度の割合で見られる。



問8-1 「男は仕事、女は家庭」と思う理由を教えてください（複数回答）

（問8で「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した方が対象の設問）

- ・「子どもの成長にとってよいと思うから」が47.7%と最も多く、次いで「女性の方が家事に向いていると思うから」が44.9%、「個人的にそうありたいから」が16.7%となっている。

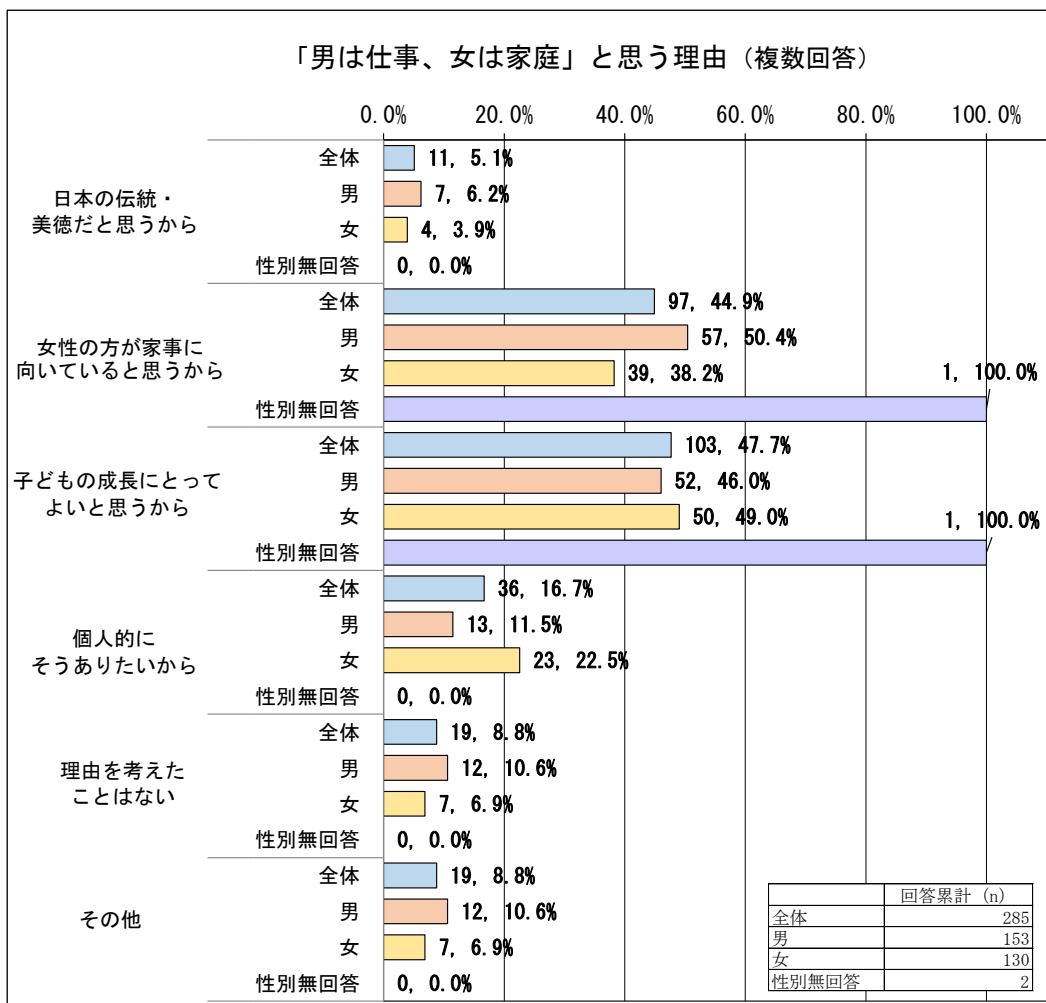


【主なその他回答】

- ・男性の方が稼げるから
- ・平均年収の男女差から男が働く方が効率が良い
- ・女性には出産する機会があるから
- ・出産率が高くなるから
- ・出来る人が出来ることをすれば良い
- ・その方が世の中でスムーズに事が運ぶから
- など

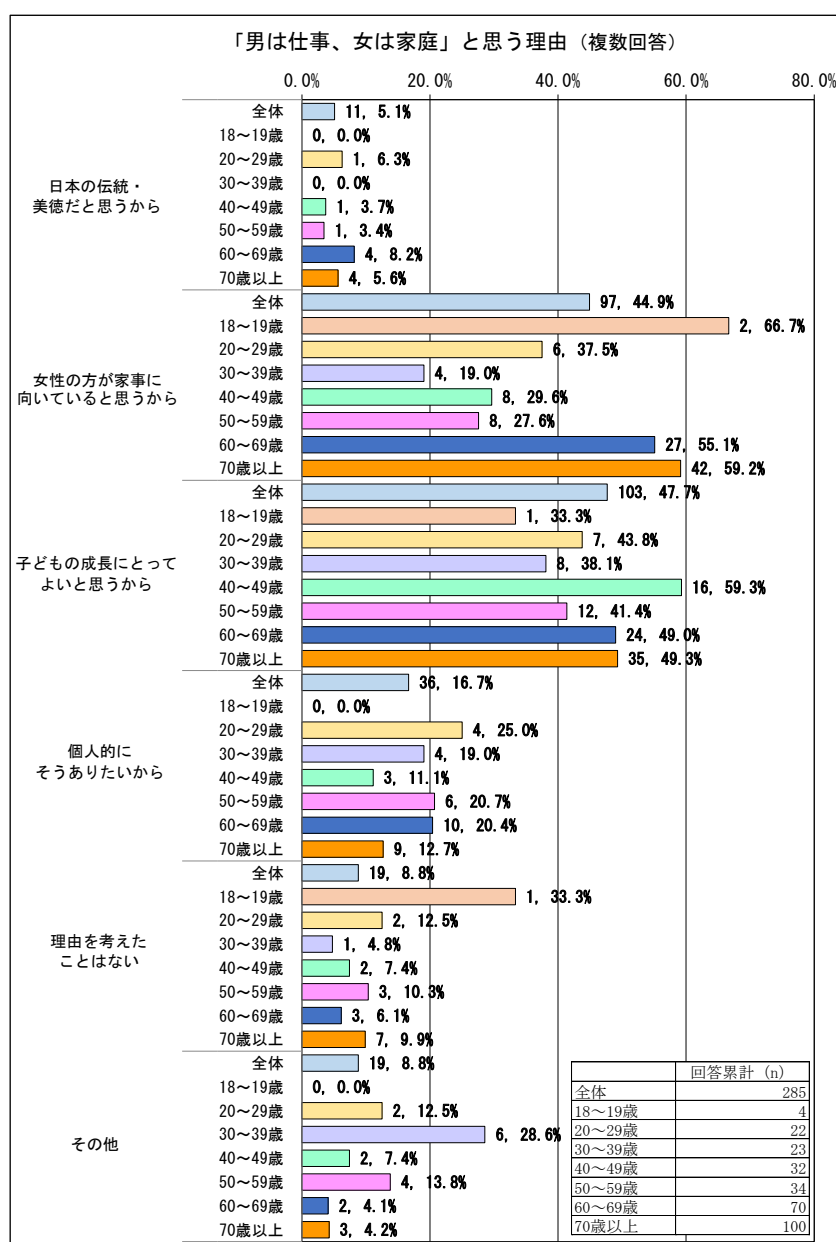
【男女別クロス集計】

- ・「女性の方が家事に向いていると思うから」は、男性が 50.4%、女性が 38.2%と、12 ポイント以上の差で男性がかなり多くなっている。
- ・「子どもの成長にとってよいと思うから」は、男性が 46.0%、女性が 49.0%と、差はあまりみられない。
- ・「個人的にそうありたい」は、男性が 11.5%、女性が 22.5%と、女性の方が 2 倍近い割合となっている。



【年代別クロス集計】

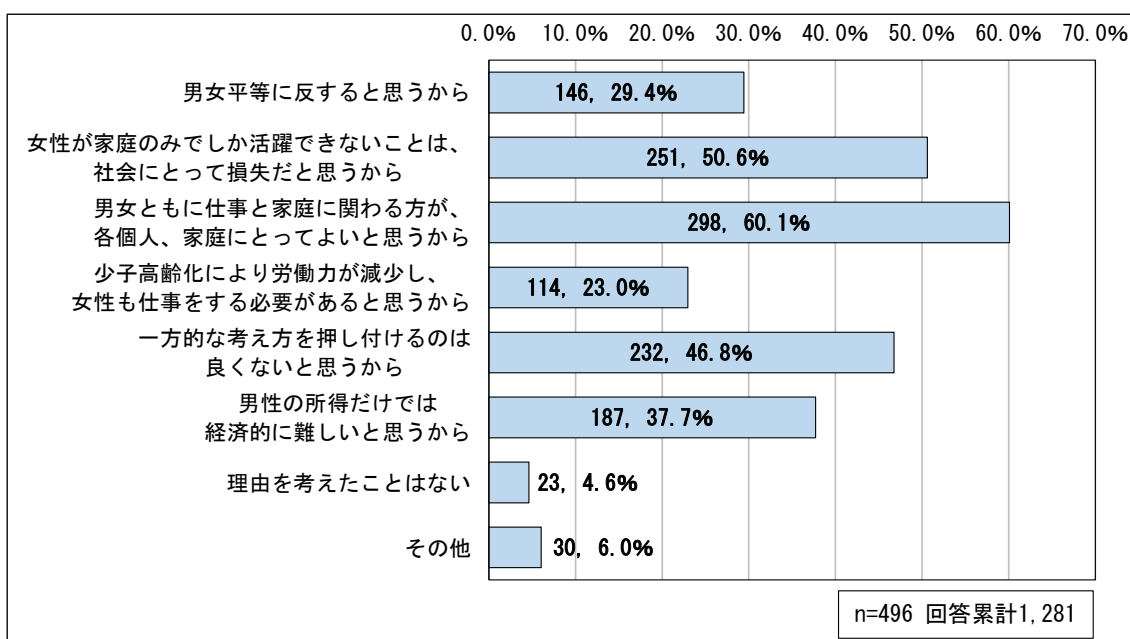
- ・「女性の方が家事に向いていると思うから」は、18～19歳が最も多く66.7%だが、これは母数が3名と少ないため割合が大きくなっている。これを除くと、70歳以上が最も多く59.2%、次いで60～69歳以上の55.1%となる
- ・「子どもの成長にとってよいと思うから」は、40～49歳が59.3%と、他の世代と比べて突出した値となっている。これは子育て世代、直近で子育てを終えた世代であることが影響していると考えられる。
- ・「個人的にそうありたい」は、20～29歳が最も多く25.0%、次いで60～69歳以上の20.4%であるが、人数が最も多いのは60～69歳以上で10名、次いで70歳以上で9名である（割合が最多の20～29歳は4名）。



問8-2 「男は仕事、女は家庭」と思わない理由を教えてください（複数回答）

（問8で「どちらかといえばそう思わない」、「そうは思わない」と回答した方が対象の設問）

・「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとってよいと思うから」が60.1%と最も多く、次いで「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから」が50.6%、「一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから」が46.8%となっている。

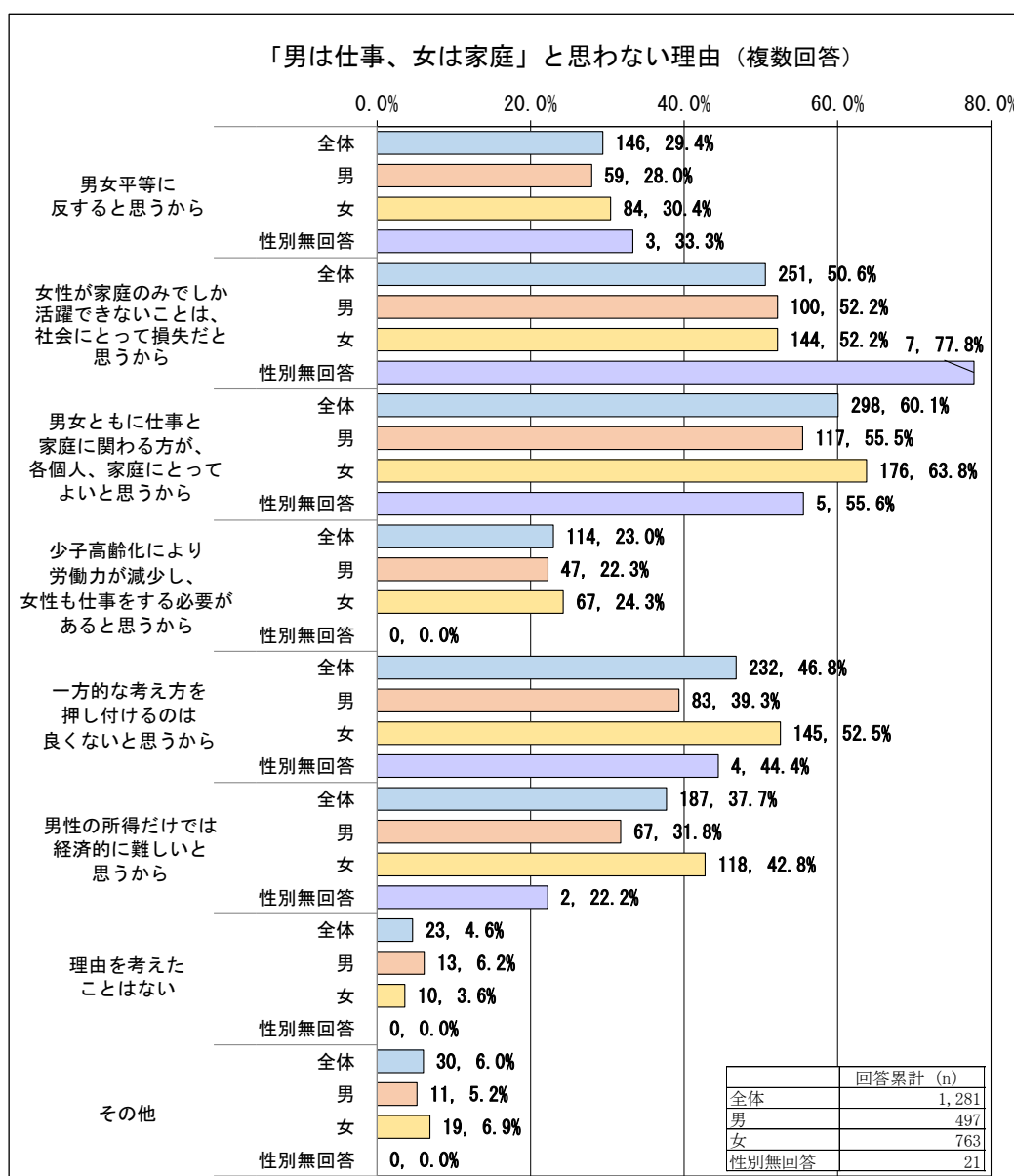


【主なその他回答】

- ・男女共に個性を發揮したら良い
 - ・性別に関係なく特性を活かす方が良い
 - ・家事が苦手な女性、仕事が全てではないという男性もいるから
 - ・個人により生活環境等の様々な事情等があるから
 - ・考え方が古い
 - ・偏った思想だと感じるから
 - ・価値観として決めつけない方が良い
- など

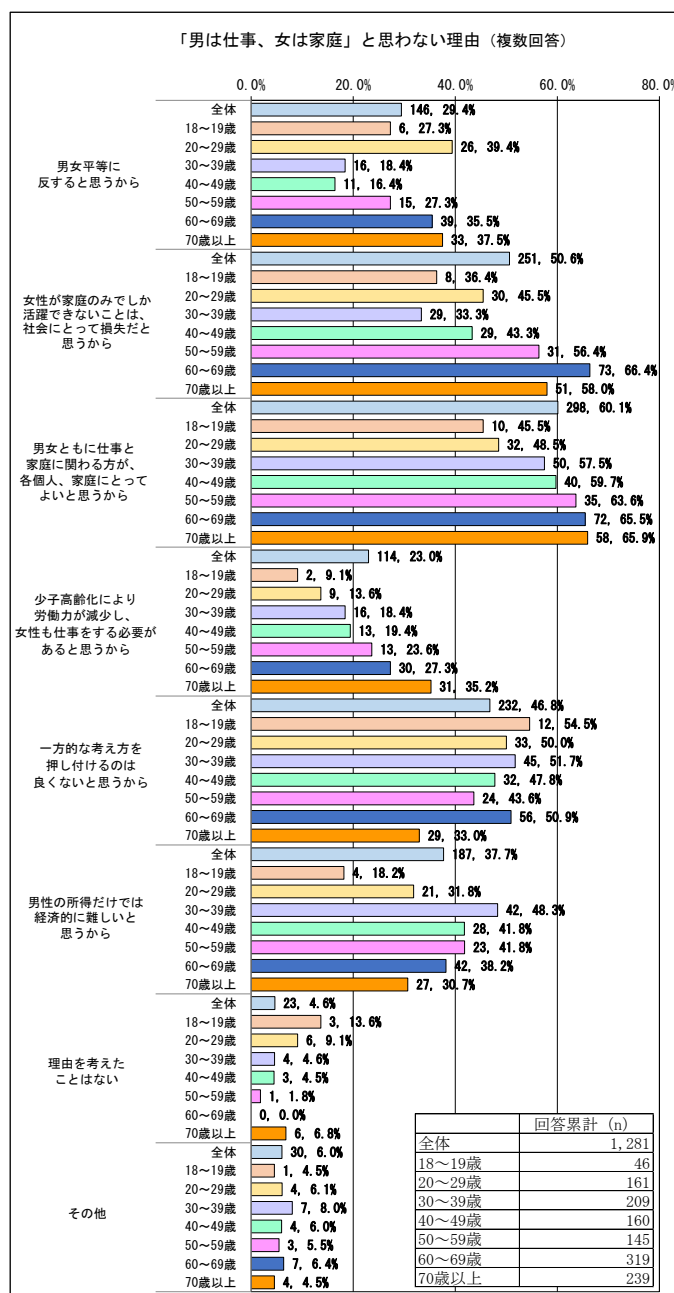
【男女別クロス集計】

- ・「一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから」は、男性が39.3%、女性が52.5%である。また、「男性の所得だけでは経済的に苦しいと思うから」は、男性が31.8%、女性が42.8%と、この2つの項目は10ポイント以上の差で女性がかかなり多くなっている。
- ・「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとってよいと思うから」は、男性が55.5%、女性が63.8%で、ともに割合がもっとも多いが、8ポイント以上の差で女性が多くなっている。
- ・「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから」は、性別無回答が77.8%と突出した値となっている。



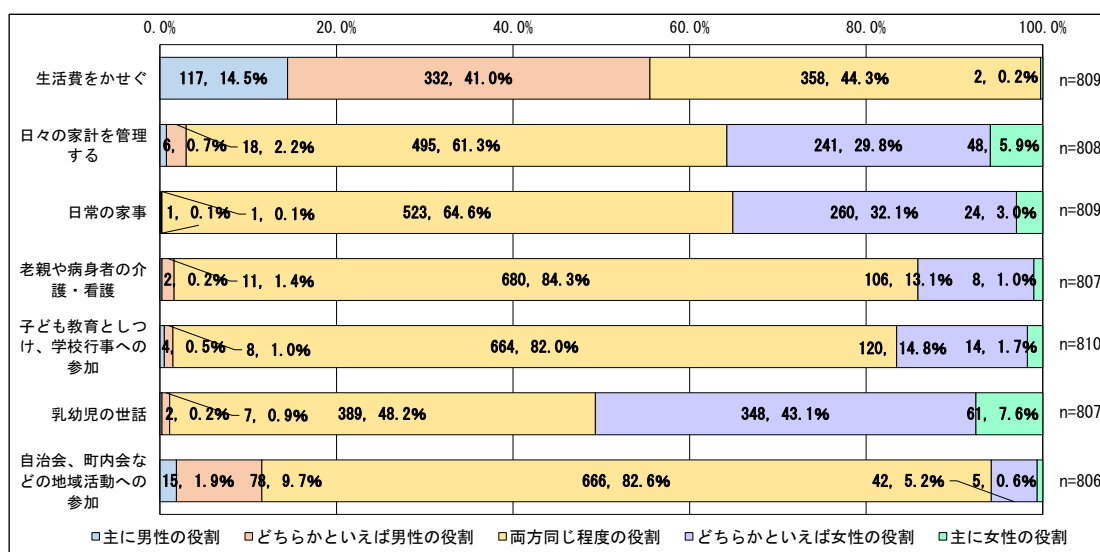
【年代別クロス集計】

- ・「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとってよいと思うから」は、70歳以上が最も多く65.9%、次いで60～69歳の65.5%である。この項目の割合は、30～39歳以上の世代で5割を超えている。
- ・「一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから」は、18～19歳が最も多く54.5%であり、20～29歳の50.0%とともに、この2つの年代では最多の割合となっている。
- ・「男女平等に反するから」は、20～29歳が最も多く39.4%、次いで70歳以上の37.5%で、若い世代と高齢世代で多くなっている。



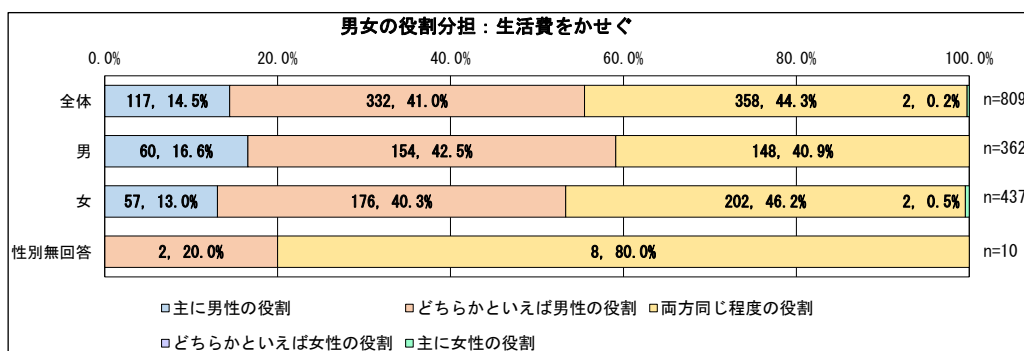
問9 次のことがらについて、主に男性、女性のどちらが担う方がよいと思いますか

- ・「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計は、「生活費をかせぐ」が55.5%と最も多く半数以上あり、次いで「自治会、町内会などの地域活動への参加」が11.6%となっている。
- ・「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計は、「乳幼児の世話」で50.7%が最も多く半数以上あり、次いで「日々の家計を管理する」が35.7%、「日常の家事」が32.4%となっている。
- ・この結果から、「男性は外で働く・地域活動をする」、「女性は家を守る・育児する」という、旧来的な考え方が今なおよく残っていることが分かる。

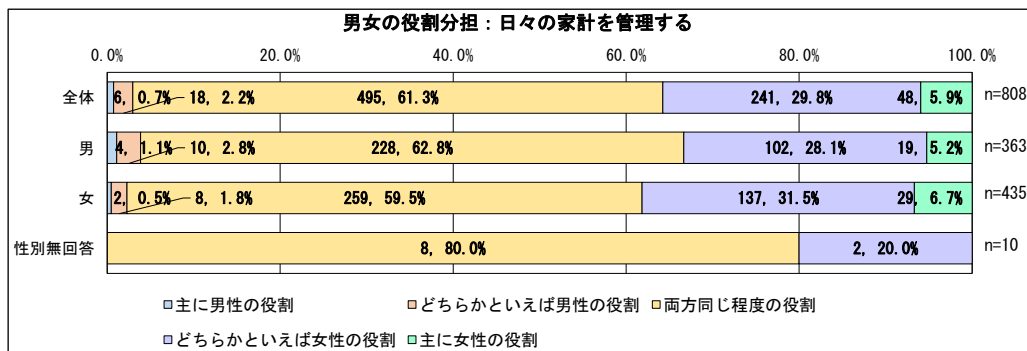


【男女別クロス集計】

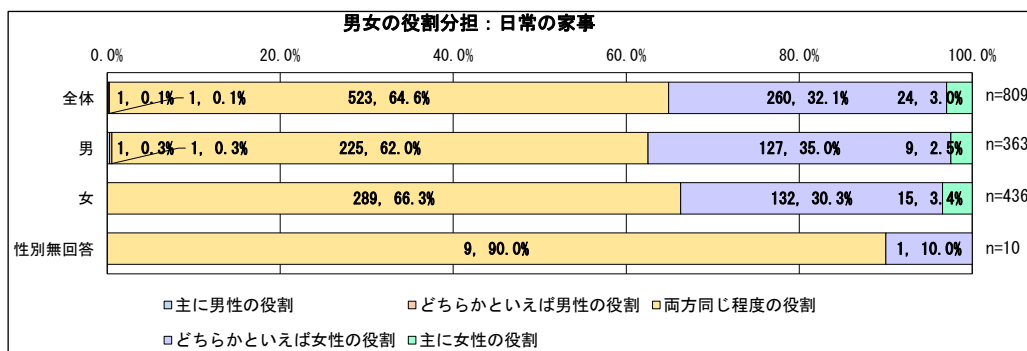
- ・生活費をかせぐでは、「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計は、男性が59.1%、女性が53.3%と、約6ポイントの差で男性が多くなっている。
- ・性別無回答は、「両方同じ程度の割合」が80.0%と突出した値となっている。



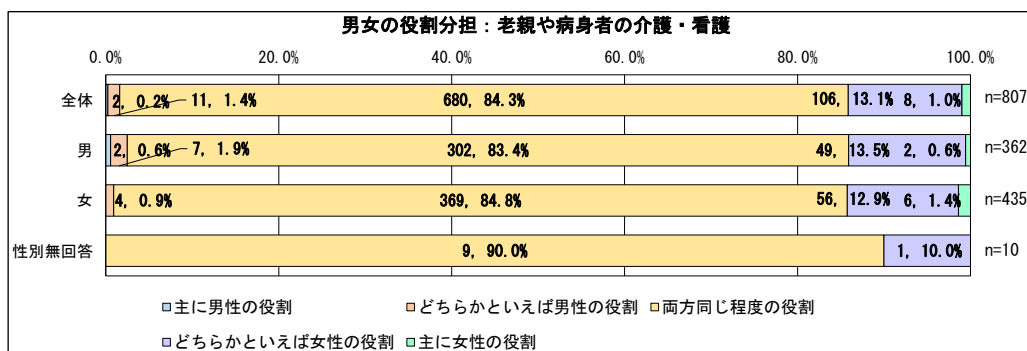
- ・日々の家計を管理するでは、男女ともに「両方同じ程度の割合」が6割前後となっている。
- ・「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計は、男性が33.3%、女性が38.2%と、約5ポイントの差で女性が多くなっている。
- ・1つ前の設問の結果と合わせると、男性が生活費をかせぎ、女性が家計を管理するという役割認識が一定数みられることが分かる。



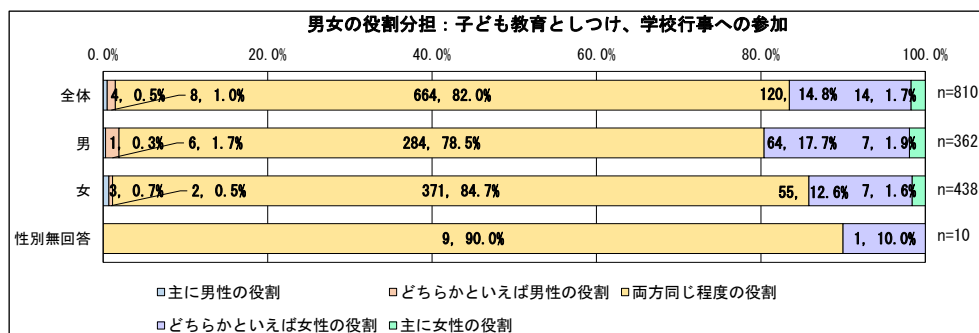
- ・日常の家事では、男女ともに「両方同じ程度の割合」が6割を超えている。
- ・「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計は、男性が37.5%、女性が33.7%と、4ポイントほどの差で男性が多くなっている。



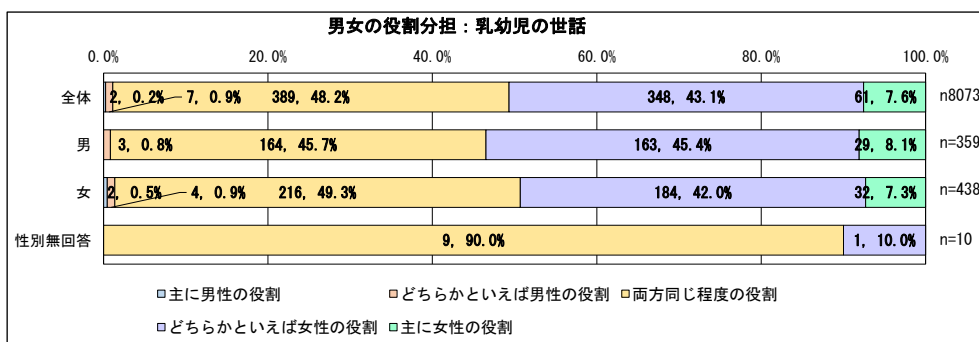
- ・老親や病身者の介護・看護では、男女ともに「両方同じ程度の割合」が6割を超えている。また、性別による偏った役割分担の認識はあまり見られない。



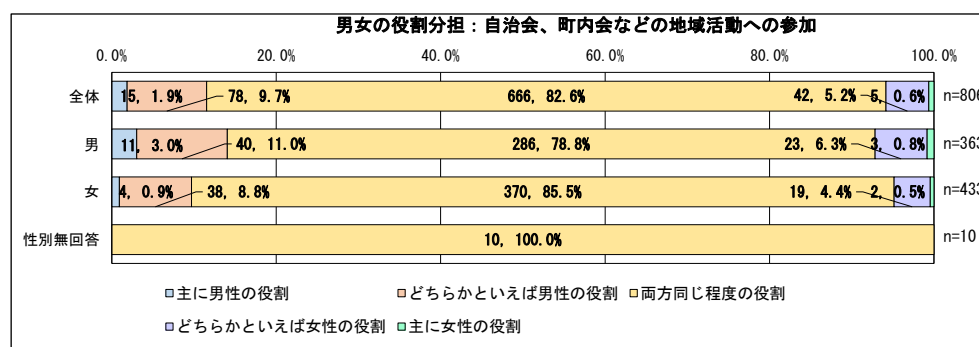
- ・子ども教育としつけ、学校行事への参加では、「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計は、男性が19.6%、女性が14.2%と、5ポイント以上の差で男性が多くなっている。



- ・乳幼児の世話では、「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計は、男性が53.5%、女性が49.3%と、男女ともに5割前後となっている。
- ・性別無回答は、「両方同じ程度の割合」が90.0%と突出した値となっている。
- ・1つ前の設問の結果と合わせると、女性が育児を担当する役割認識が一定数みられることが分かる。

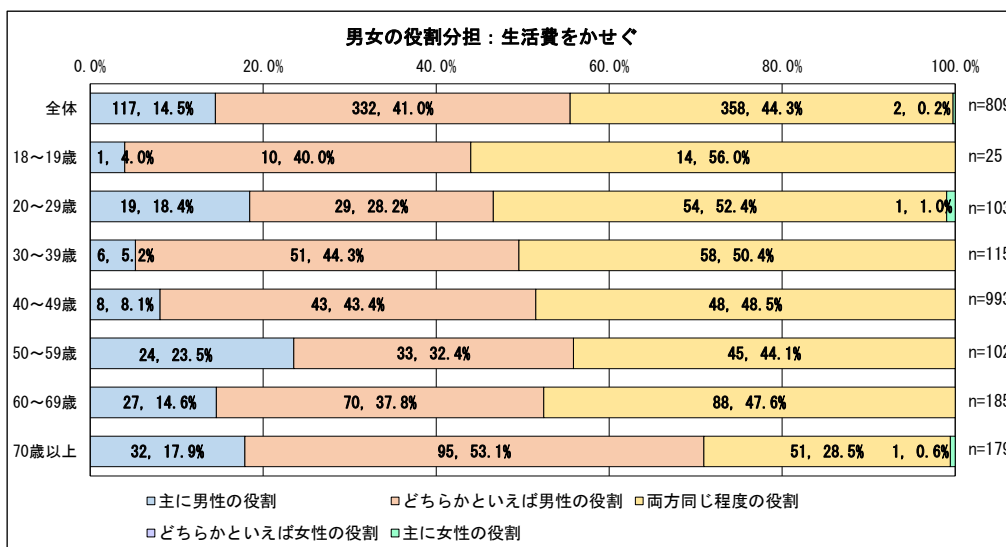


- ・自治会、町内会など地域活動への参加では、男女ともに「両方同じ程度の割合」が8割前後となっている。
- ・「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計は、男性が14.0%、女性が9.7%と、5ポイント以上の差で男性が多くなっている。

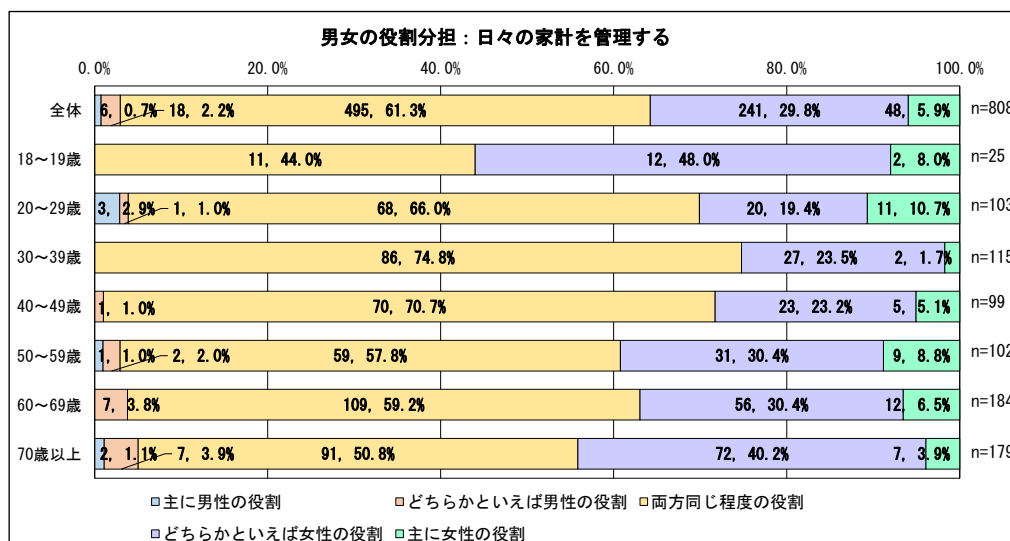


【年代別クロス集計】

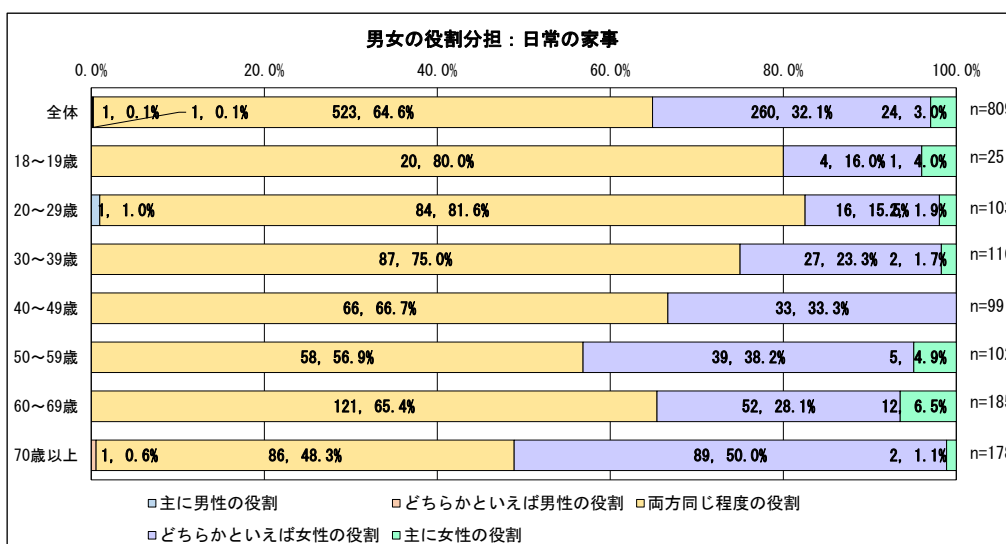
- ・生活費をかせぐでは、「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計は、70歳以上が最も多く70.9%で突出した値で、次いで50～69歳の55.9%となっている。
- ・世代が若くなるにつれて、「男性の役割」という認識が少なくなっている。



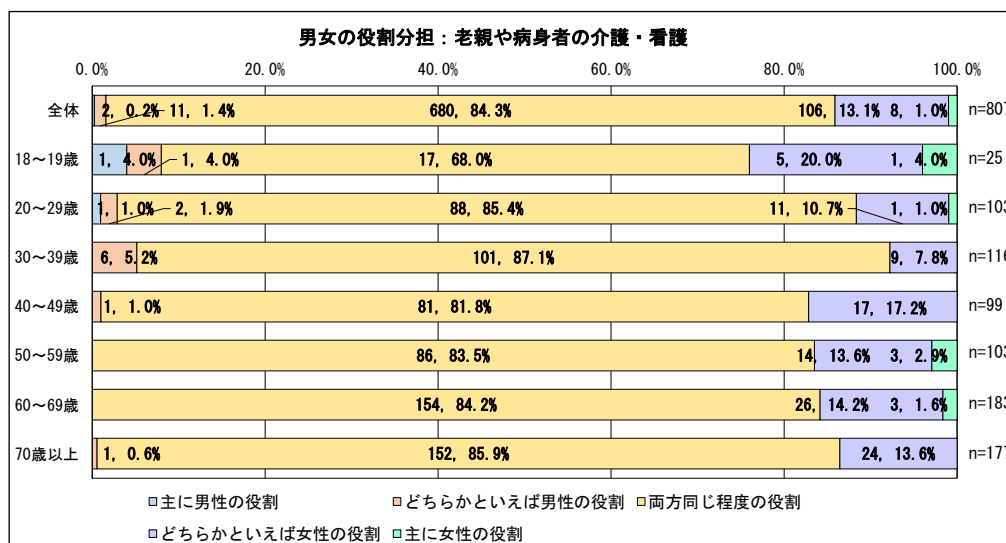
- ・日々の家計を管理するでは、「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計は、18～19歳が最も多く56.0%、次いで70歳以上の44.1%となっている。
- ・「両方同じ程度の割合」は、30～39歳が最も多く74.8%、次いで40～49歳の70.7%とともに、この2つの年代では7割を超えている。



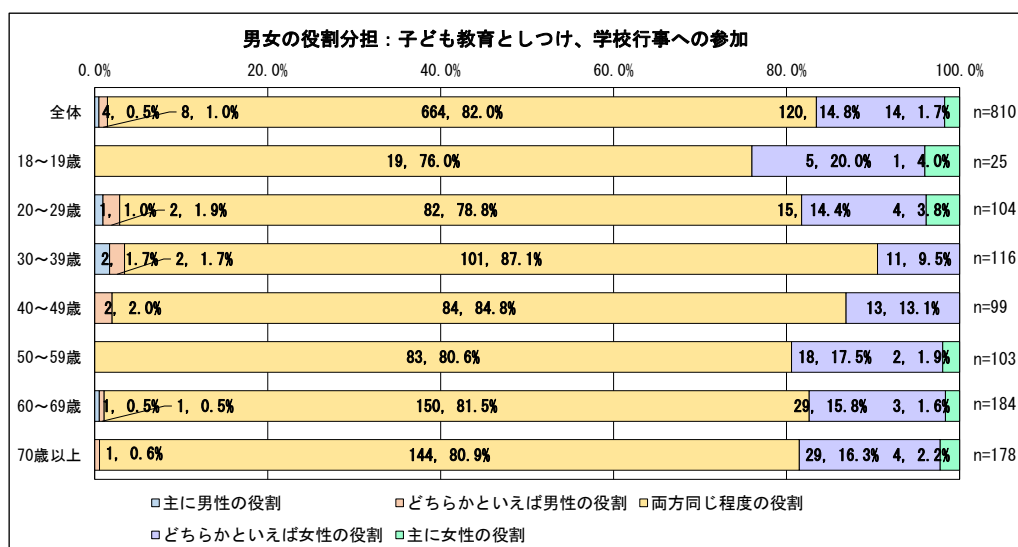
- ・日常の家事では、「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計は、70歳以上が最も多く51.1%と半数を超えており、次いで50～59歳の43.1%となっている。
- ・世代が若くなるにつれて「両方同じ程度の役割」が増え、20～29歳が最も多く81.6%、次いで18～19歳の80.0%とともに、この2つの年代では8割を超えている。



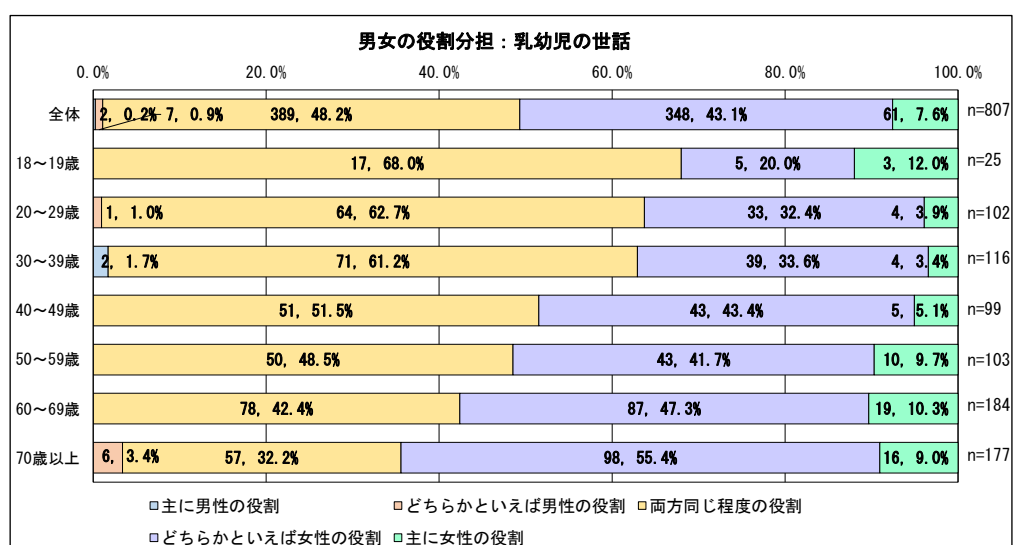
- ・老親や病身者の介護・看護では、「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計は、18～19歳が最も多く24.0%だが、「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計も5.4%と最も多くなっている。
- ・それ以外の世代では「両方同じ程度の役割」が8割以上だが、「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計も、最多で40～49歳の17.2%と一定数みられる。



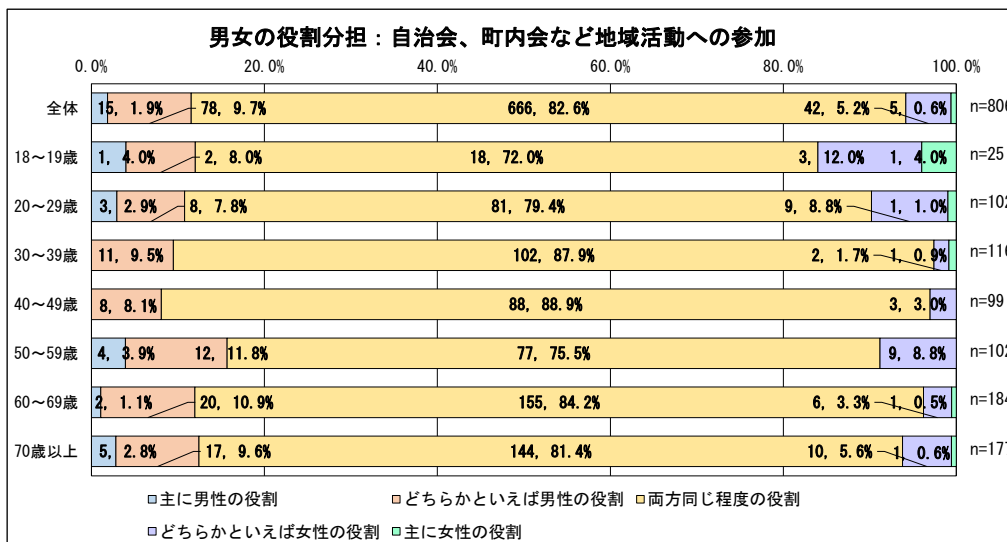
- ・子ども教育としつけ、学校行事への参加では、18～19歳を除いた世代で「両方同じ程度の役割」が8割を超えている。
- ・「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計は、18～19歳が最も多く24.0%、次いで50～59歳の19.4%となっており、「女性の役割」という認識も一定数みられる。



- ・乳幼児の世話では、「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計は、70歳以上が最も多く64.4%、次いで60～69歳の58.0%となっている。
- ・世代が若くなるにつれて「両方同じ程度の役割」が増え、18～19歳が最も多く68.0%となっているが、その世代でも「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計は32.0%であり、「女性の役割」という認識がかなり多いことが分かる。



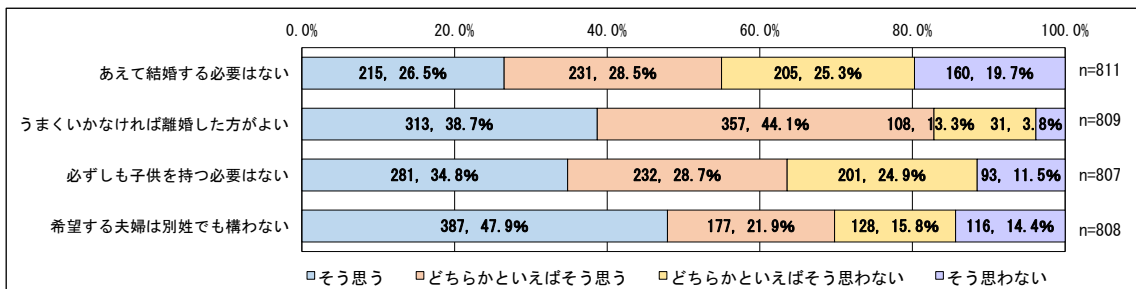
- 自治会、町内会など地域活動への参加では、どの世代も「両方同じ程度の割合」が7割を超え、最も多いのは40～49歳の88.9%となっている。また、「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計も、1割前後みられる。
- 「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計は、18～19歳が最も多く13.4%、次いで20～29歳の9.8%と、「女性の役割」という認識が若い世代で多くなっている。



3. 結婚に対する意識について

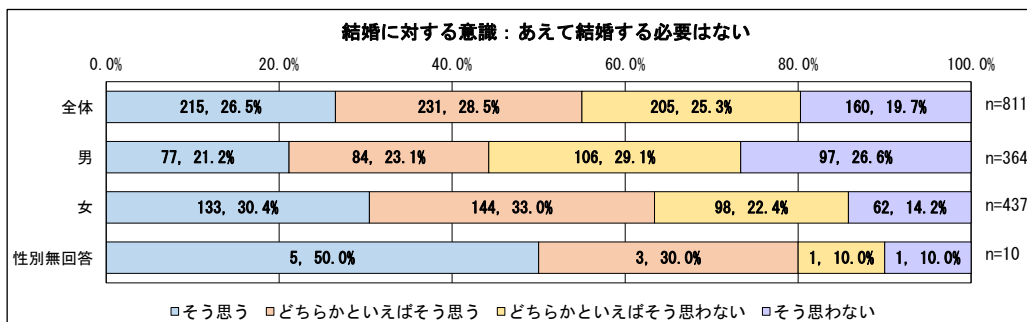
問10 あなたのお考えに近いものを選んでください

- ・「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、考え方は「うまくいかなければ離婚した方がよい」が82.8%と最も多く、8割を超えている。
- ・「そう思う」だけを見ると、「希望する夫婦は別姓でも構わない」が47.9%と最も多く、約半数は選択的夫婦別姓について肯定的に考えている。

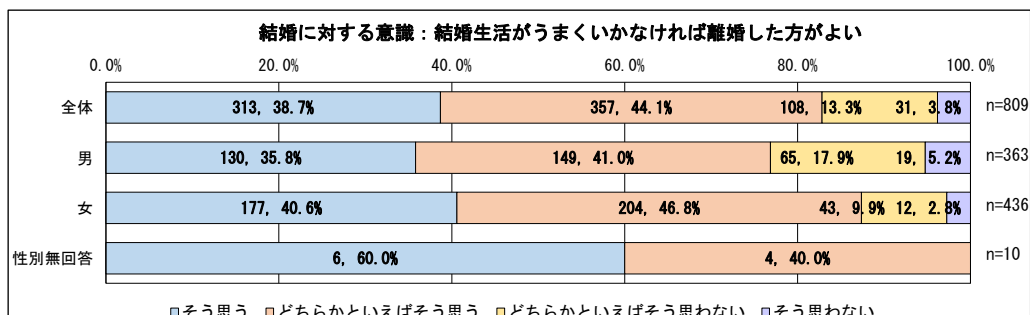


【男女別クロス集計】

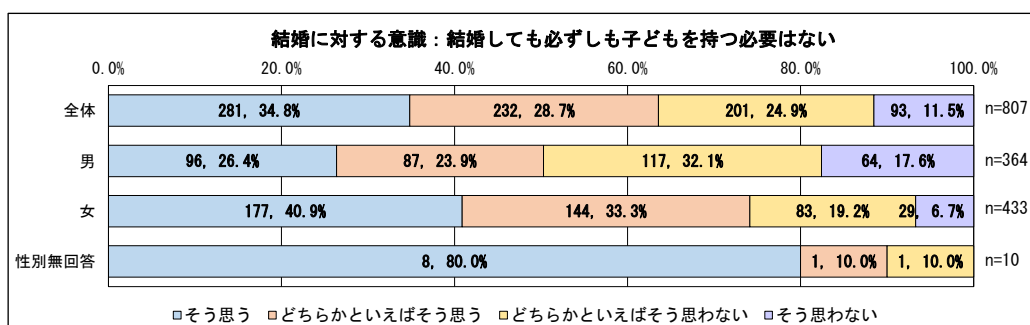
- ・あえて結婚する必要はないでは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、男性が44.2%、女性が63.0%と、18ポイント以上の差で女性がかなり多くなっている。また、性別無回答は80.0%と、さらに割合が多くなっている。



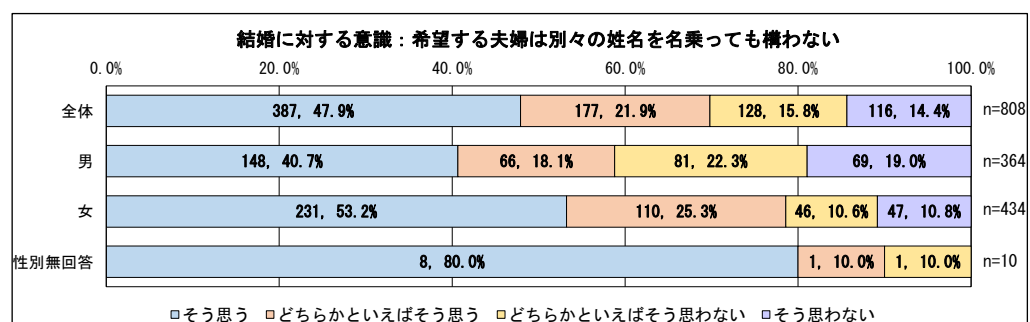
- 結婚生活がうまくいかなければ離婚した方がよいでは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、男性が76.8%、女性が87.4%と、男女ともに7割以上あるが、10ポイント程度の差で女性が多くなっている。



- 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はないでは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、男性が50.3%、女性が74.2%と、20ポイント以上の差で女性がかかなり多くなっている。

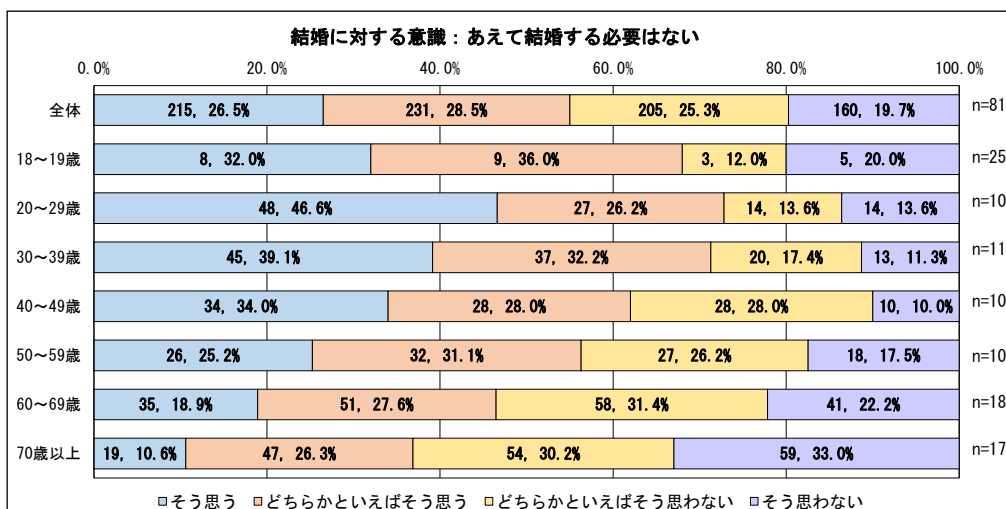


- 希望する夫婦は別々の姓名を名乗っても構わないでは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、男性が58.8%、女性が78.5%と、20ポイント弱の差で女性がかかなり多くなっている。

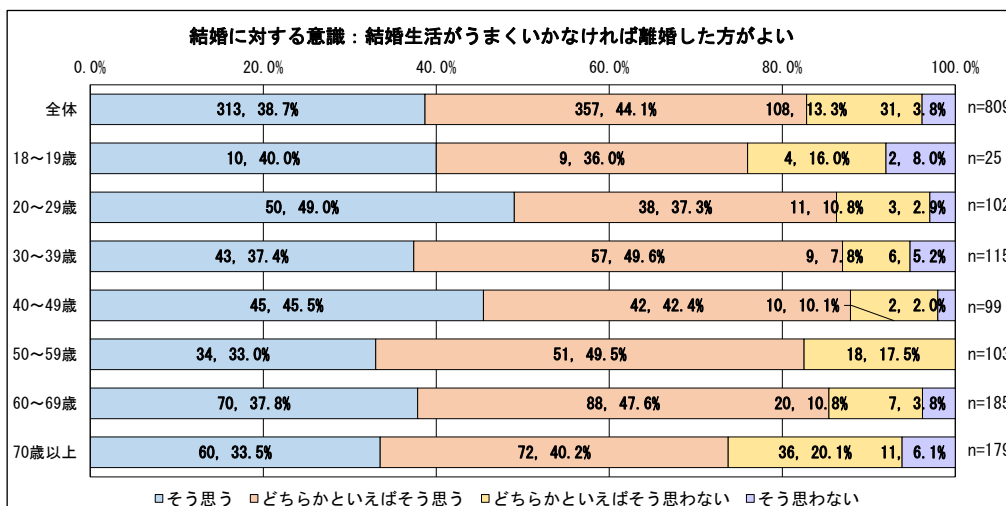


【年代別クロス集計】

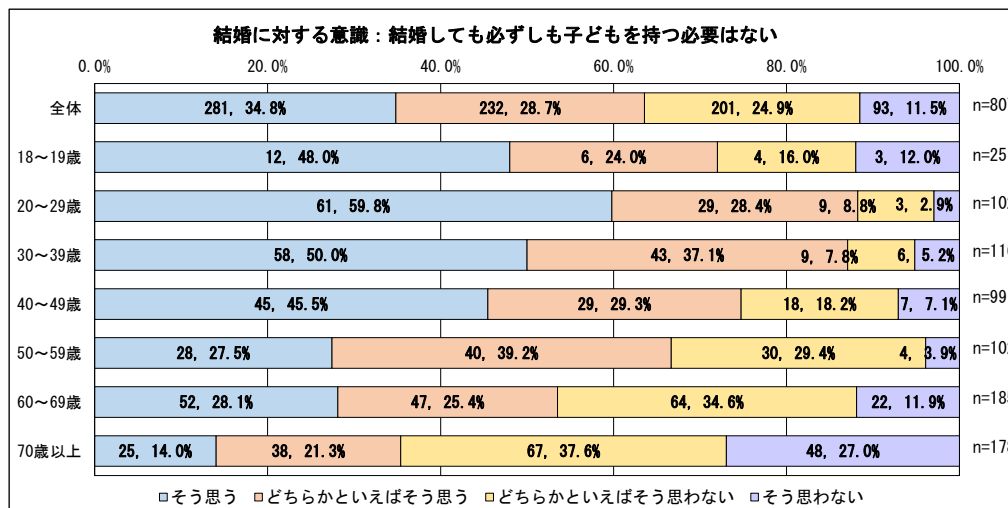
- ・あえて結婚する必要はないでは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、20～29歳が最も多く72.8%、次いで30～39歳の71.3%で、それ以降は世代があがるにつれて割合が少なくなっている。



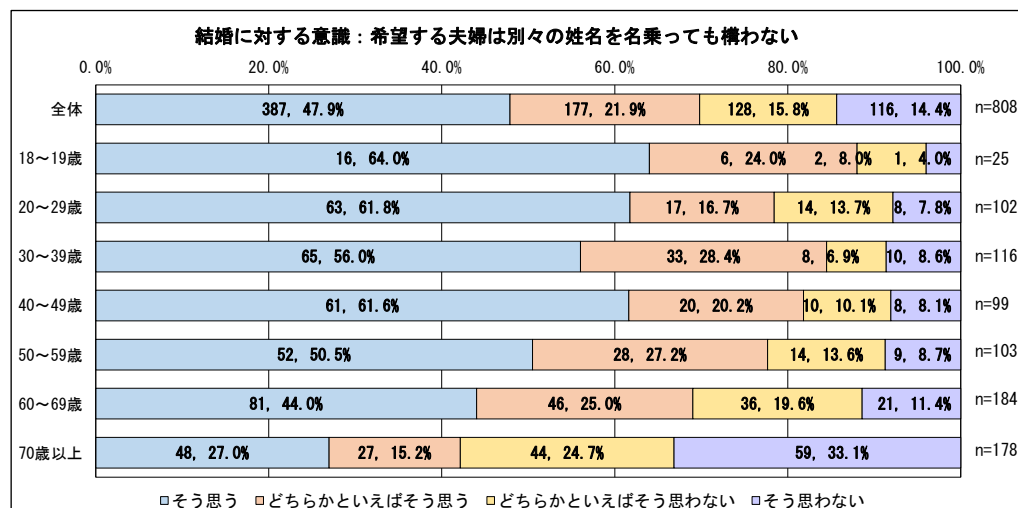
- ・結婚生活がうまくいかなければ離婚した方がよいでは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、40～49歳が最も多く87.9%、次いで30～39歳の87.0%となっており、どの年代も「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は7割を超えている。



- ・結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はないでは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、20～29歳が最も多く88.2%、次いで30～39歳の87.1%となっている。
- ・70歳以上のみ、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計が64.6%と突出した値となっている。



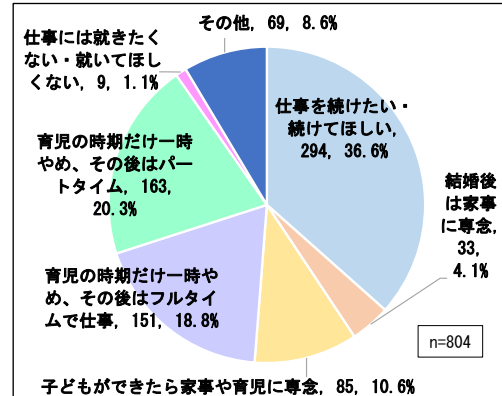
- ・希望する夫婦は別々の姓名を名乗っても構わないでは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、18～19歳が最も多く88.0%、次いで30～39歳の84.4%となっている。
- ・70歳以上のみ、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計が57.8%と突出した値となっている。



4. 仕事に対する意識について

問 11 女性が仕事をするかどうかについてどう思われますか

- ・「結婚や出産に関わらず仕事を続けたい・続けてほしい」が36.6%と最も多く、次いで「育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けたい・続けてほしい」が20.3%、「育児の時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けたい・続けてほしい」が18.8%となっている。
- ・女性の就労については、3/4以上が「続けたい・続けてほしい」という回答であった

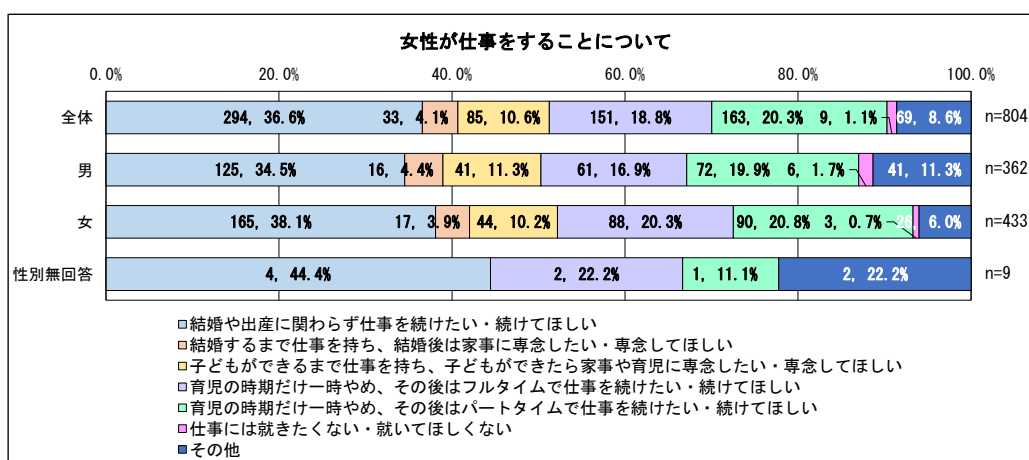


【主なその他回答】

- ・個人の自由 ・個人の事情、希望による ・本人の意思次第
- ・状況により仕事をする、しないは決めたい
- ・女性の意志で決めるべきであり、男性が意見することではないなど

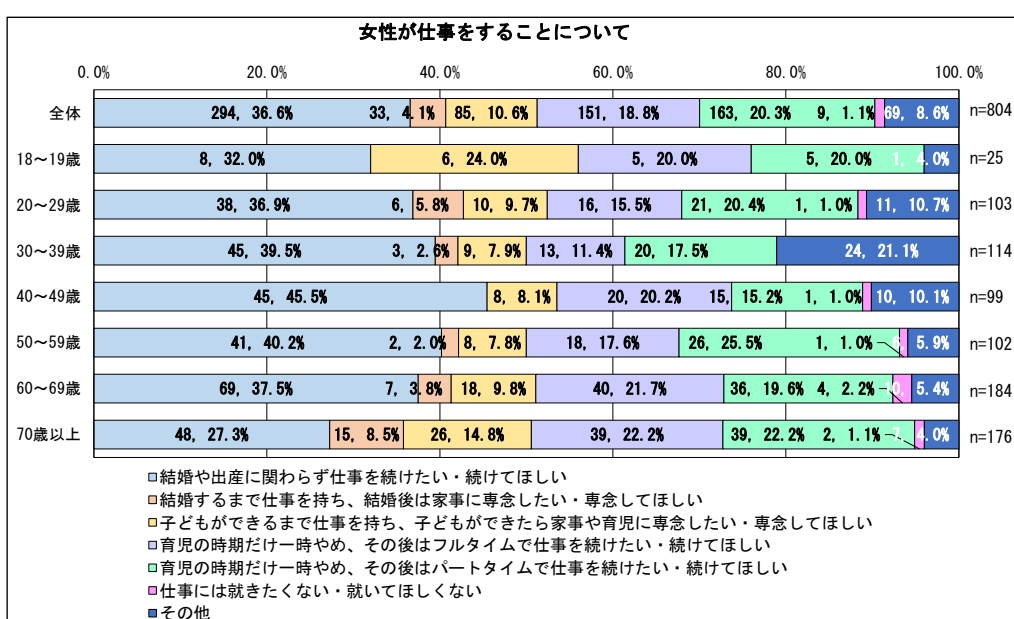
【男女別クロス集計】

- ・「結婚や出産に関わらず仕事を続けたい・続けてほしい」は、男性が34.5%、女性が38.1%と、男女ともに1/3を超えている。
- ・「育児の時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けたい・続けてほしい」は、男性が16.9%、女性が20.3%となっている。
- ・「育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けたい・続けてほしい」は、男性が71.3%、女性が20.8%となっている。
- ・この3つの項目を足した女性の就労については、男性が71.3%、女性が79.2%で、「続けたい・続けてほしい」という回答はともに7割を超えているが、8ポイント程度の差で女性が多くなっている。



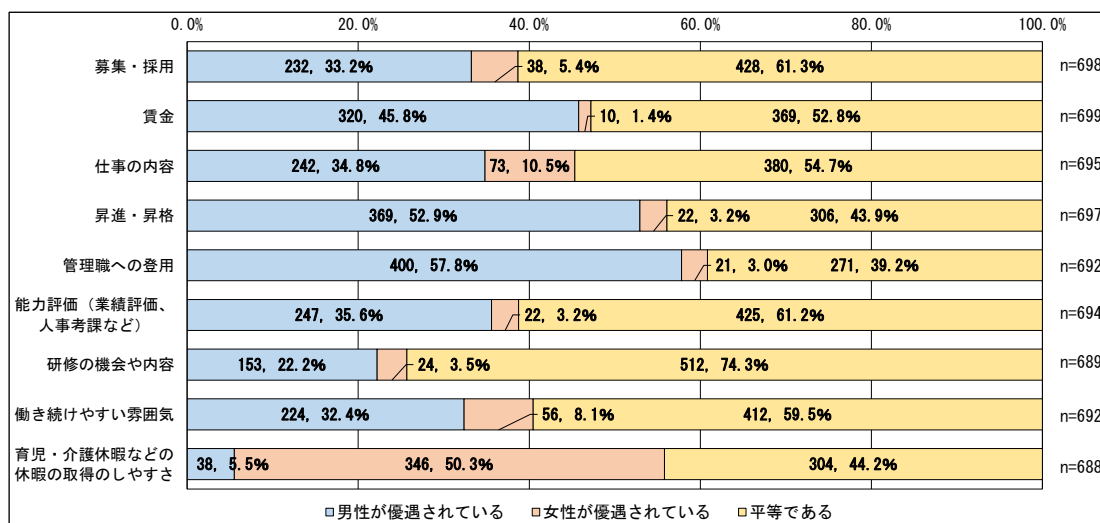
【年代別クロス集計】

- ・「結婚や出産に関わらず仕事を続けたい・続けてほしい」は、40～49歳が最も多く45.5%、次いで50～59歳の40.2%となっている。
- ・「育児の時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けたい・続けてほしい」は、70歳以上が最も多く22.2%、次いで60～69歳の21.7%となっている。
- ・「育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けたい・続けてほしい」は、50～59歳が最も多く25.5%、次いで70歳以上の22.2%となっている。
- ・この3つの項目を足した女性の就労については、最多が50～59歳の83.3%、最少が30～39歳の58.8%で、少なくとも6割近くが「続けたい・続けてほしい」という回答であった。



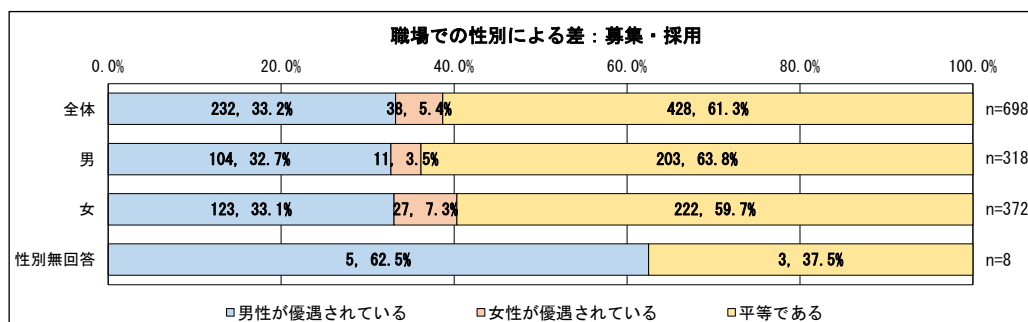
問 12 今の職場で性別によって差があると思いますか

- ・「男性が優遇されている」が最も多い項目は「管理職への登用」で57.8%、次いで「昇進・昇格」が52.9%であり、この2つは半数を超えている。
- ・「女性が優遇されている」が最も多い項目は「育児・介護休暇などの休暇の取得のしやすさ」で50.3%、次いで「仕事の内容」が10.5%となっている。その他の項目では1ケタ%台と少ない。
- ・「男性が優遇されている」項目がほとんどのなか、「育児・介護休暇などの休暇の取得のしやすさ」に限っては、5.5%と極めて少なくなっている。

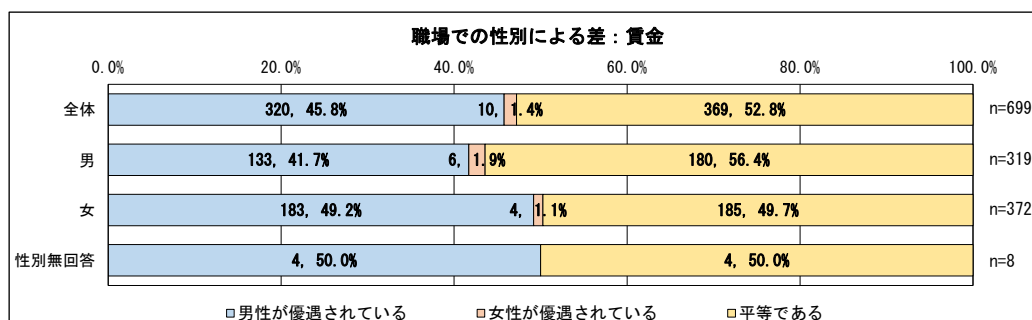


【男女別クロス集計】

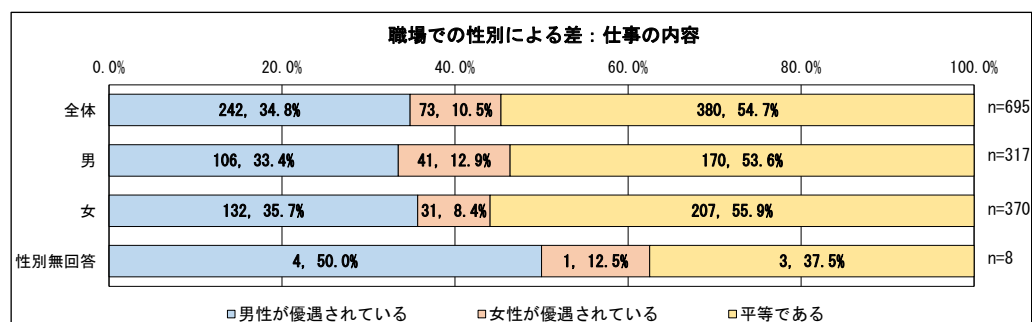
- ・募集・採用では、「男性が優遇されている」は、男性が32.7%、女性が33.1%と、ほとんど差はみられないが、性別無回答は62.5%と突出した値となっている。



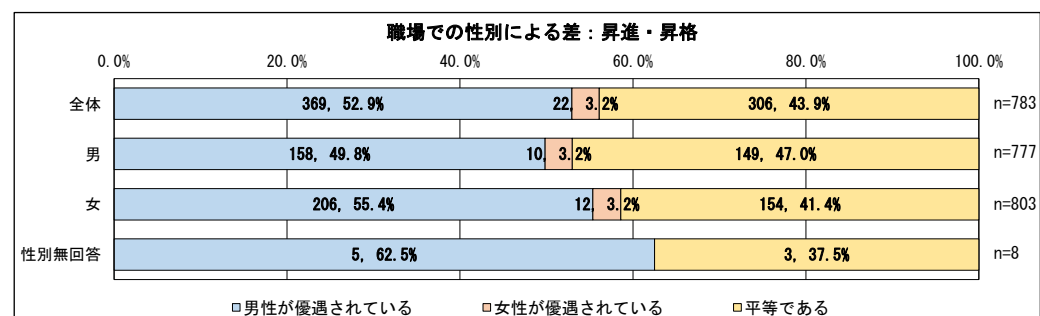
- ・賃金では、「男性が優遇されている」は、男性が41.7%、女性が49.2%と、7ポイント以上の差で女性が多くなっている。



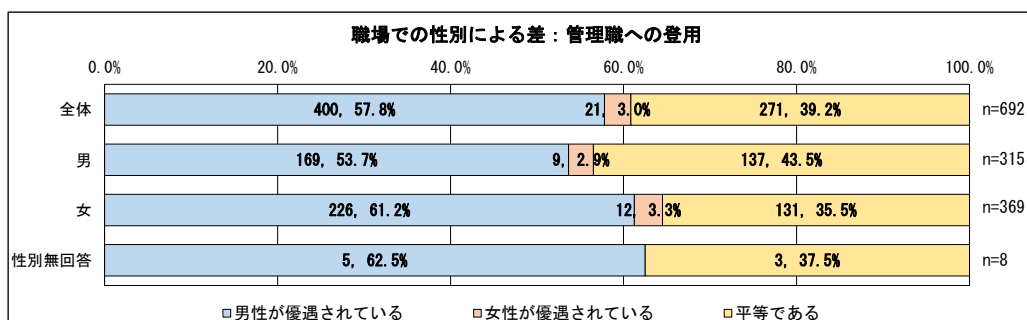
- ・仕事の内容では、「男性が優遇されている」は、男性が33.4%、女性が35.7%と、あまり差はみられないが、性別無回答は50.0%と突出した値となっている。
- ・「女性が優遇されている」は、男性が12.9%、女性が8.4%と、4ポイント以上の差で男性が多くなっている。



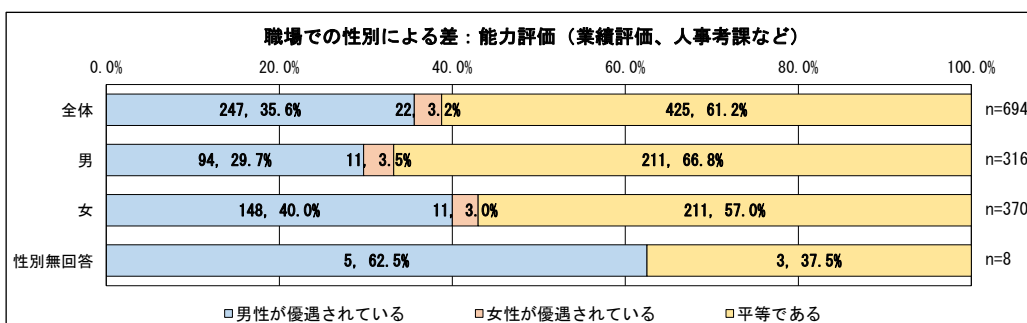
- ・昇進・昇格では、「男性が優遇されている」は、男性が49.8%、女性が55.4%と、5ポイント以上の差で女性が多くなっている。



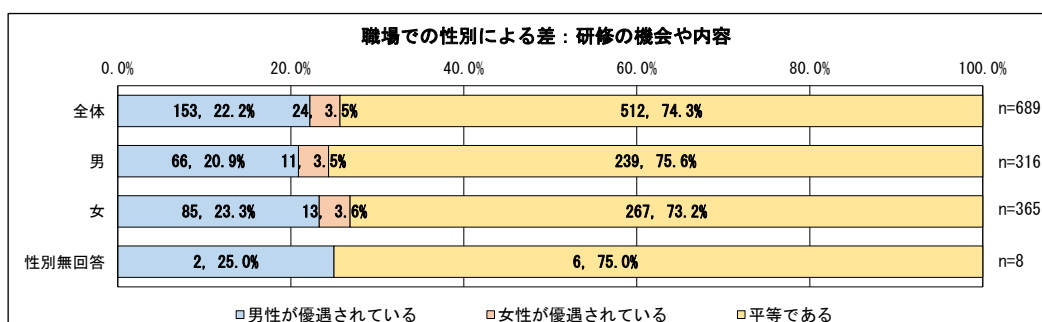
- 管理職への登用では、「男性が優遇されている」は、男性が 53.7%、女性が 61.2%と、7ポイント以上の差で女性が多くなっている。



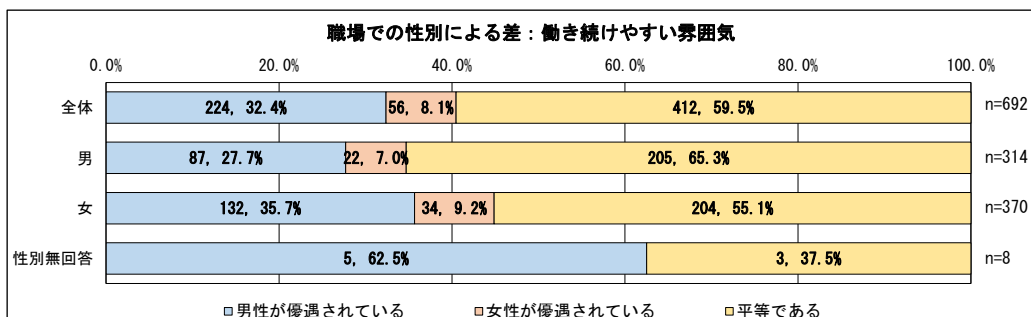
- 能力評価（業績評価、人事考課など）では、「男性が優遇されている」は、男性が 29.7%、女性が 40.0%と、10ポイント以上の差で女性が多くなっている。また、性別無回答は 62.5%と突出した値となっている。



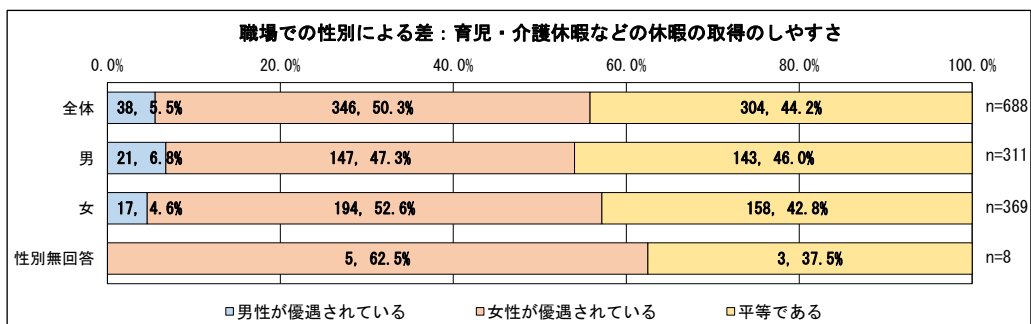
- 研修の機会や内容では、「男性が優遇されている」は、男性が 20.9%、女性が 23.3%と、あまり差はみられない。



- ・働き続けやすい雰囲気では、「男性が優遇されている」は、男性が27.7%、女性が35.7%と、8ポイントの差で女性が多くなっている。また、性別無回答は62.5%と突出した値となっている。



- ・育児・介護休暇などの休暇の取得のしやすさでは、「女性が優遇されている」は、男性が47.3%、女性が52.6%と、5ポイント以上の差で女性が多くなっている。
- ・「男性が優遇されている」項目がほとんどのなか、「育児・介護休暇などの休暇の取得のしやすさ」に限っては、「男性が優遇されている」は、男性が6.8%、女性が4.6%と極めて少なくなっている。



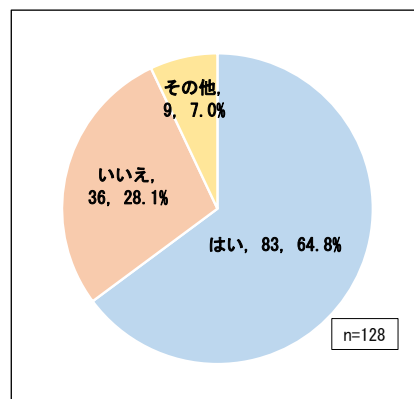
問13 あなたは今後働きたいとお考えですか

(64歳以下で、現在、家事専業または無職の方(学生は除く)と回答した方が対象の設問)

・「はい」が64.8%と、おおよそ2/3となっている。

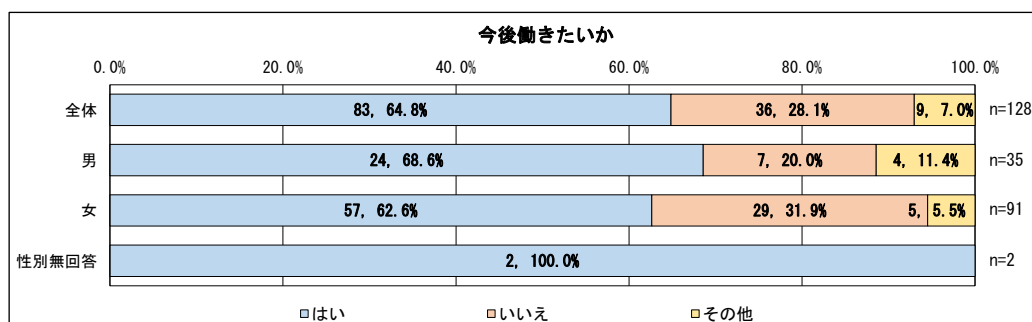
【主なその他回答】

- ・健康上の理由で良い職場が見つからない
- ・自分の時間を優先して検討している
- ・妊娠中のため
など



【男女別クロス集計】

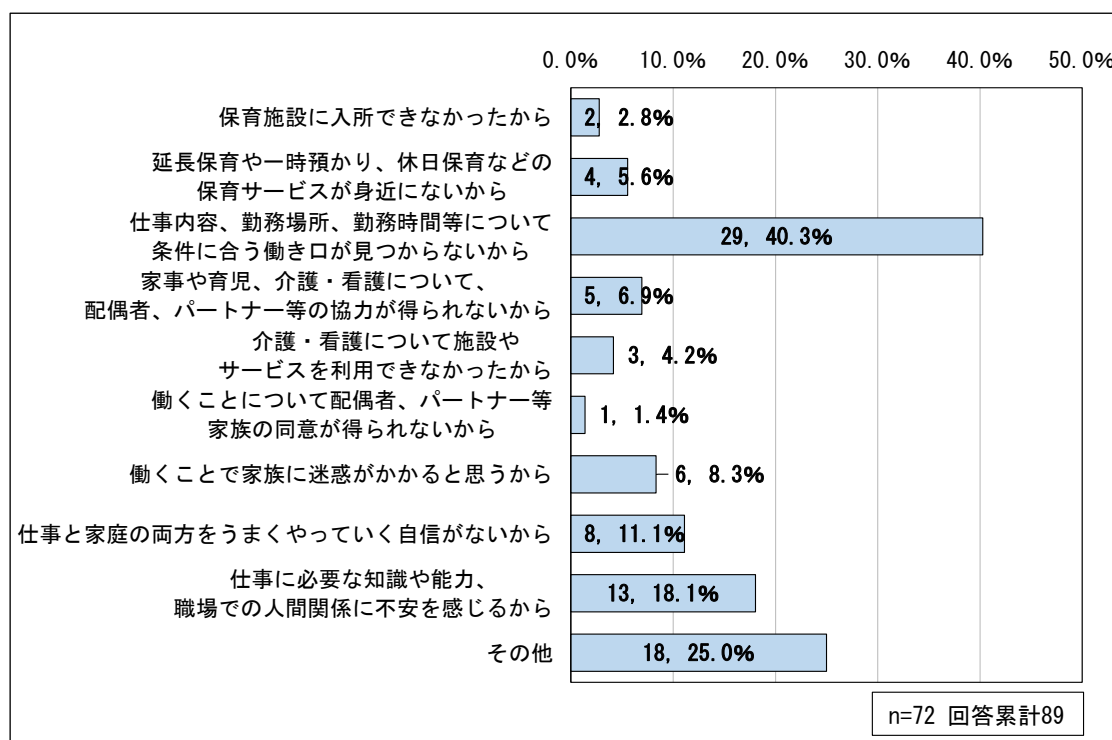
- ・「はい」は、男性が68.6%、女性が62.6%と、ともに6割を超えている。
- ・「いいえ」は、男性が20.0%、女性が31.9%と、10ポイントの差で女性が多くなっている。



問 13-1 今後は働きたいけれども、現在働くことができない理由は何ですか（複数回答）

（問 13 で「はい」と回答した方が対象の設問）

・「仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないから」が 40.3%と最も多く、次いで「その他」が 25.0%、「仕事に必要な知識や能力、職場での人間関係に不安を感じるから」が 18.1%となっている。

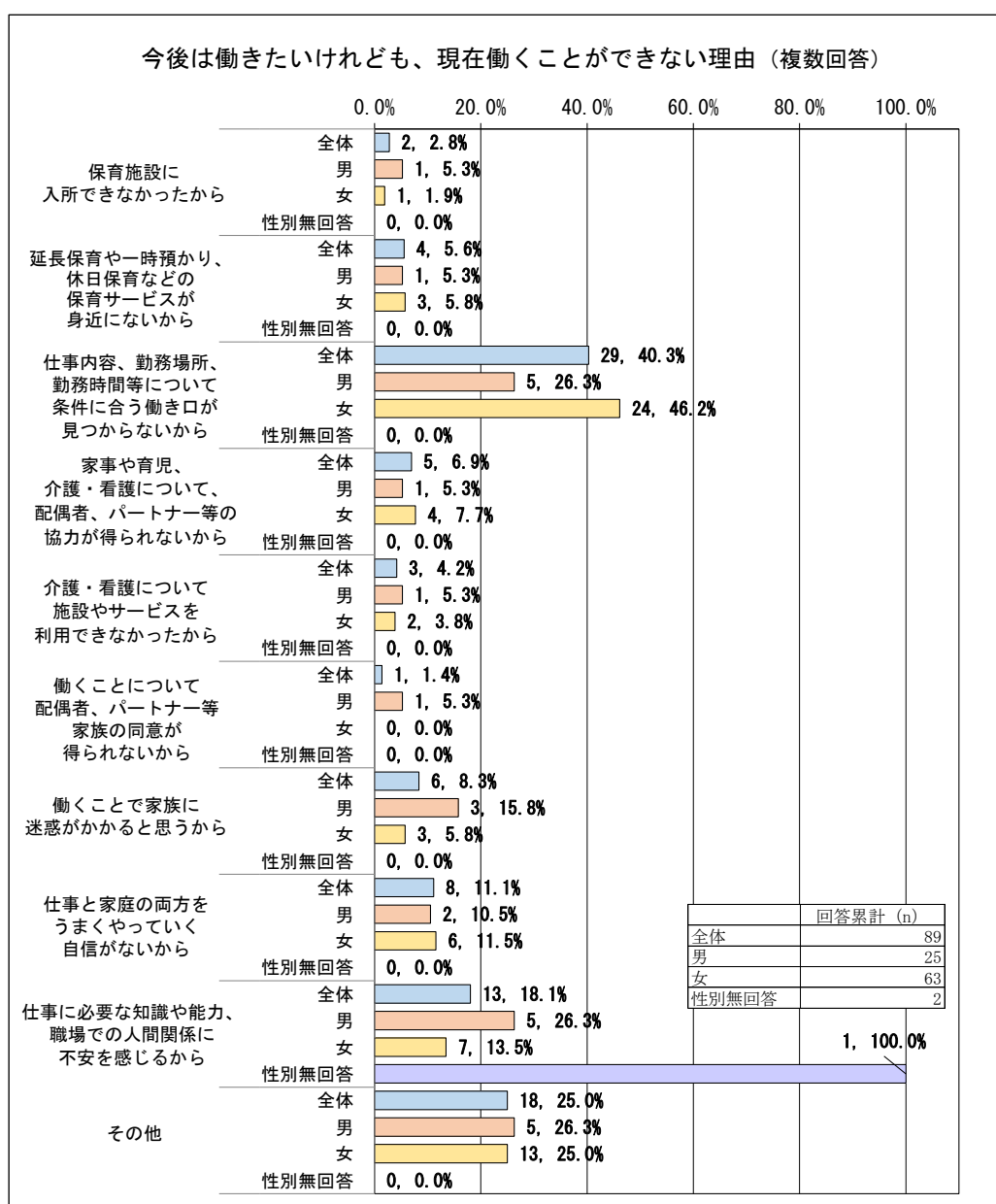


【主なその他回答】

- ・体調が良くない ・健康上の理由 ・体力に自信がない
- ・学生だから ・受験生
- ・今は子どもとの時間を最優先したいから
- ・親の介護や看護を考えると、働くと時間に自由がなくなるから
など

【男女別クロス集計】

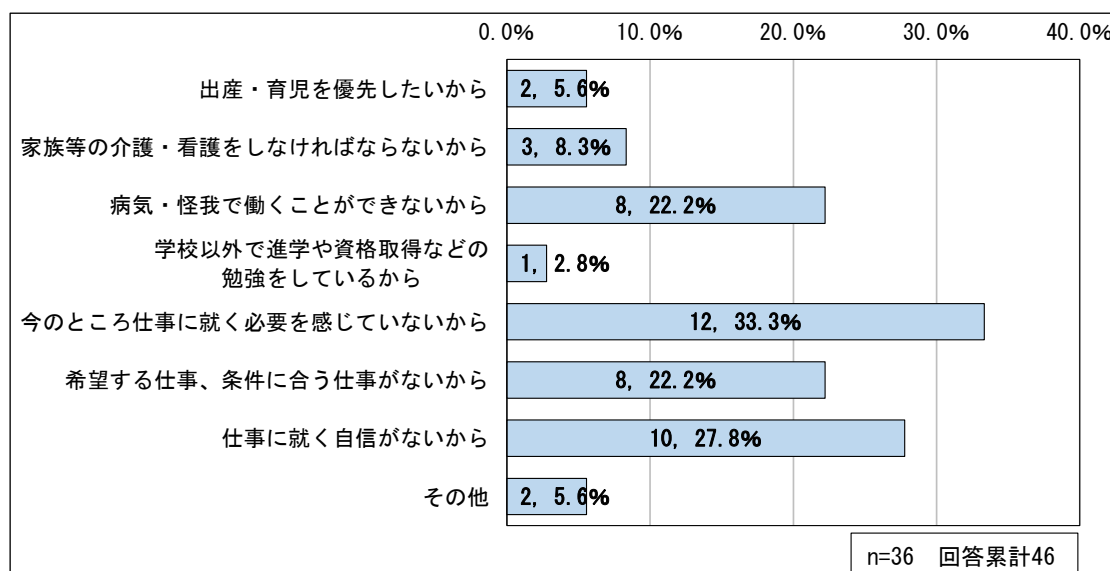
- ・「仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないから」は、男性が26.3%、女性が46.2%と、最多の20ポイント程度の差で女性がかかなり多くなっている。
- ・「仕事に必要な知識や能力、職場での人間関係に不安を感じるから」は、男性が26.3%、女性が13.5%、「働くことで家族に迷惑がかかると思うから」は、男性が15.8%、女性が5.8%と、ともに10ポイント以上の差で男性がかかなり多くなっている。
- ・「仕事と家庭の両方をうまくやっていく自信がないから」も、男性：10.5%、女性11.5%と、男女ともに1割以上が回答している。



問 13-2 「いいえ」と回答した理由は何ですか（複数回答）

（問 13 で「いいえ」と回答した方が対象の設問）

- ・「今のところ仕事に就く必要を感じていないから」が 33.3%と最も多く、次いで「仕事に就く自信がないから」が 27.8%、「病気・怪我で働くことができないから」と「希望する仕事、条件に合う仕事がないから」が同率で 22.2%となっている。

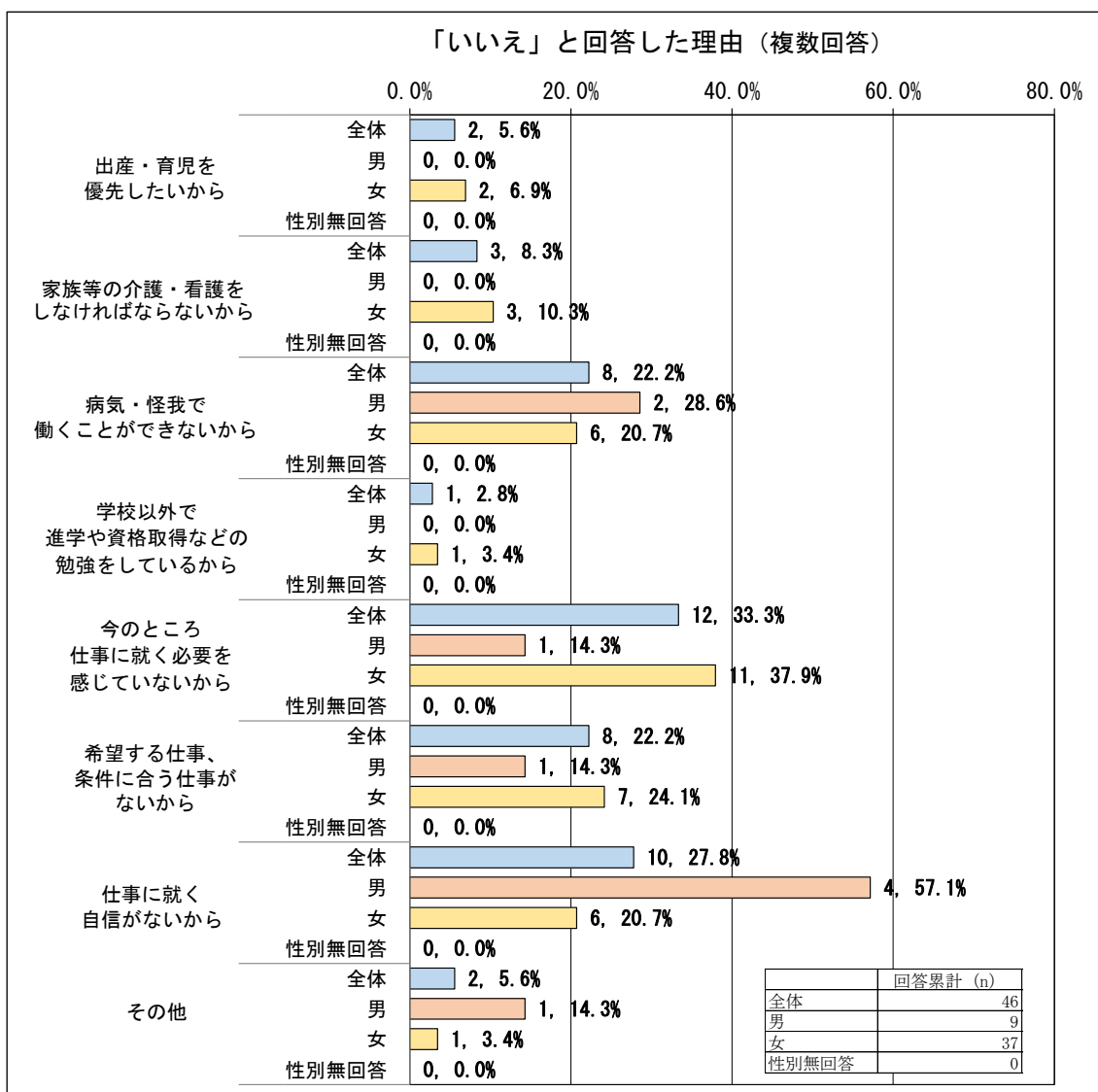


【その他回答】

- ・家の仕事（農業）をしたいので
- ・仕事よりも残りの時間でやりたいことが多くあるから

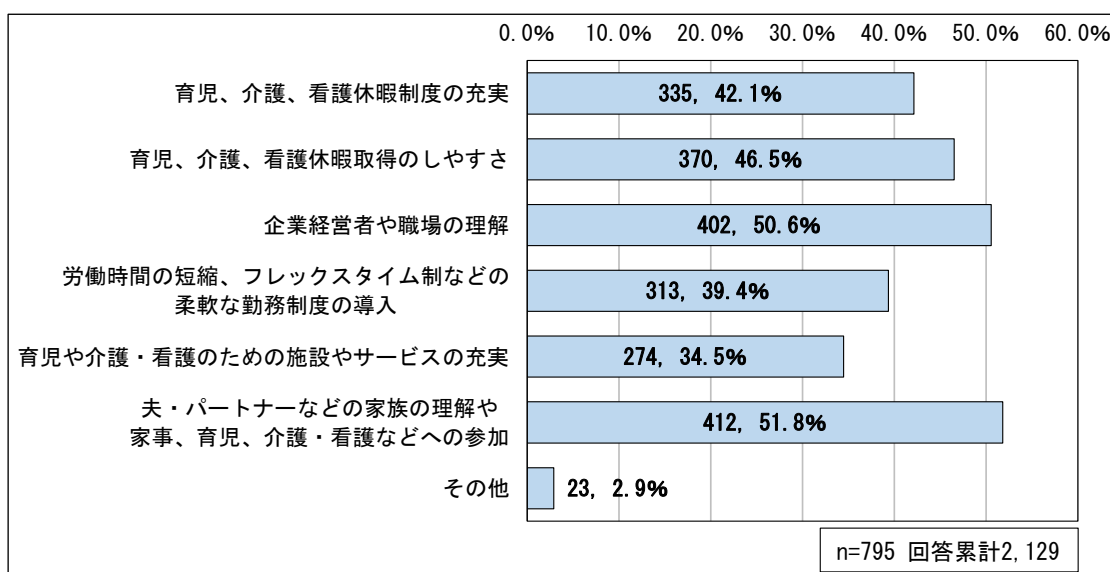
【男女別クロス集計】

- ・「仕事に就く自信がないから」は、男性が 57.1%、女性が 20.7%と、最多の 36 ポイント以上の差で男性が圧倒的に多くなっている。また、「病気・怪我で働くことができないから」も、男性が 28.6%、女性が 20.7%と、8 ポイント程度の差で男性が多くなっている。
- ・一方、「今のところ仕事に就く必要を感じていないから」は、男性が 14.3%、女性が 37.9%と、23 ポイント以上の差で女性がかかり多くなっている。
- ・また、「家族等の介護・看護をしなければならないから」は、男性が 0.0%、女性が 10.3%、「出産・育児を優先したいから」は、男性が 0.0%、女性が 6.9%と、「介護・看護」、「出産・育児」が女性の就労への障壁となっていることが分かる。



問 14 出産、育児、介護・看護などの理由で女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか（回答は3つまで）

- ・「夫・パートナーなどの家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加」が51.8%と最も多く、次いで「企業経営者や職場の理解」が50.6%と、この2つの項目は半数を超えている。
- ・「育児、介護、看護休暇取得のしやすさ（46.5%）」や「育児、介護、看護休暇制度の充実（42.1%）」から、各種の制度やその運用についても、4割以上が必要と考えている。

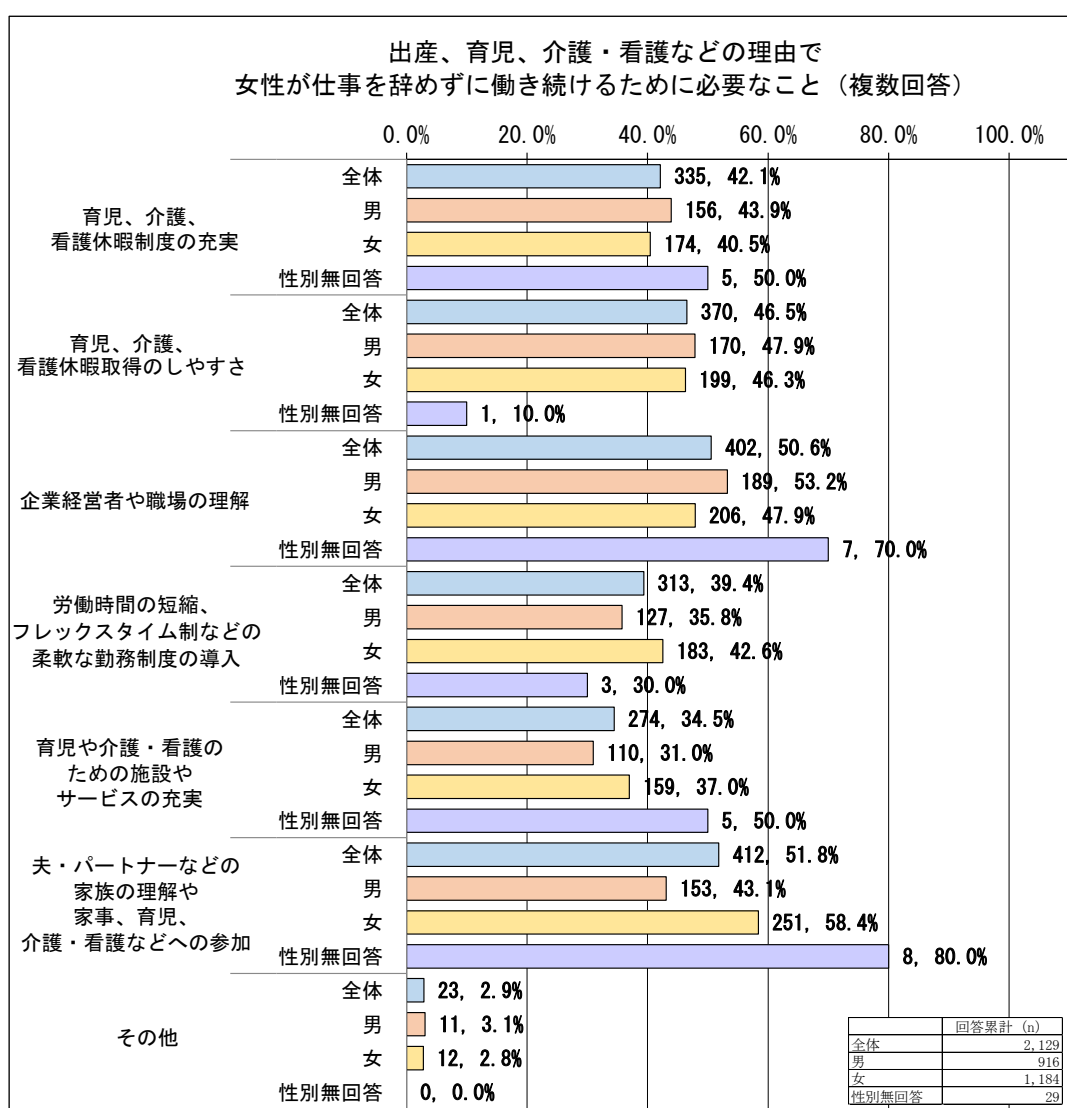


【主なその他回答】

- ・男性の重労働の軽減（転勤含む）
 - ・夫の職場の制度の見直し
 - ・保育園に入れられないと働けない
 - ・基本的には夫婦であれば平等に協力
 - ・企業に求めるのではなく、国が制度を決めることが大切。
- など

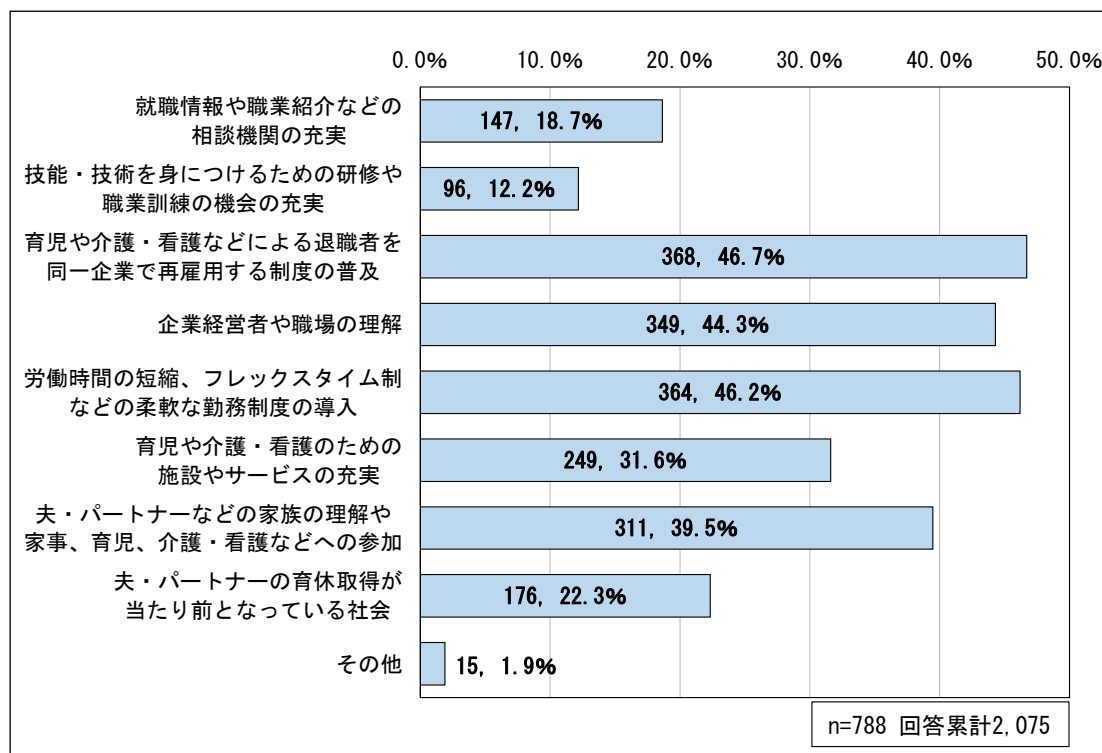
【男女別クロス集計】

- ・「夫・パートナーなどの家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加」は、男性が43.1%、女性が58.4%と、最多の15ポイント以上の差で女性がかかり多くなっている。
- ・「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」は、男性が35.8%、女性が42.6%と、7ポイント程度の差で女性が多くなっている。
- ・「育児、介護、看護休暇取得のしやすさ（男性：47.9%、女性46.3%）」や「育児、介護、看護休暇制度の充実（男性43.9%、女性：40.5%）」は、男女ともに4割以上が必要と考えている。



問 15 出産、育児、介護・看護などで仕事を辞めた後、再就職を希望する女性が再就職しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか（回答は3つまで）

・「育児や介護・看護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」が46.7%と最も多く、次いで「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」が46.2%、「企業経営者や職場の理解」が44.3%となっている。

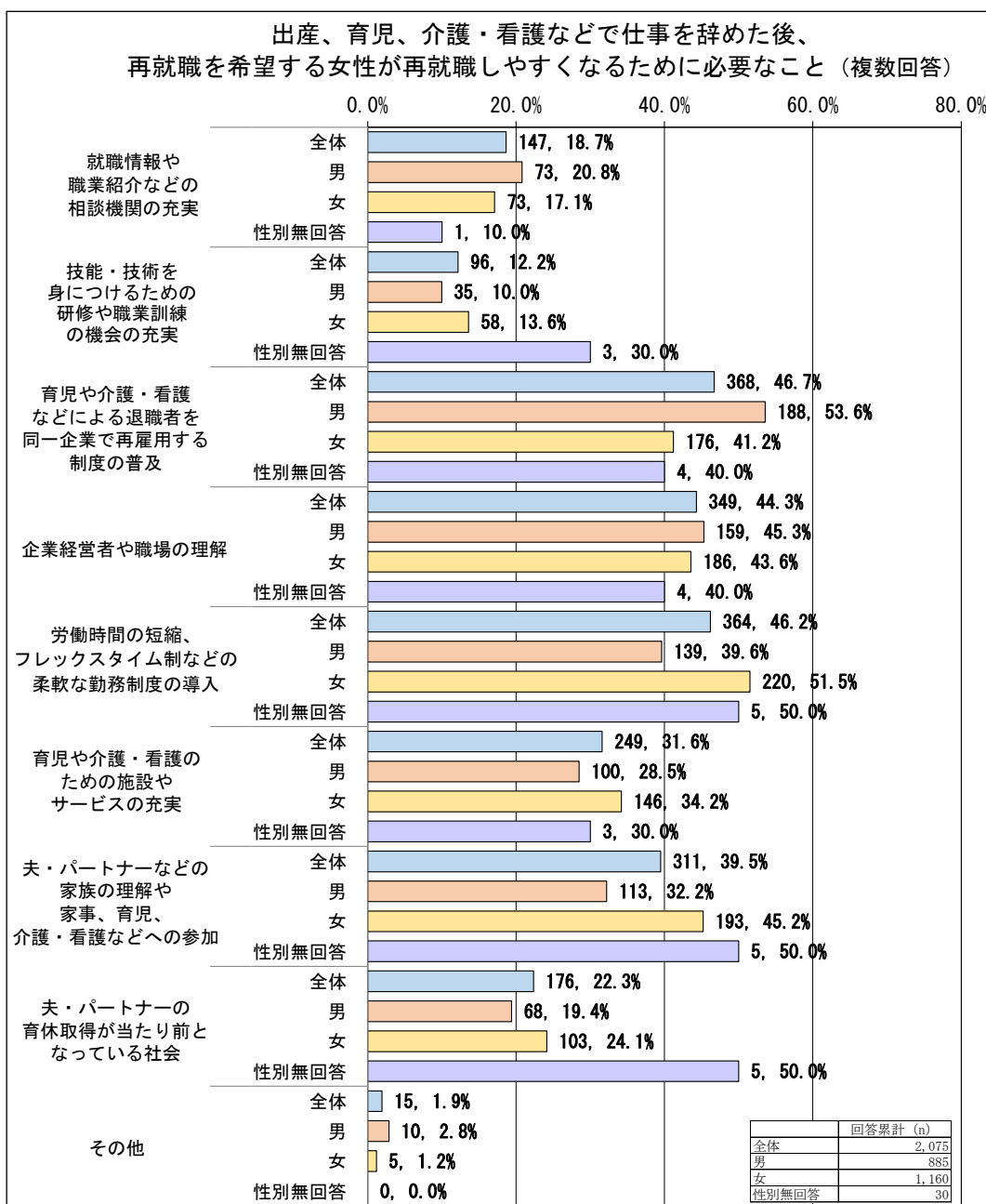


【主なその他回答】

- ・再就職しやすい企業側の環境 ・女性だけの問題ではない
- ・再就職に必要な能力
- ・育児・介護・看護の経験も、1つのキャリアと見なして評価する風潮が出来ること。
など

【男女別クロス集計】

- ・「夫・パートナーなどの家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加」は、男性が32.2%、女性が45.2%と、最多の13ポイントの差で女性がかかなり多くなっている。
- ・「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」も、男性が39.6%、女性が51.5%と、12ポイント弱の差で女性がかかなり多くなっている。
- ・一方、「育児や介護・看護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」は、男性が53.6%、女性が41.2%と、12ポイント以上の差で男性がかかなり多くなっている。

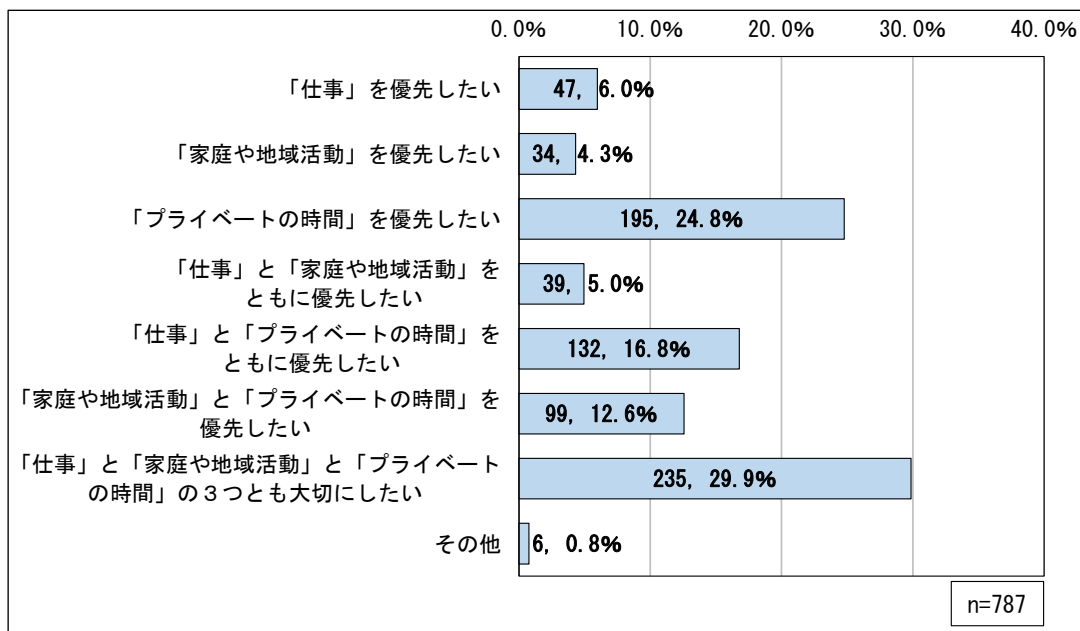


5. 「仕事」「家庭や地域活動」「プライベートの時間」の関わり方について

問 16 生活の中で「仕事」、「家庭や地域活動」、「プライベートの時間」で何を優先しますか

(1) 希望として

- ・優先したいと希望する項目は、「「仕事」と「家庭や地域活動」と「プライベートの時間」の3つとも大切にしたい」が29.9%と最も多く、次いで「「プライベートの時間」を優先したい」が24.8%、「「仕事」と「プライベートの時間」をともに優先したい」が16.8%となっている。
- ・これらの結果から、「プライベートの時間」を優先したい希望が多いことが分かる。

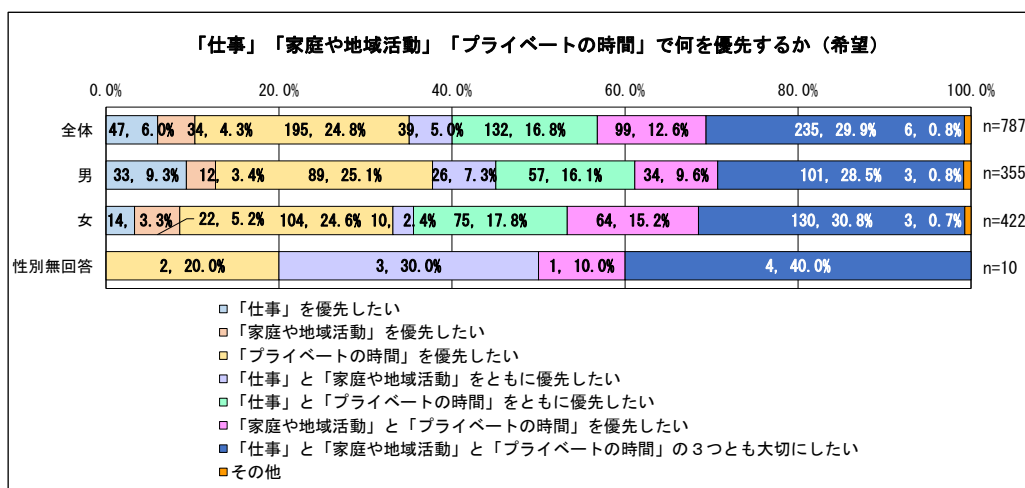


【主なその他回答】

- ・無職で設問に該当なし
- ・事の重大性により、優先順位は変わる。
など

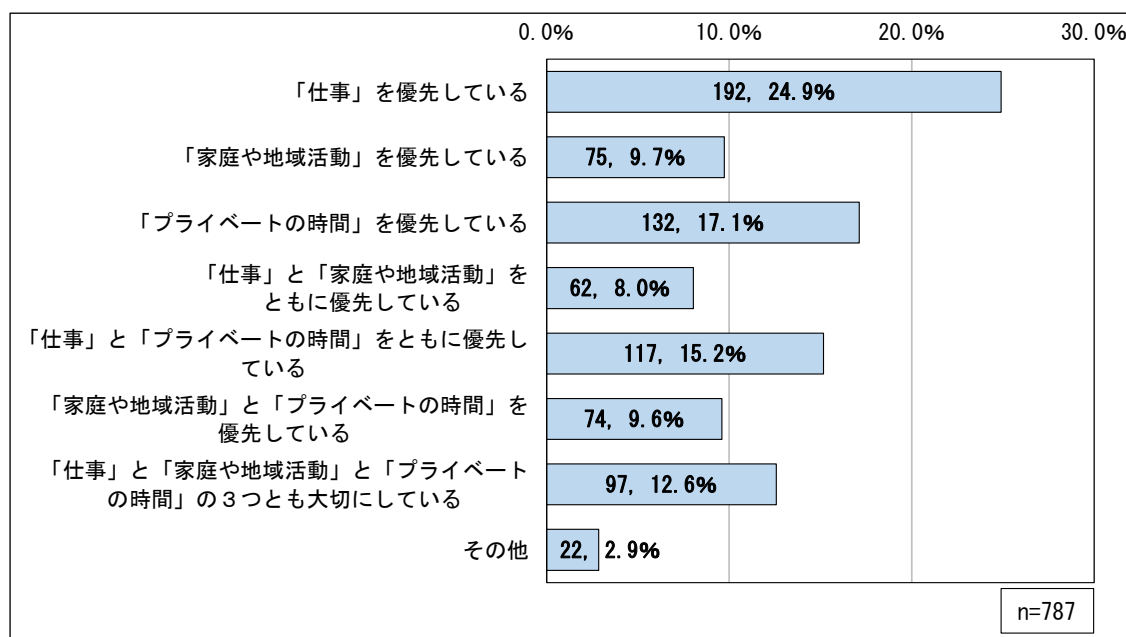
【男女別クロス集計】

- ・「仕事」と「家庭や地域活動」と「プライベートの時間」の3つとも大切にしたいは、男性が28.5%、女性が30.8%と、ともに最も多い割合となっている。
- ・次いで「プライベートの時間」を優先したいで、男性が25.1%、女性が24.6%、「仕事」と「プライベートの時間」をともに優先したいは、男性が16.1%、女性が16.1%と、男女で傾向はあまり変わらない。
- ・「家庭や地域活動」と「プライベートの時間を優先したい」は、男性が9.6%、女性が15.2%と、5ポイント以上の差で女性が多くなっている。
- ・一方、性別無回答は、「仕事」と「家庭や地域活動」をともに優先したいが30.0%と、他と比べて突出した値となっている。



(2) 現実（現状）として

- ・実際に優先している項目は、「仕事」を優先している」が 24.9%と最も多く、次いで「プライベートの時間」を優先している」が 17.1%、「仕事」と「プライベートの時間」をともに優先している」が 15.2%となっている。
- ・これらの結果から、「仕事」を優先している様子が読み取れる。

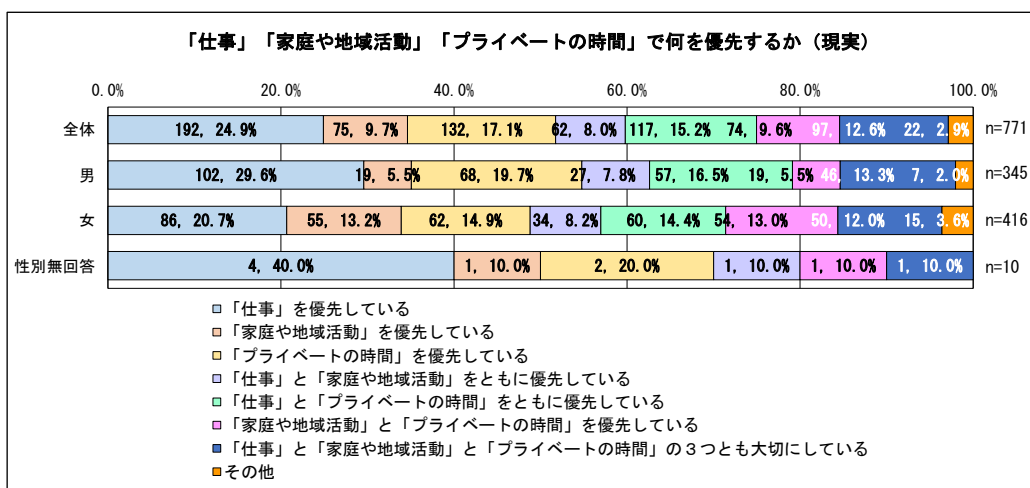


【主なその他回答】

- ・学生なので、勉学に専念しています
- ・学生の為、学業とアルバイトを優先している
- ・職業は持っていない
- ・身体が悪いので療養に費やしている
など

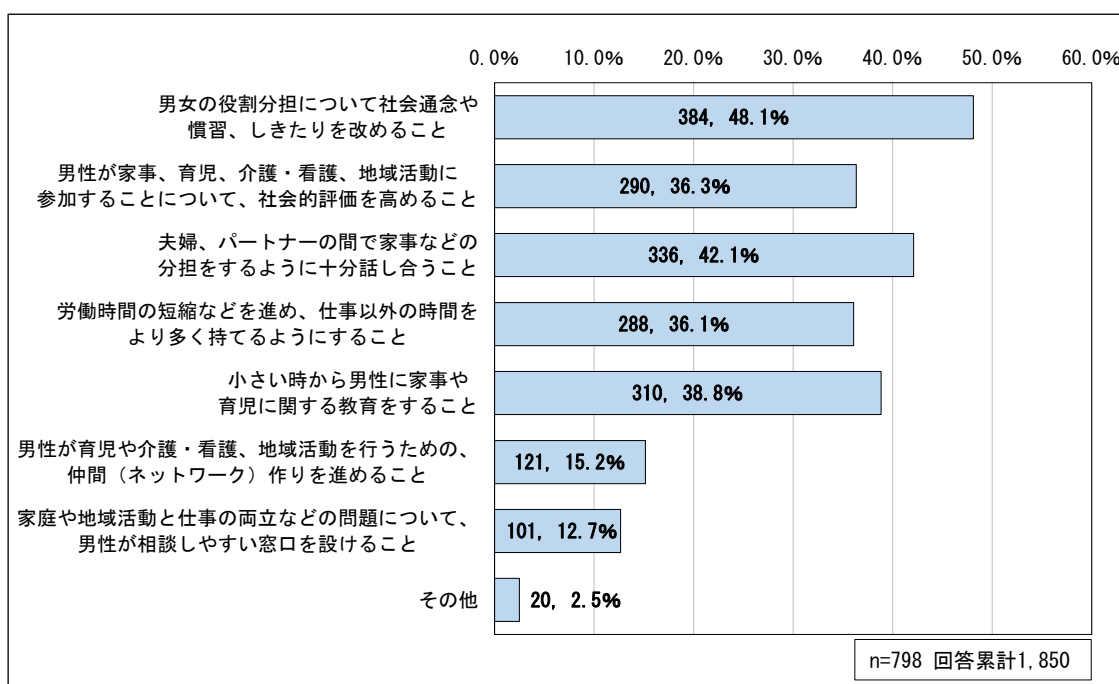
【男女別クロス集計】

- ・「仕事」を優先している」は、男性が 29.6%、女性が 20.7%と、ともに最も多い割合となっているが、男女間で9ポイント弱の差がみられ、男性が「仕事」を優先している様子が読み取れる。
- ・次いで「プライベートの時間」を優先している」で、男性が 19.7%、女性が 14.9%、「仕事」と「プライベートの時間」をともに優先している」は、男性が 16.5%、女性が 14.4%と、男女で似たような傾向になっている。
- ・「家庭や地域活動を優先している」は、男性が 5.5%、女性が 13.2%、「家庭や地域活動」と「プライベートの時間を優先している」は、男性が 5.5%、女性が 13.0%と、いずれも7ポイント以上の差で女性が多くなっている。



問 17 今後、男性が家事・子育て・介護・地域活動に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか（回答は3つまで）

・「男女の役割分担について社会通念や慣習、しきたりを改めること」が48.1%と最も多く、次いで「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が42.1%、「小さい時から男性に家事や育児に関する教育をすること」が38.8%となっている。

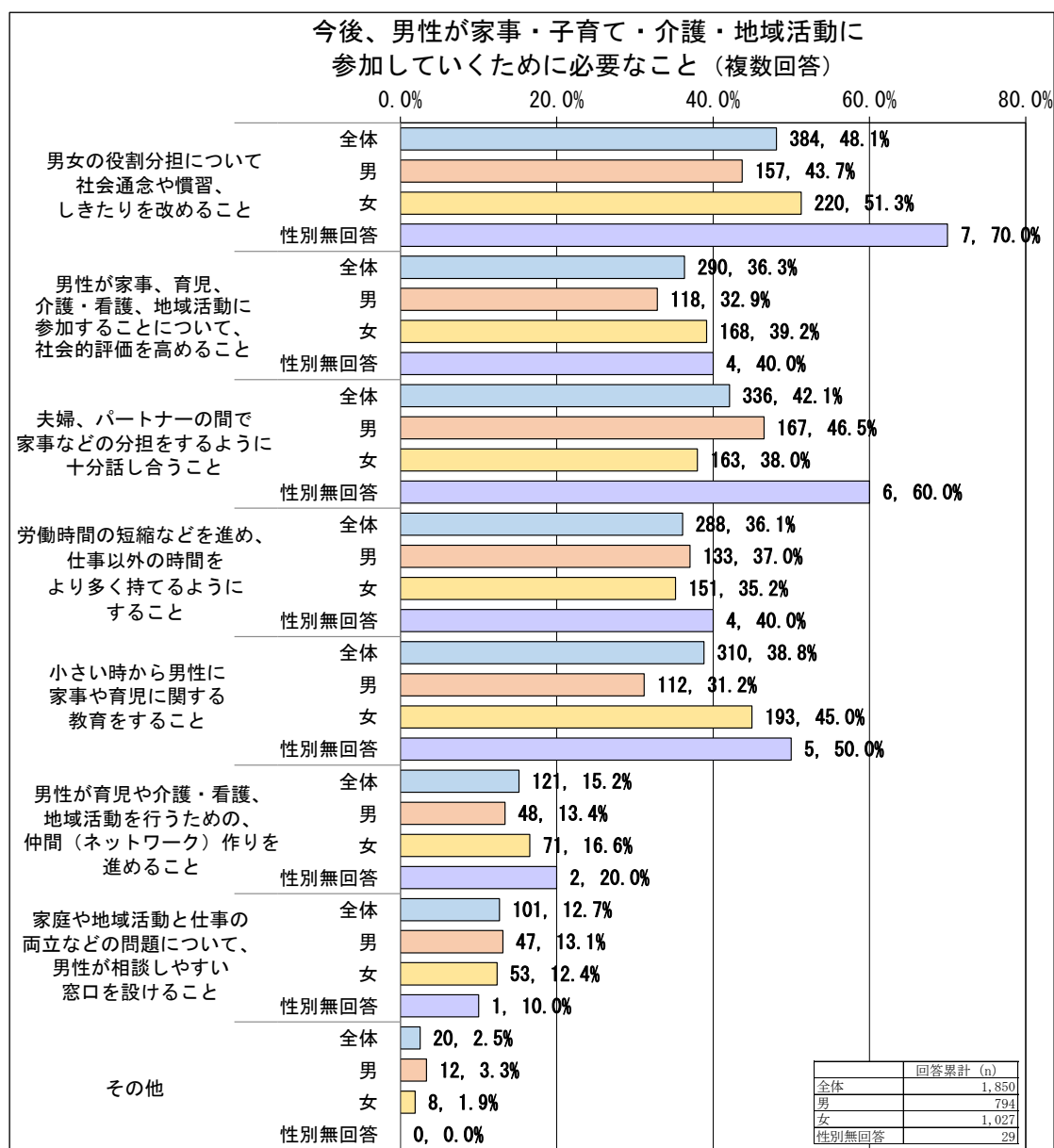


【主なその他回答】

- ・男性自らが意識を改めること
- ・「参加」って何？当事者の自覚を持って
- ・男性の重労働の軽減（転勤含む）
- ・育休を取りやすい雰囲気や理解
- ・参加することに対する社会の理解を高める
- ・育児パパの楽しいイベントを開催すること
- など

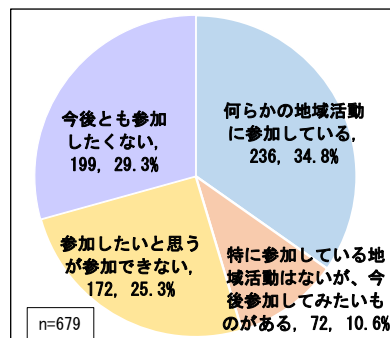
【男女別クロス集計】

- ・「小さい時から男性に家事や育児に関する教育をすること」は、男性が31.2%、女性が45.0%と、最多の14ポイント弱の差で女性がかかなり多くなっている。
- ・「男女の役割分担について社会通念や慣習、しきたりを改めること」も、男性が43.7%、女性が51.3%と、7ポイント以上の差で女性が多くなっている。
- ・一方、「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」は、男性が46.5%、女性が38.0%と、8ポイント以上の差で男が多くなっている。



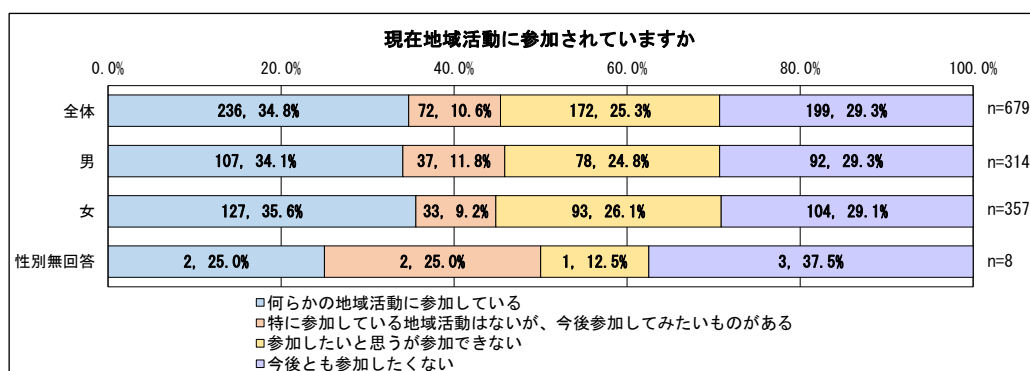
問 18 現在地域活動に参加されていますか

- ・「何らかの地域活動に参加している」が 34.8%と最も多く、次いで「今後とも参加したくない」が 29.3%、「参加したいと思うが参加できない」が 25.3%となっている。
- ・現在、地域活動に参加しているのは、回答者のおよそ 1/3 である。



【男女別クロス集計】

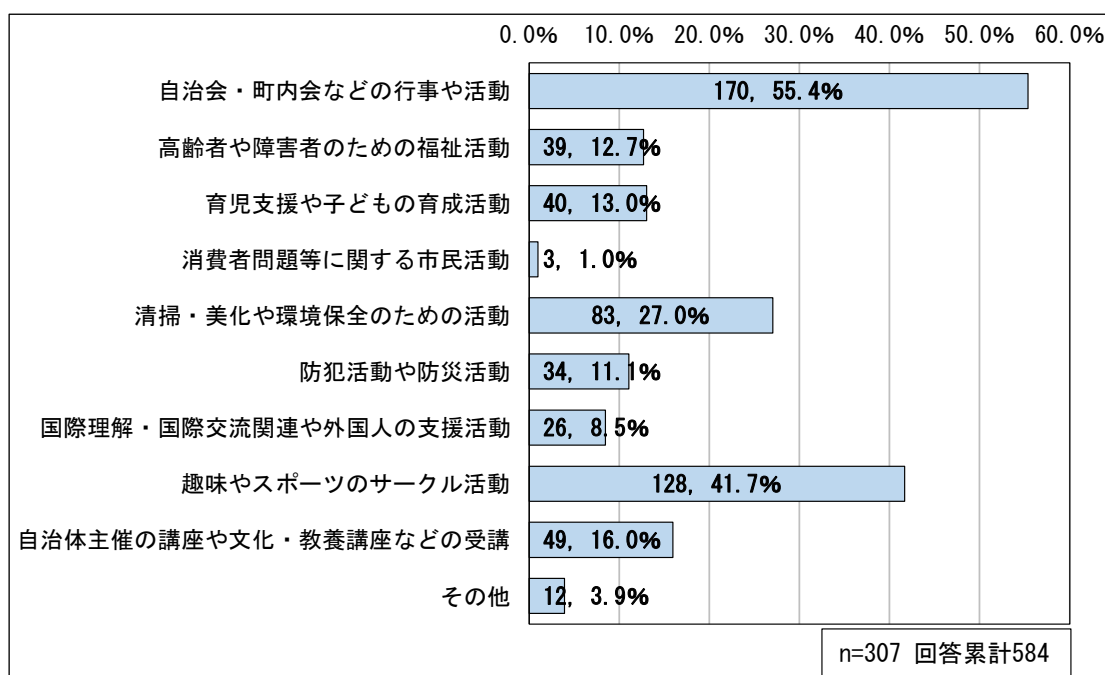
- ・「何らかの地域活動に参加している」は、男性が 34.1%、女性が 35.6%、「今後とも参加したくない」は、男性が 29.3%、女性が 29.1%と、ほぼ同じ傾向になっている。
- ・一方、性別無回答は、「特に参加している地域活動はないが、今後参加してみたいものがある」が 25.0%と他のおよそ 2 倍、「参加したいと思うが参加できない」が 12.5%と他のおよそ半分の割合で傾向が異なっている



問 18-1 あなたが現在参加している、または今後参加してみたいと思われる地域活動は何ですか（複数回答）

（問 18 で「参加している」「今後参加してみたい」と回答した方が対象の設問）

- ・「自治会・町内会などの行事や活動」が最も多く 55.4%、次いで「趣味やスポーツなどのサークル活動」が 41.7%、「清掃・美化や環境保全のための活動」が 27.0%となっている。

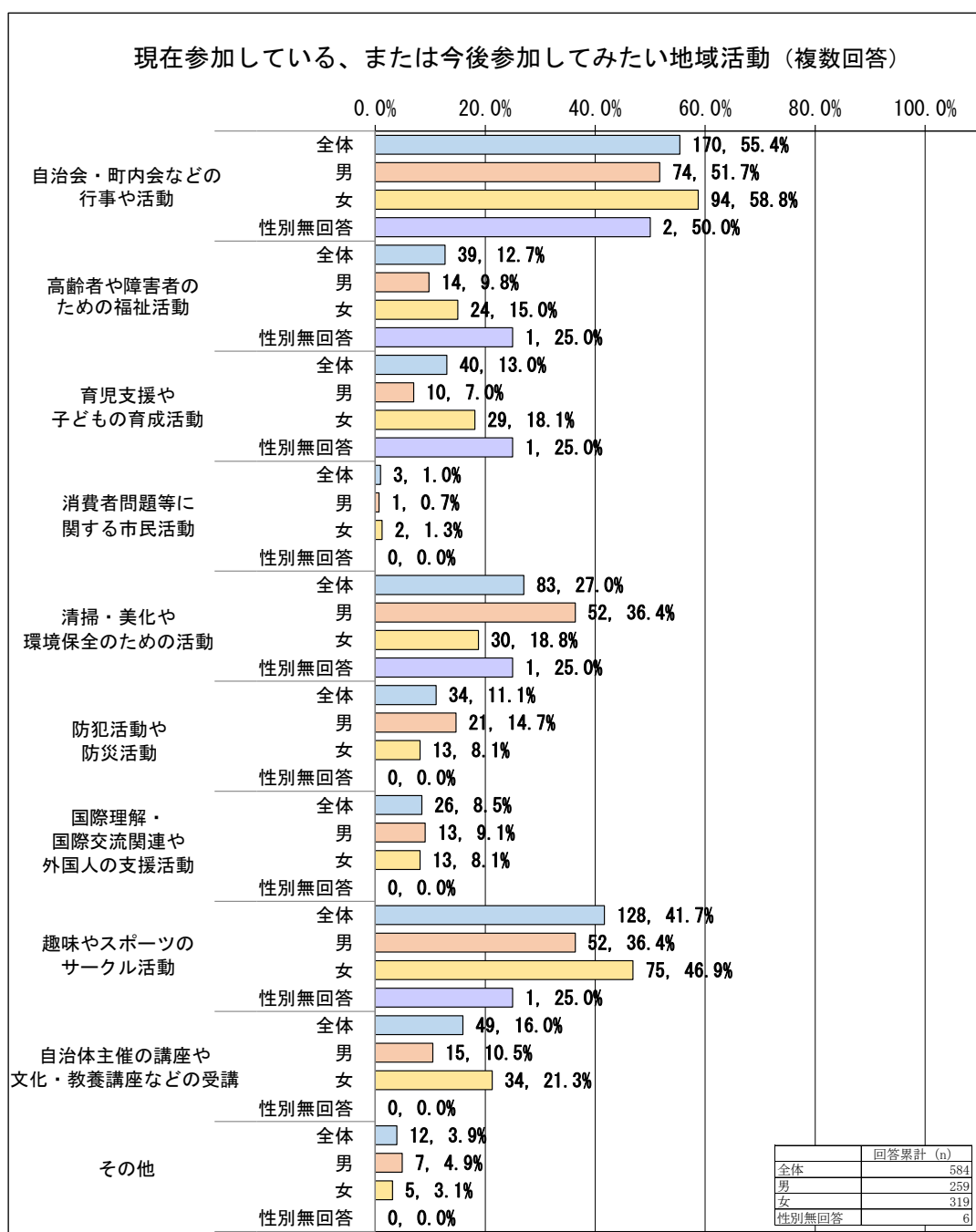


【主なその他回答】

- ・農作業活動 ・少年野球 ・まちづくり ・青少年育成 など

【男女別クロス集計】

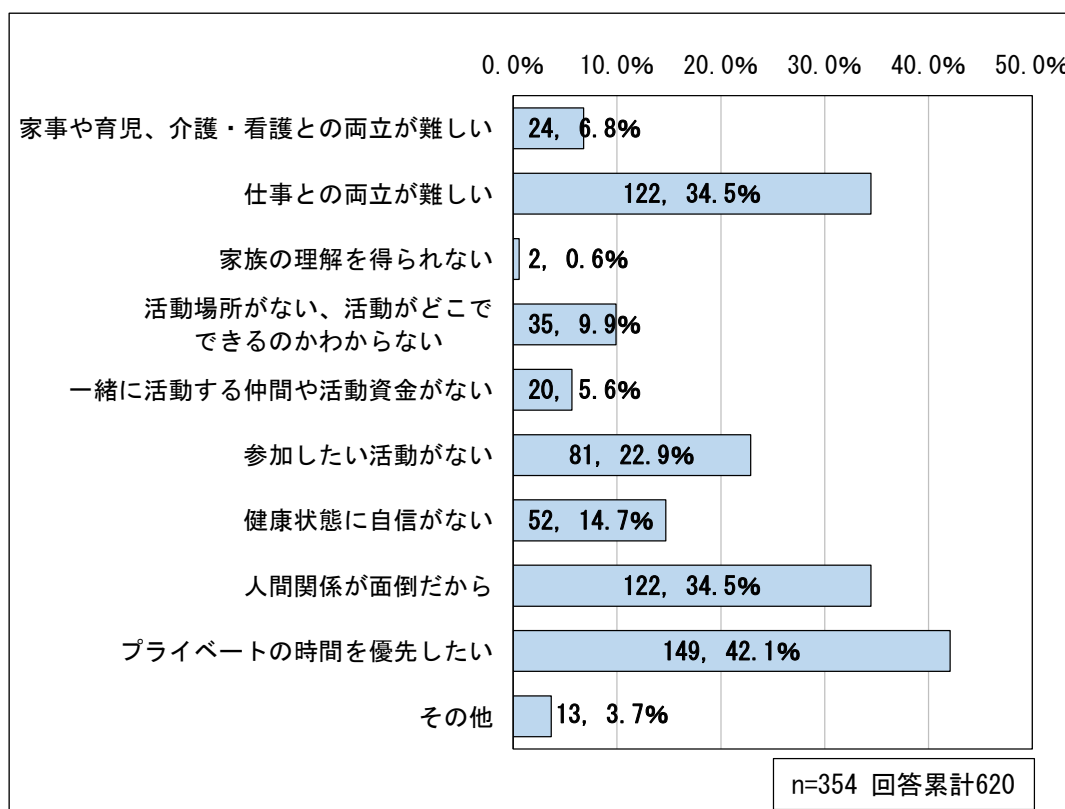
- ・「自治会・町内会などの行事や活動」は、男性が51.7%、女性が58.8%と、ともに最も多い割合となっているが、7ポイント以上の差で女性が多くなっている。
- ・「自治体主催の講座や文化・教養講座などの受講」も、男性が10.5%、女性が21.3%と、10ポイント以上の差で女性が多くなっている。
- ・一方、「清掃・美化や環境保全のための活動」は、男性が36.4%、女性が18.8%と、最多の17ポイント以上の差で男性がかなり多くなっている。



問 18-2 地域活動に参加できない、参加したくない理由は何ですか（複数回答）

（問 18 で「参加したいが参加できない」「今後とも参加したくない」と回答した方が対象の設問）

- ・「プライベートの時間を優先したい」が 42.1%と最も多く、次いで「仕事との両立が難しい」と「人間関係が面倒だから」が同率で 34.5%となっている。

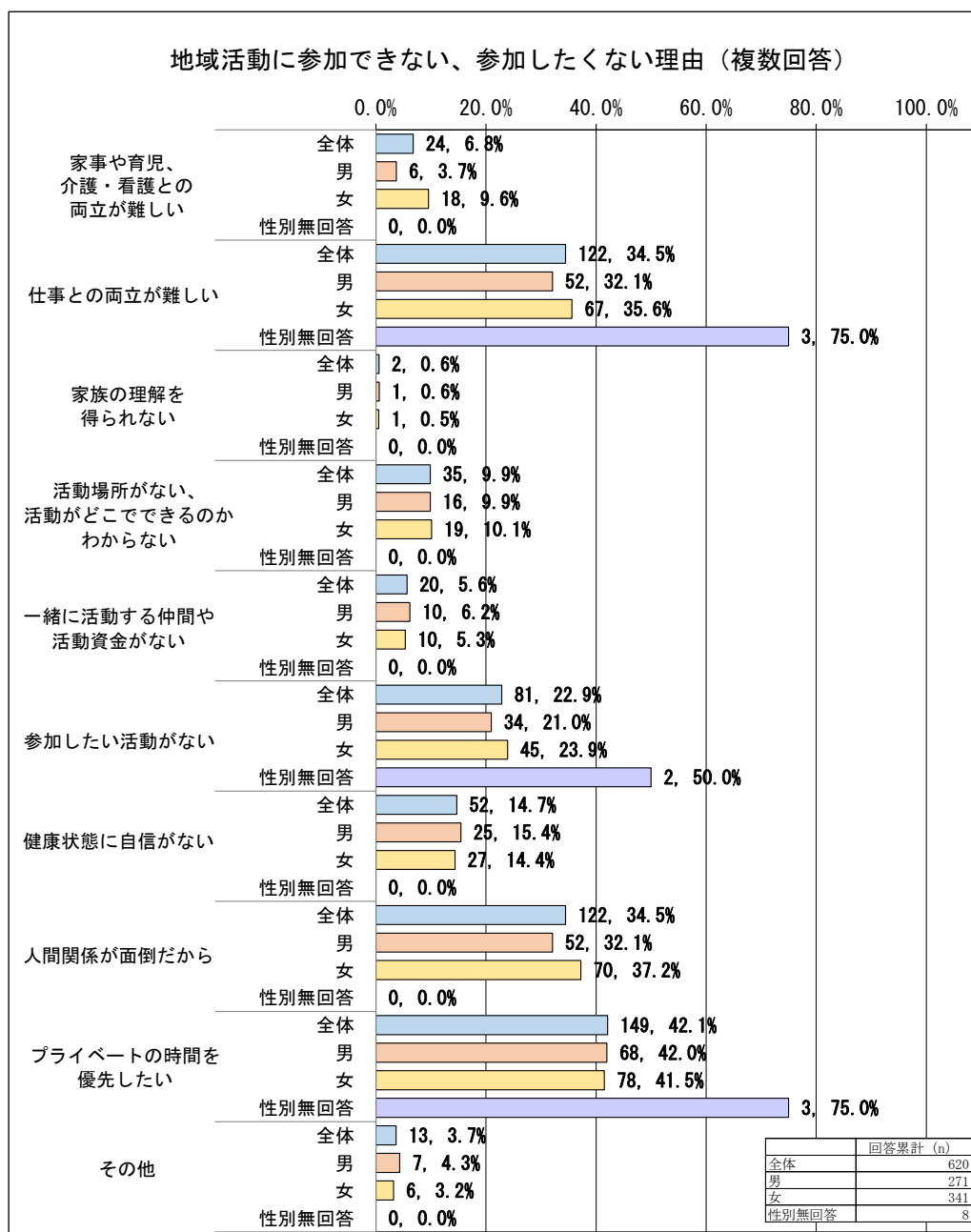


【主なその他回答】

- ・ 高齢のため ・ 足腰の痛み等、体力に自信が持てない
- ・ 学生だから ・ 転居したばかりで、まだ分からない
- ・ 時間が確保できないため ・ 必要性を感じないから
- ・ 以前、入っていた活動が、年配男性の独裁だったから
など

【男女別クロス集計】

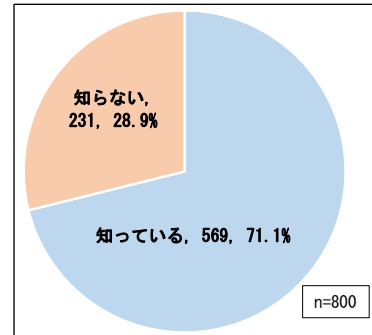
- ・「プライベートの時間を優先したい」は、男性が 42.0%、女性が 41.5%と、ともに最も多い割合となっている。
- ・「人間関係が面倒だから」は、男性が 32.1%、女性が 37.2%、「仕事との両立が難しい」も、男性が 32.1%、女性が 35.6%と、それぞれ 5 ポイント以上、3 ポイント以上女性が多くなっている。
- ・一方、性別無回答は、「仕事との両立が難しい」と「プライベートの時間を優先したい」が、それぞれ 75.0%と突出した値となっているが、母数が 4 名と少ないため割合が大きくなっている。



6. DV（ドメスティック・バイオレンス）について

問 19 配偶者・パートナーからの暴力（なぐる、ける、無視するなどの身体的、精神的な暴力等）について、相談できる窓口があることを知っていますか

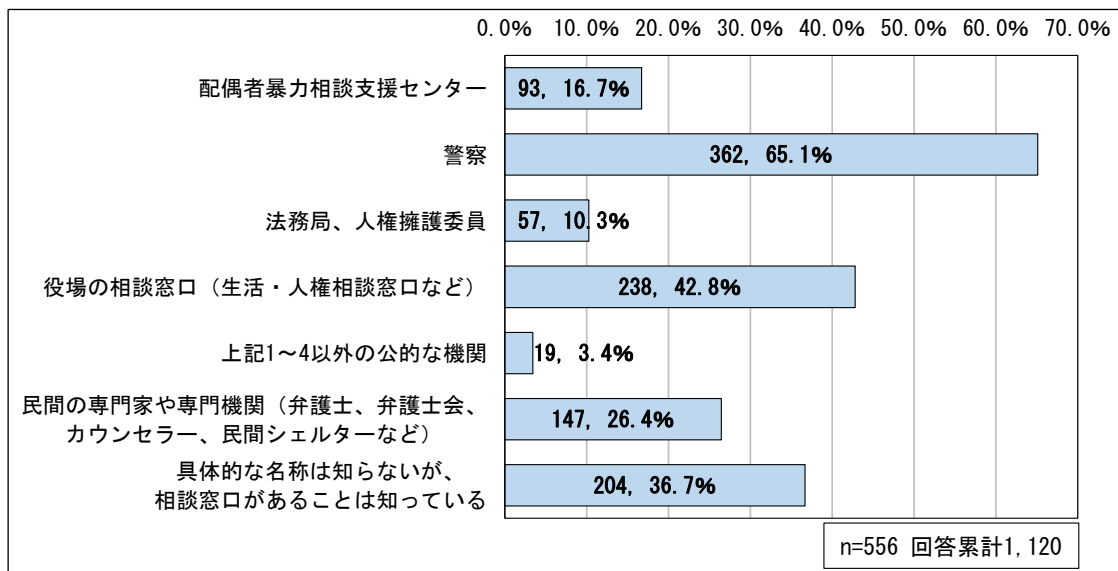
- ・「知っている」が71.1%と、7割を超えている。



問 19-1 相談窓口としてどのようなものを知っていますか（複数回答）

（問 19 で「知っている」と回答した方が対象の設問）

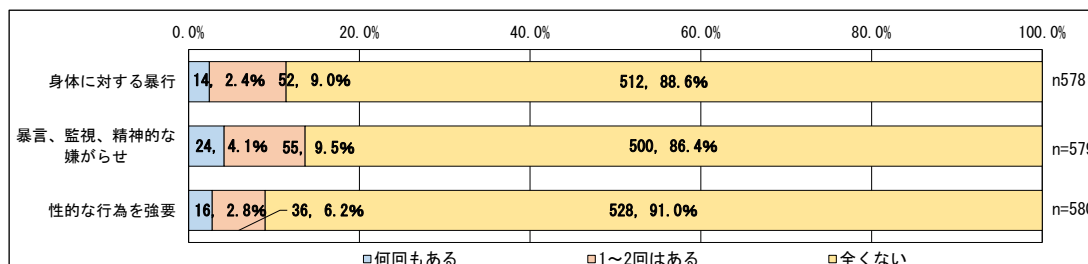
- ・「警察」が65.1%と最も多く、次いで「役場の相談窓口（生活・人権相談窓口など）」が42.8%となっている。
- ・「具体的な名称は知らないが、相談窓口があることは知っている」が36.7%と、1/3以上となっていることから、相談窓口の詳細の周知も課題と考えられる。



問 20 交際相手から、次のようなことをされたことがありますか

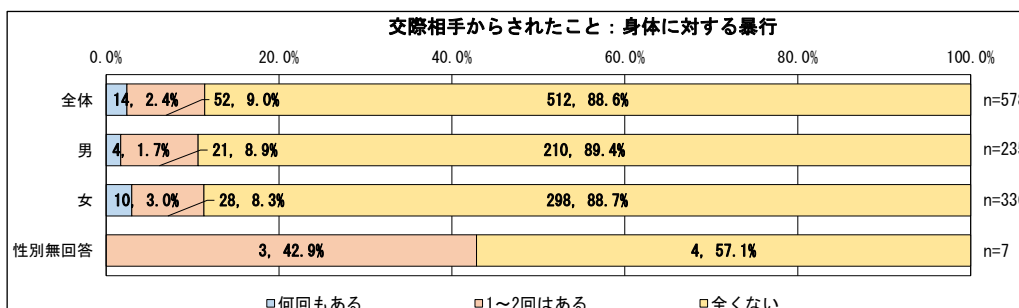
(交際相手のいる(いた)方が対象の設問)

- ・「何回もある」と「1～2回はある」の経験ありと回答した割合の合計は、「暴言、監視、精神的な嫌がらせ」が13.6%と最も多くなっている。
- ・「性的な行為を強要」も9.0%と、1割近くが「ある」と回答している。

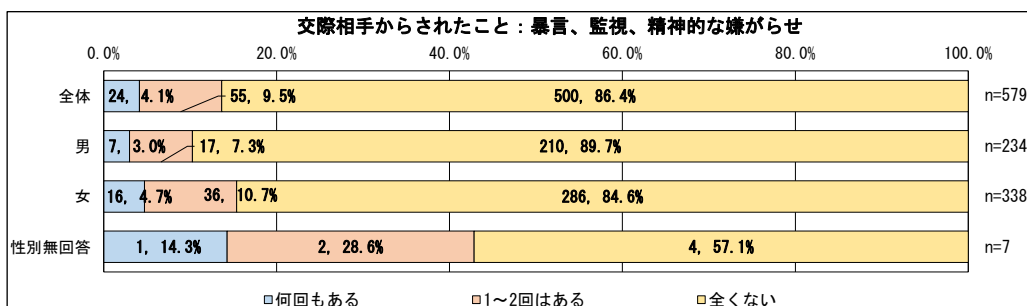


【男女別クロス集計】

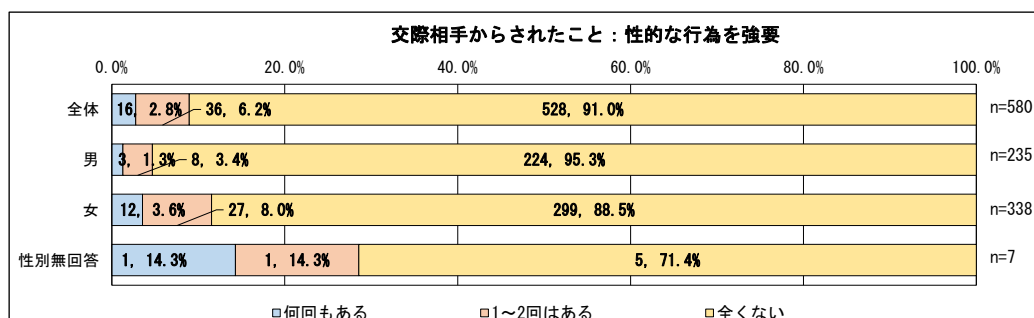
- ・身体に対する暴行では、「何回もある」と「1～2回はある」の経験ありと回答した割合の合計は、男性が10.6%、女性が11.3%で、ともに1割程度みられる。
- ・一方、性別無回答は、「1～2回はある」が42.9%と突出した値となっているが、母数が7名と少ないため割合が大きくなっている。(以下に続く項目も同様)



- ・暴言、監視、精神的な嫌がらせでは、「何回もある」と「1～2回はある」の経験ありと回答した割合の合計は、男性が10.3%、女性が16.0%で、5ポイント以上女性が多くなっている。

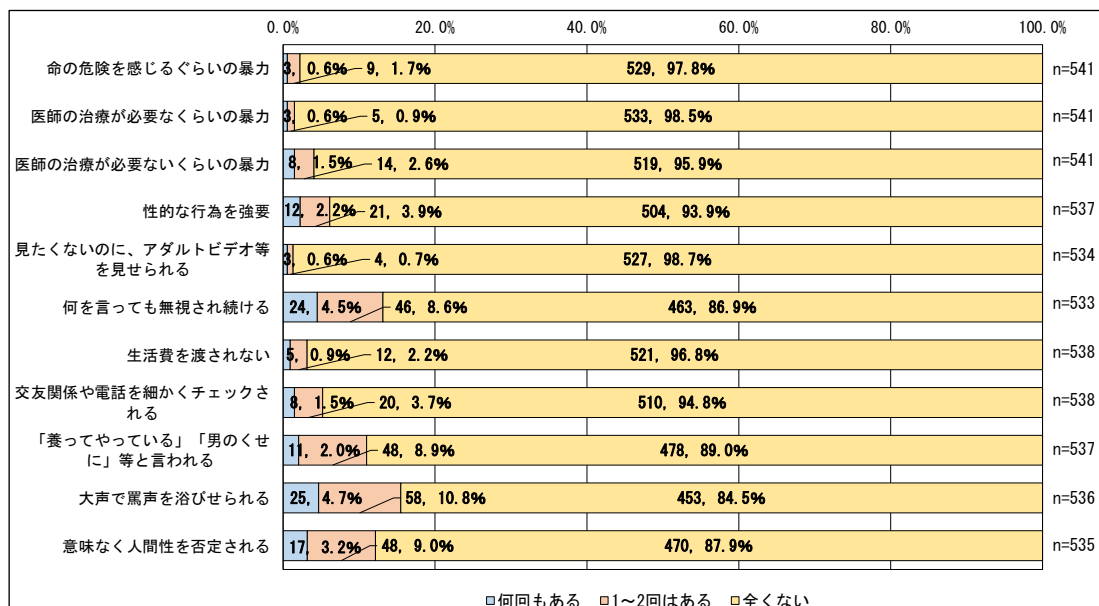


- ・性的な行為を強要では、「何回もある」と「1～2回はある」の経験ありと回答した割合の合計は、男性が4.7%、女性が11.6%で、約2.5倍も女性が多くなっている。



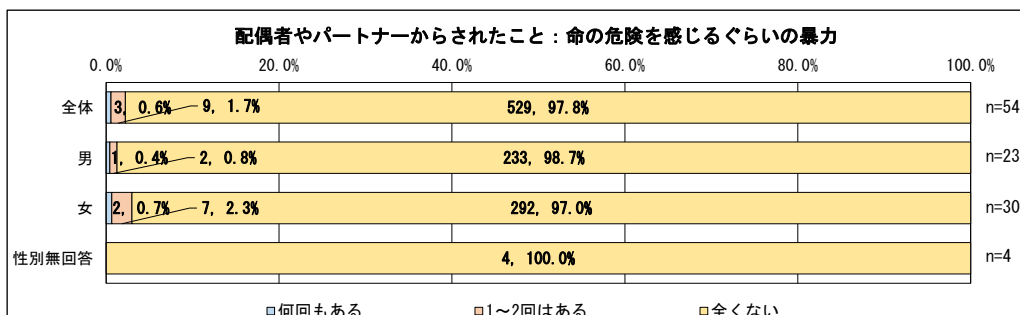
**問 21 あなたは配偶者やパートナーから、次のようなことをされたことがありますか
(これまでに結婚(事実婚や別居中含む)したことのある方が対象の設問)**

- ・「何回もある」と「1～2回はある」の経験ありと回答した割合の合計は、「大声で罵声を浴びせられる」が15.5%と最も多く、次いで「何を言っても無視され続ける」が13.1%、「意味なく人間性を否定される」が12.2%となっている。
- ・身体に多大な被害を受ける「命の危険を感じるぐらいの暴力」や「医師の治療が必要なくらいの暴力」も、それぞれ2.3%、1.5%と割合は少ないとはいえ存在している。

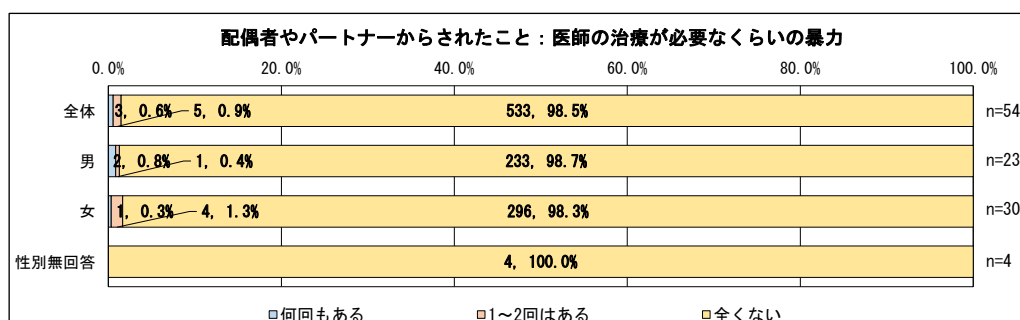


【男女別クロス集計】

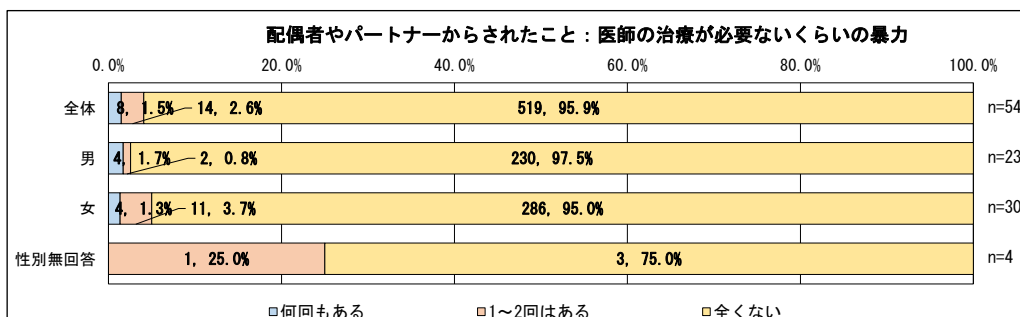
- 命の危険を感じるぐらいの暴力では、「何回もある」と「1～2回はある」の経験ありと回答した割合の合計は、男性が1.2%、女性が3.0%と、割合は少ないながらも、2倍以上女性が多くなっている。



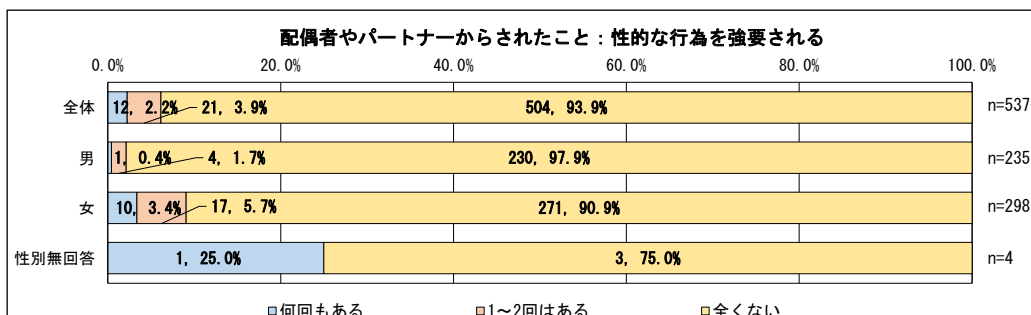
- 医師の治療が必要なくらいの暴力では、「何回もある」と「1～2回はある」の経験ありと回答した割合の合計は、男性が1.2%、女性が1.6%と、割合は少ないながらも、女性が多くなっている。



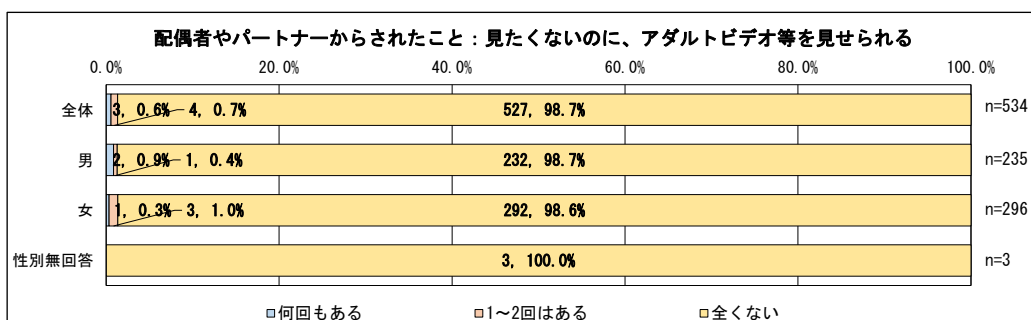
- 医師の治療が必要ないくらい暴力では、「何回もある」と「1～2回はある」の経験ありと回答した割合の合計は、男性が2.5%、女性が5.0%と、女性が2倍となっている。
- 一方、性別無回答は、「1～2回はある」が25.0%と突出した値となっているが、母数が4名と少ないため割合が大きくなっている。(以下に続く項目も同様)



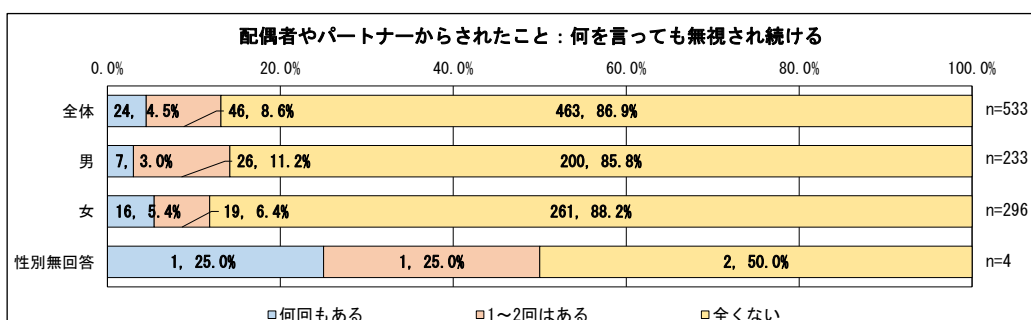
- 性的な行為を強要されるでは、「何回もある」と「1～2回はある」の経験ありと回答した割合の合計は、男性が2.1%、女性が9.1%と、4倍以上女性が多くなっている。



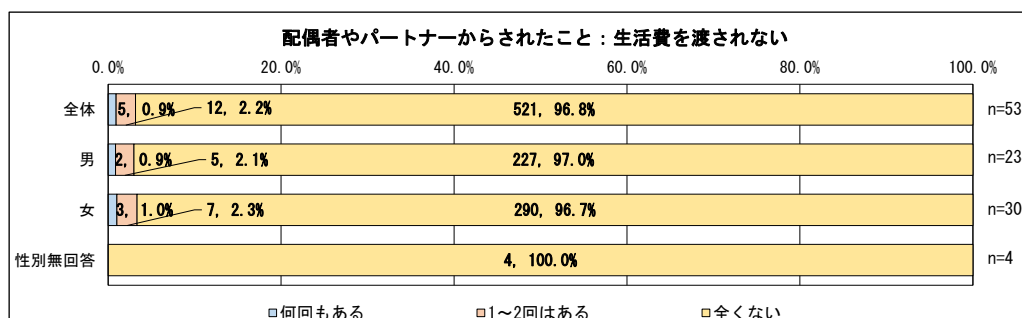
- 見たくないのに、アダルトビデオ等を見せられるでは、「何回もある」と「1～2回はある」の経験ありと回答した割合の合計は、男性が1.3%、女性が1.3%と、ともに同じ傾向になっている。



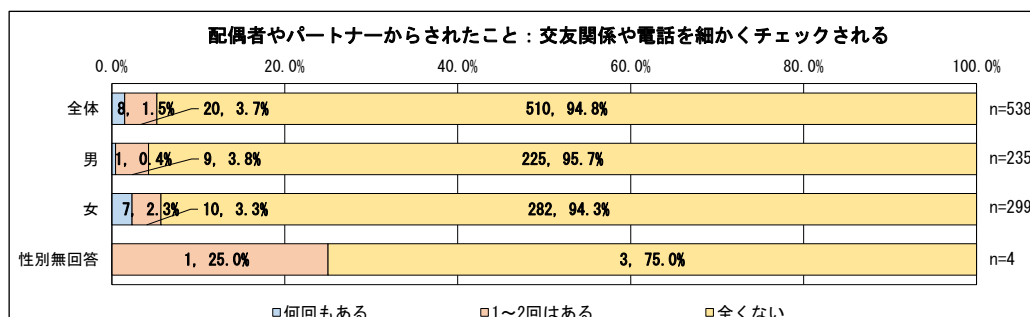
- 何を言っても無視され続けるでは、「何回もある」と「1～2回はある」の経験ありと回答した割合の合計は、男性が14.2%、女性が11.8%と、3ポイント未満と差は大きくはないが男性が多くなっている。



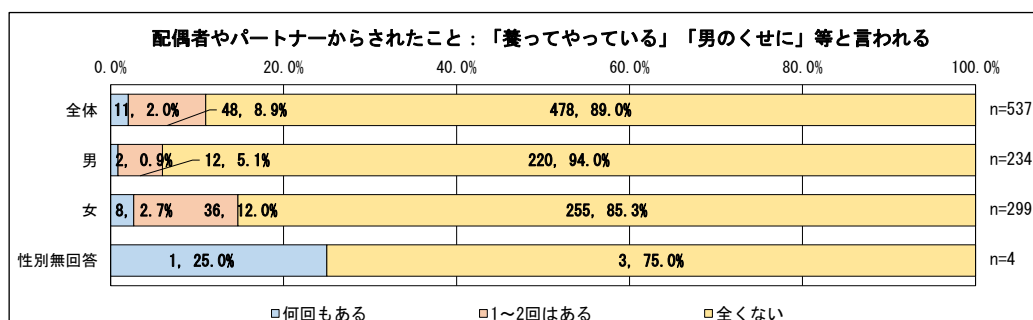
- ・生活費を渡されないでは、「何回もある」と「1～2回はある」の経験ありと回答した割合の合計は、男性が3.0%、女性が3.3%と、ともに同じ傾向になっている。



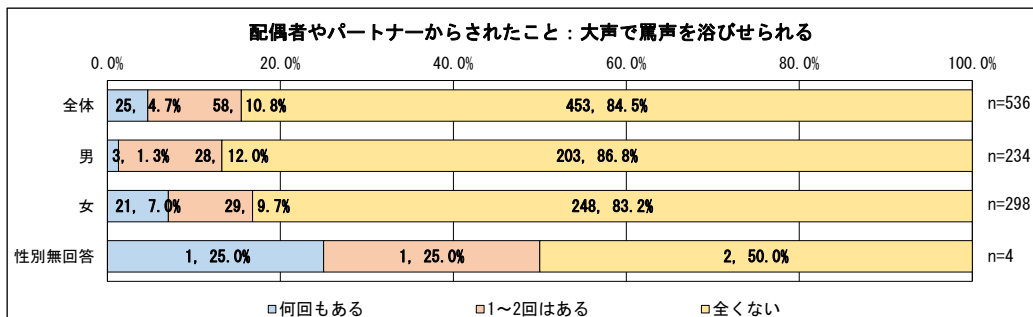
- ・交友関係や電話を細かくチェックされるでは、「何回もある」と「1～2回はある」の経験ありと回答した割合の合計は、男性が4.2%、女性が5.6%と、ともに同じ傾向になっている。



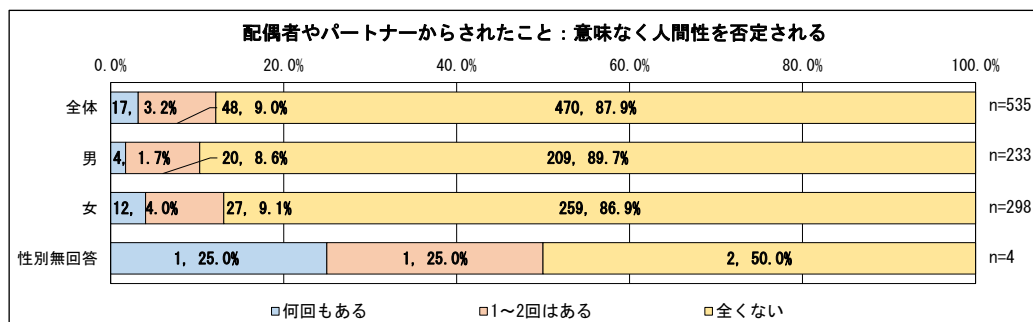
- ・「養ってやっている」「男のくせに」と言われるでは、「何回もある」と「1～2回はある」の経験ありと回答した割合の合計は、男性が6.0%、女性が14.7%と、2倍以上女性が多くなっている。



- ・ 大声で罵声を浴びせられるでは、「何回もある」と「1～2回はある」の経験ありと回答した割合の合計は、男性が13.3%、女性が16.7%で、3ポイント以上女性が多くなっている。



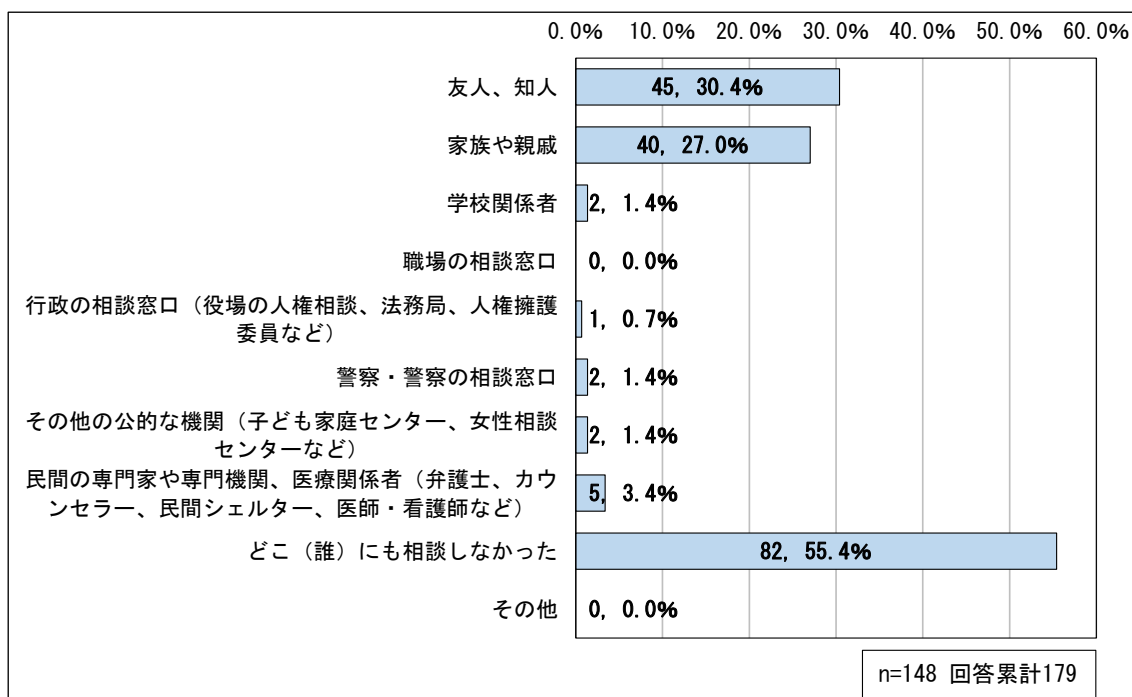
- ・ 意味なく人間性を否定されるでは、「何回もある」と「1～2回はある」の経験ありと回答した割合の合計は、男性が10.3%、女性が13.1%で、3ポイント未満と差は大きくはないが女性が多くなっている。



問 22 そのことを誰かに打ち明けたり、相談しましたか（複数回答）

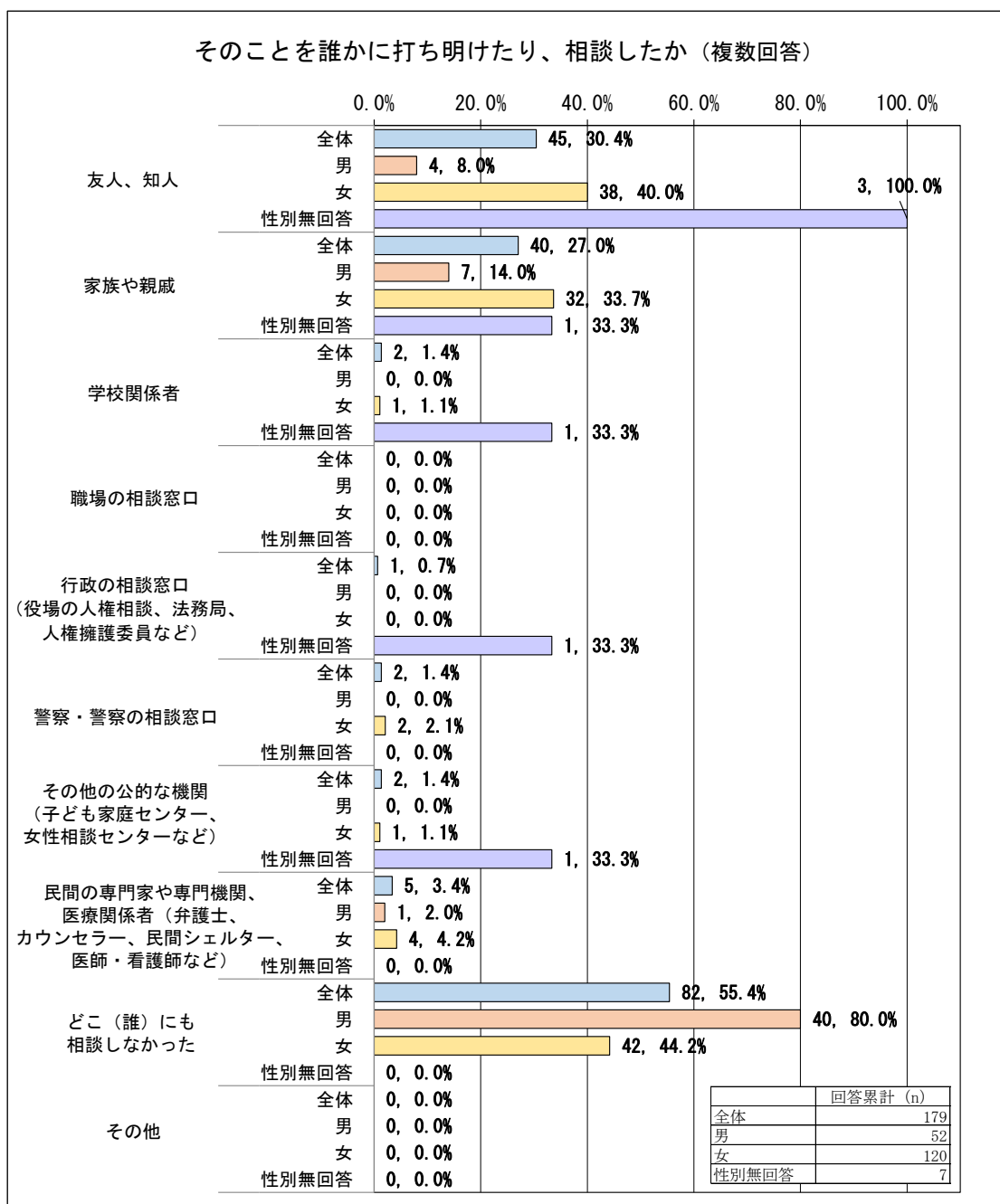
（問 20 と 21 で、1 つでも「何回もある」「1～2 回はある」と回答した方が対象の設問）

- ・「どこ（誰）にも相談しなかった」が 55.4% と最も多く半数以上であり、次いで「友人、知人」が 30.4%、「家族や親戚」が 27.0% となっている。
- ・相談窓口の利用は、公共・民間を問わず非常に少ない。



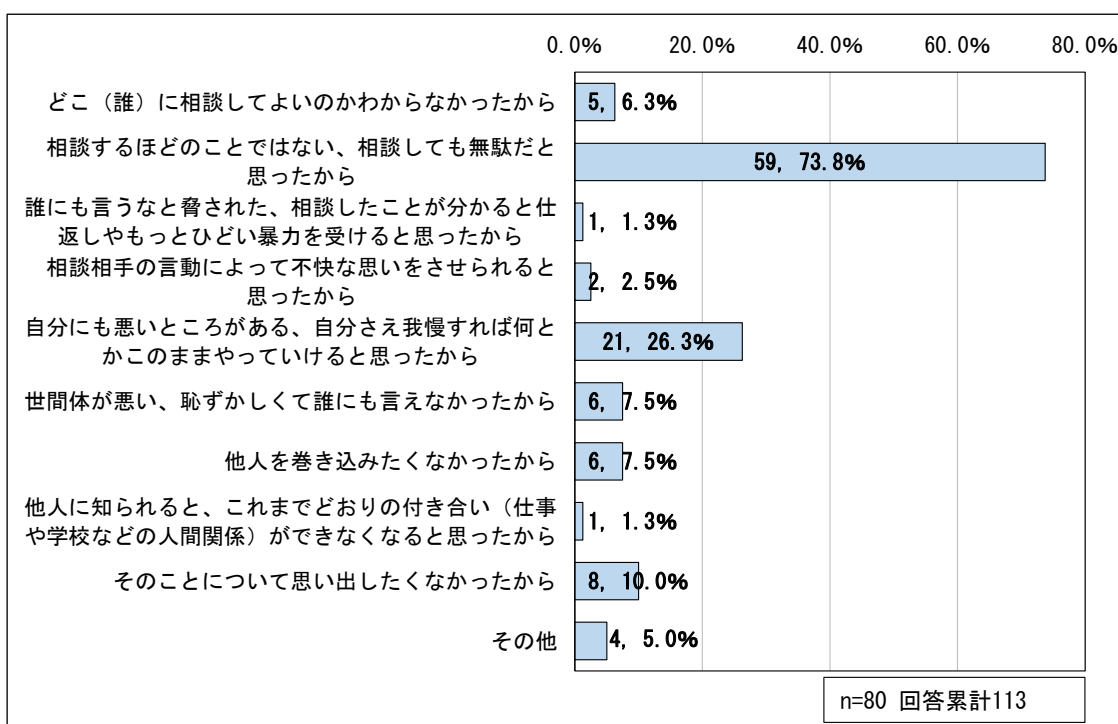
【男女別クロス集計】

- ・「どこ（誰）にも相談しなかった」は、男性が80.0%、女性が44.2%と、35ポイント以上の差で男性が多くなっている。
- ・一方、「友人、知人」は、男性が8.0%、女性が40.0%と、32ポイントの差で女性が多くなっていることから、男性と女性での対応の仕方が大きく異なっている。
- ・「民間の専門家や専門機関、医療関係者（弁護士、カウンセラー、民間シェルター、医師・看護師など）」への相談は、男性が2.0%、女性が4.2%と、わずかにみられるが、その他の相談窓口の利用は、ほとんどみられない。



問 22-1 どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった）のはなぜですか（複数回答）
 （問 22 で「どこ（誰）にも相談しなかった」と回答した方が対象の設問）

- ・「相談するほどのことではない、相談しても無駄だと思ったから」が 73.8%と圧倒的に多く、次いで「自分にも悪いところがある、自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから」が 26.3%、「そのことについて思い出したくなかったから」が 10.0%となっている。



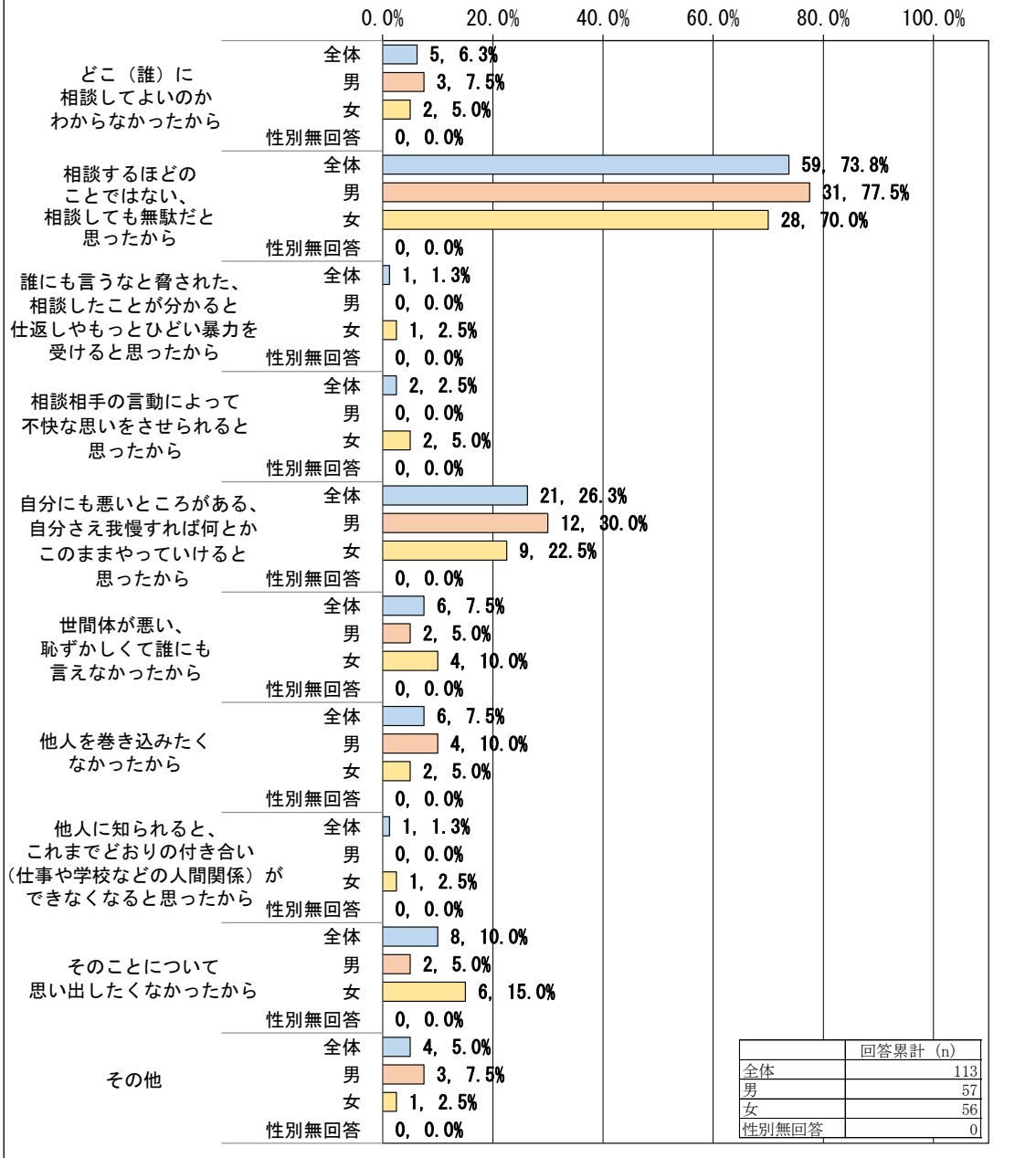
【その他回答】

- ・大したことではないので
- ・大したことではないと考えたから
- ・相談する程の事ではない、無理に作り出すな
- ・自分で解決ができるから

【男女別クロス集計】

- ・「相談するほどのことではない、相談しても無駄だと思ったから」は、男性が 77.5%、女性が 70.0%と、ともに7割を超え最も多くなっている。
- ・次いで、「自分にも悪いところがある、自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから」が多く、男性が 30.0%、女性が 22.5%と、7ポイント以上の差で男性が多くなっている。
- ・一方「そのことについて思い出したくなかったから」は、男性が 5.0%、女性が 15.0%と、女性が3倍程度多くなっている。
- ・また、「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから」も、男性が 7.5%、女性が 5.0%と、わずかではあるが男性が多くなっている。
- ・さらに、「他人を巻き込みたくなかったから」は、男性が 10.0%、女性が 5.0%。「世間体が悪い、恥ずかしくて誰にも言えなかったから」、男性が 5.0%、女性が 10.0%と、他者とのかわりを考えて黙ってしまうような回答も一定数みられる。

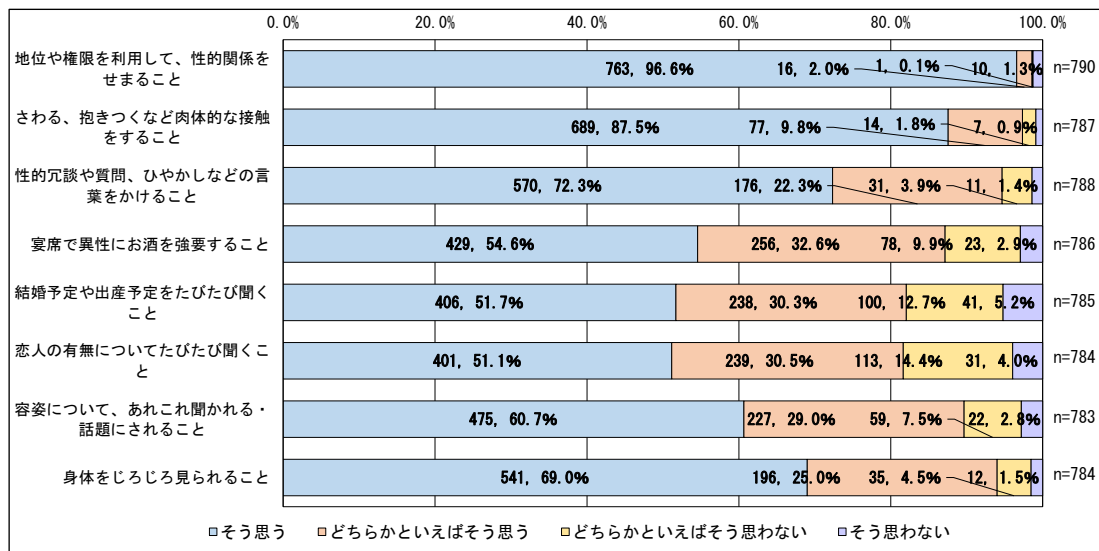
どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった）のはなぜか（複数回答）



7. 性暴力・性犯罪について

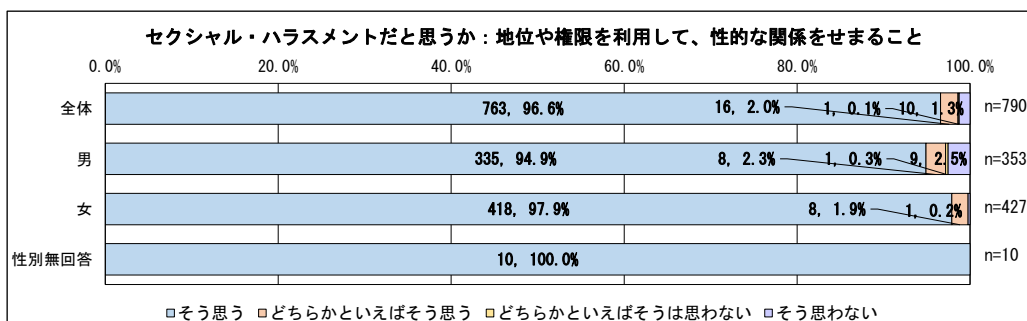
問 23 次のことはセクシャル・ハラスメント（性的嫌がらせ）だと思いますか
 （男性⇒女性に限らず、女性⇒男性、同性同士の場合も含む）

- ・「そう思う」と回答した項目は、「地位や権限を利用して、性的関係をせまること」が 96.6%と最も多く、ほぼ全員がセクシャル・ハラスメントであると認識している。
- ・次いで「さわる、抱きつくなど肉体的な接触をすること」が 87.5%、「性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけること」が 72.3%となっている。
- ・一方、「宴席で異性にお酒を強要すること」が 54.6%、「結婚予定や出産予定をたびたび聞くこと」が 51.7%、「恋人の有無についてたびたび聞くこと」が 51.1%と、いずれも半数を超えてはいるが、比較的低い割合となっている。

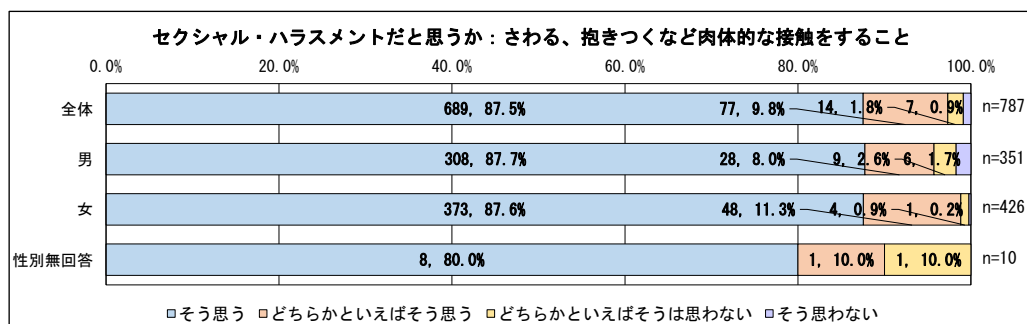


【男女別クロス集計】

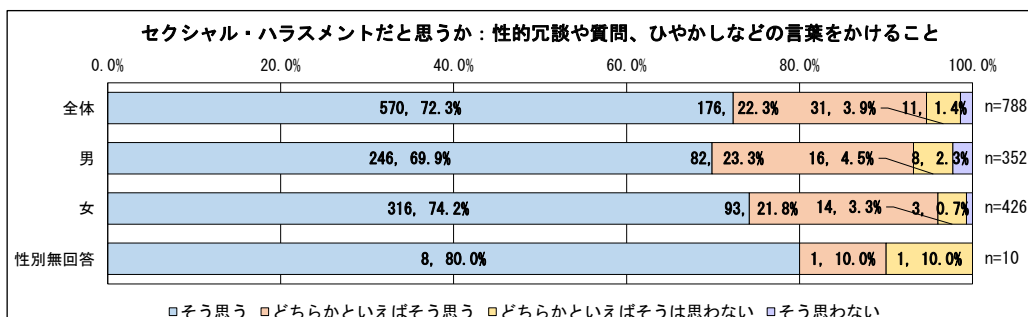
- ・地位や権限を利用して、性的な関係をせまることでは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、男性が 97.2%、女性が 99.8%と、ともにほぼ全員がセクシャル・ハラスメントであると認識している。



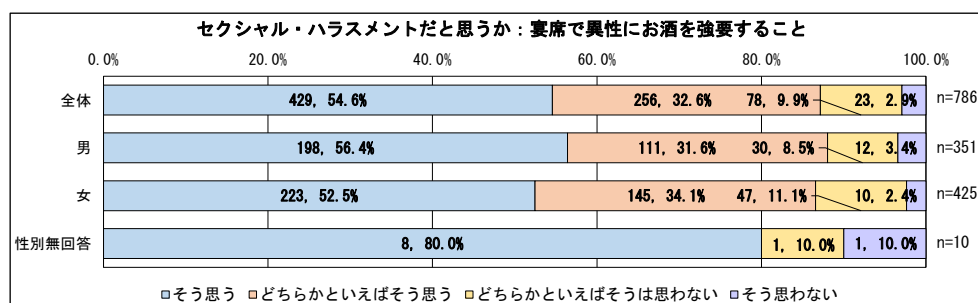
- ・さわる、抱きつくなど肉体的な接触をすることでは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、男性が 95.7%、女性が 98.9%と、ともにほぼ全員がセクシャル・ハラスメントであると認識している。



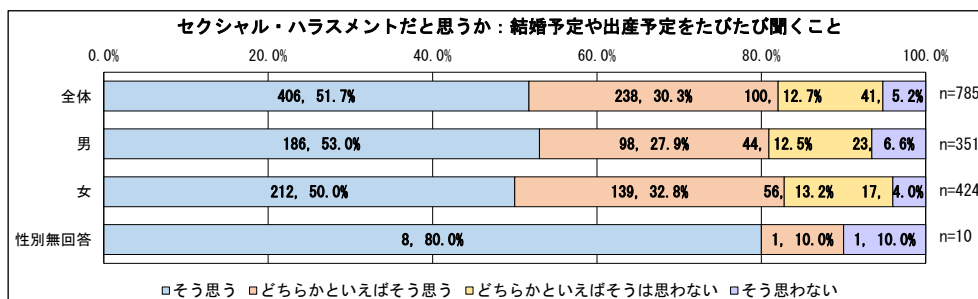
- ・性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけることでは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、男性が 93.2%、女性が 96.0%と、ともに 9 割以上がセクシャル・ハラスメントであると認識している。
- ・「そう思う」だけをみると、男性が 69.9%、女性が 74.2%と、4 ポイント以上の差で女性が多くなっている。



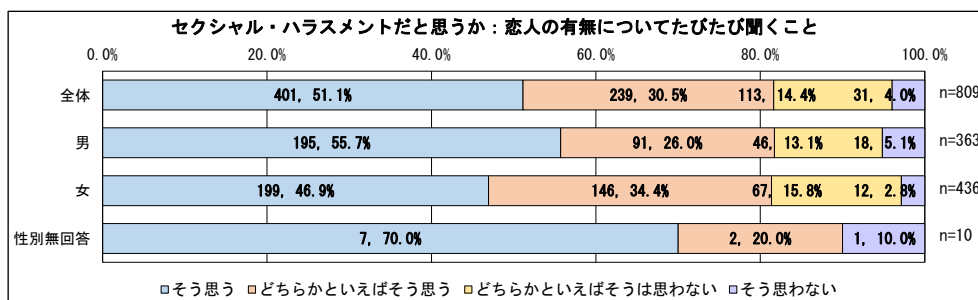
- ・宴席で異性にお酒を強要することでは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、男性が88.0%、女性が86.6%と、ともに8割以上がセクシャル・ハラスメントであると認識している。
- ・「そう思う」だけをみると、男性が56.4%、女性が52.5%と、4ポイント弱の差で男性が多くなっている。



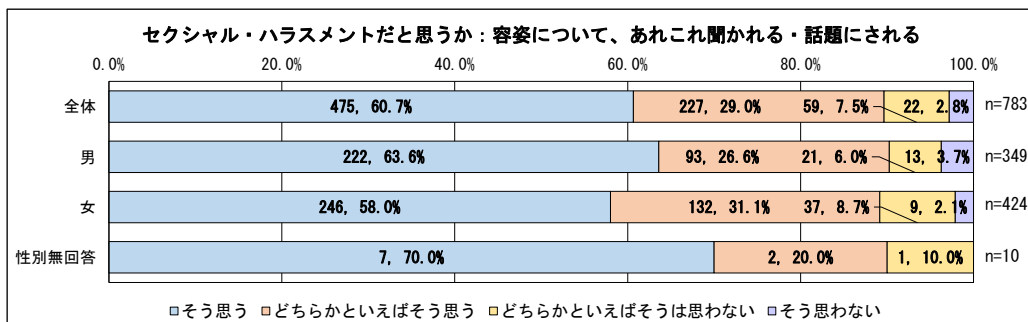
- ・結婚予定や出産予定をたびたび聞くことでは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、男性が80.9%、女性が82.8%と、ともに8割以上がセクシャル・ハラスメントであると認識している。
- ・「そう思う」だけをみると、男性が53.0%、女性が50.0%と、3ポイントの差で男性が多くなっている。また、性別無回答は80.0%と突出した値となっている。



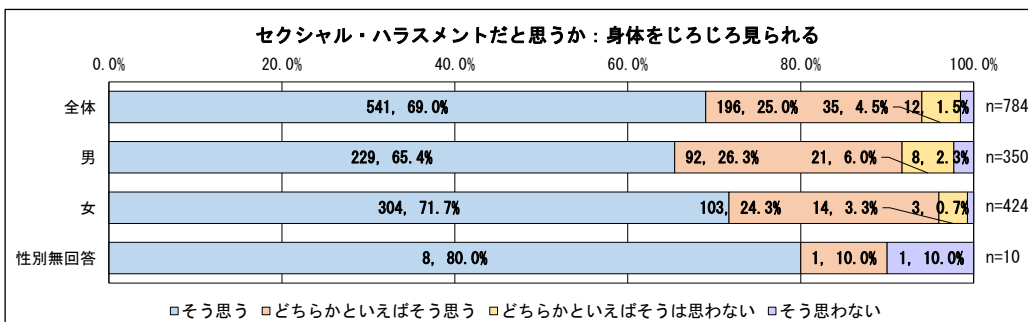
- ・恋人の有無についてたびたび聞くことでは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、男性が81.7%、女性が81.3%と、ともに8割以上がセクシャル・ハラスメントであると認識している。
- ・「そう思う」だけをみると、男性が55.7%、女性が46.9%と、9ポイント近くの差で男性が多くなっている。



- ・容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされるでは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、男性が90.2%、女性が89.1%と、ともに9割前後がセクシャル・ハラスメントであると認識している。
- ・「そう思う」だけをみると、男性が63.6%、女性が58.0%と、5ポイント以上の差で男性が多くなっている。

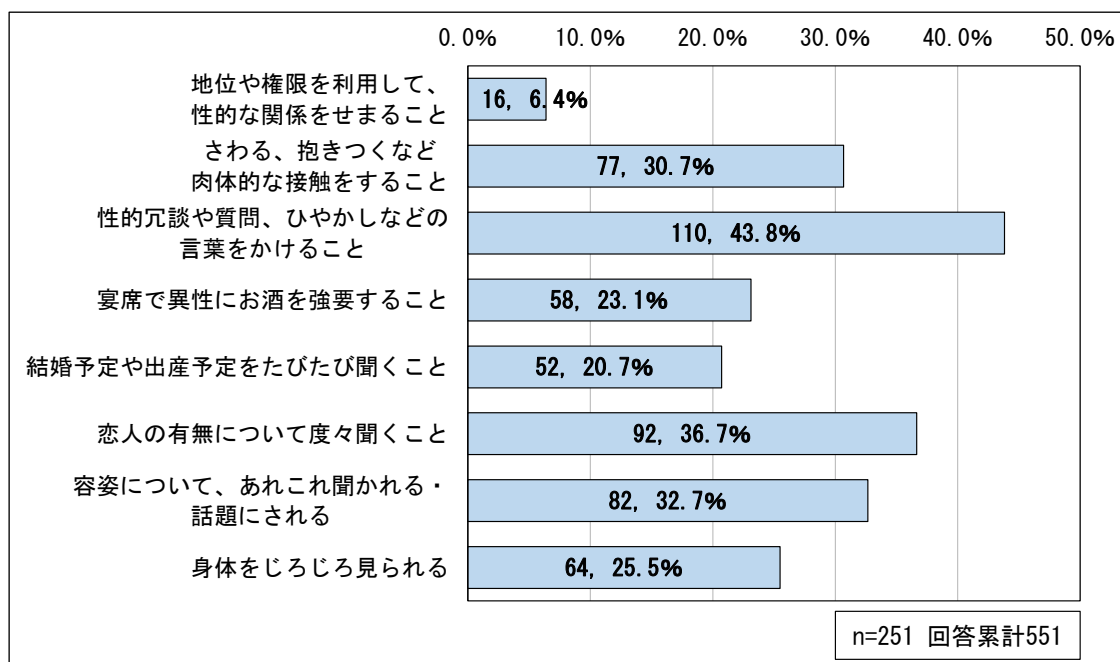


- ・身体をじろじろ見られるでは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、男性が91.7%、女性が96.0%と、ともに9割以上がセクシャル・ハラスメントであると認識している。
- ・「そう思う」だけをみると、男性が65.4%、女性が71.7%と、6ポイント以上の差で女性が多くなっている。



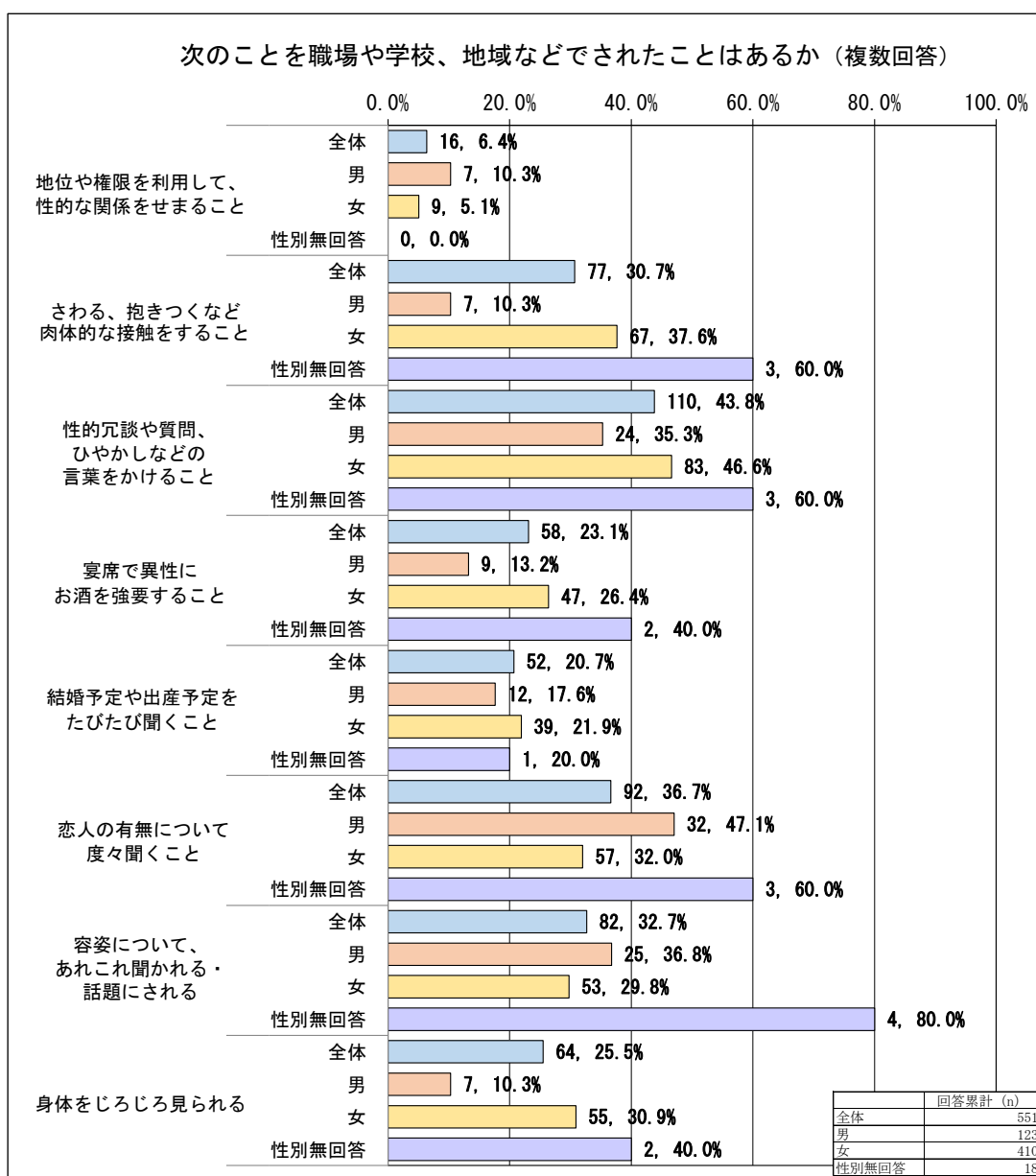
問 23-1 次のことを職場や学校、地域などでされたことはありますか（複数回答）

・「性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけること」が 43.8%と最も多く、次いで「恋人の有無についてたびたび聞くこと」が 36.7%、「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされること」が 32.7%となっている。



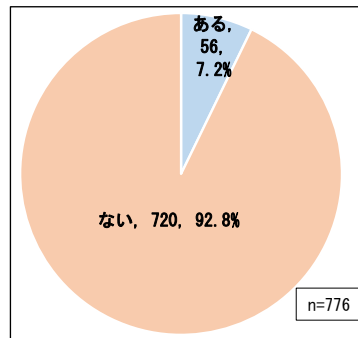
【男女別クロス集計】

- ・「さわる、抱きつくなど肉体的な接触をすること」は、男性が 10.3%、女性が 37.6%と、最多の 27 ポイント以上の差で女性がかかなり多くなっている。
- ・「身体をじろじろ見られる」は、男性が 10.3%、女性が 30.9%、「宴席で異性にお酒を強要すること」も、男性が 13.2%、女性が 26.4%と、それぞれ 20 ポイント以上、13 ポイント以上女性が多くなっている。
- ・一方、「恋人の有無について度々聞くこと」は、男性が 47.1%、女性が 32.0%と、15 ポイント以上の差で男性がかかなり多くなっている。
- ・性別無回答は、「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が、80.0%と突出した値となっているが、母数が 5 名と少ないため割合が大きくなっている。



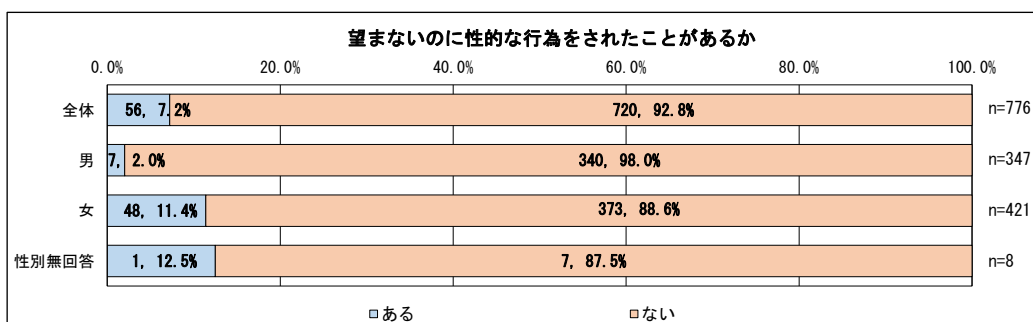
問 24 これまでに望まないのに性的な行為をされたことがありますか
 (男性⇒女性に限らず、女性⇒男性、同性同士の場合も含む)

- ・「ない」が92.8%で、9割を超えている。



【男女別クロス集計】

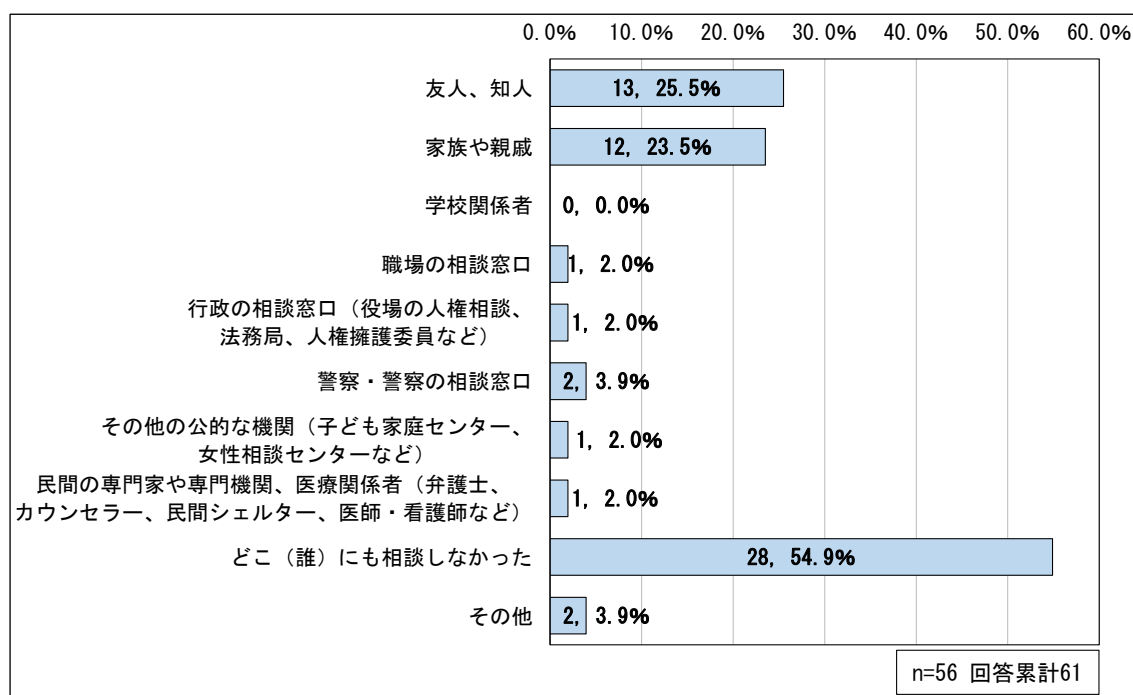
- ・「ある」は、男性が2.0%、女性が11.4%で、5倍以上女性が多くなっている。
- ・割合は少ないが、望まない性的な行為をされた経験がある男性も存在している。



問 24-1 そのことを誰かに打ち明けたり、相談しましたか（複数回答）

（問 24 で「ある」と回答した方が対象の設問）

- ・「どこ（誰）にも相談しなかった」が 54.9%と最も多く半数以上であり、次いで「友人、知人」が 25.5%、「家族や親戚」が 23.0%となっている。
- ・相談窓口の利用は、公共・民間を問わず非常に少ない。
- ・以上のことから、DV を「どこ（誰）に相談したか」に関する設問（問 22）の回答結果と、ほぼ同じ傾向になっている。

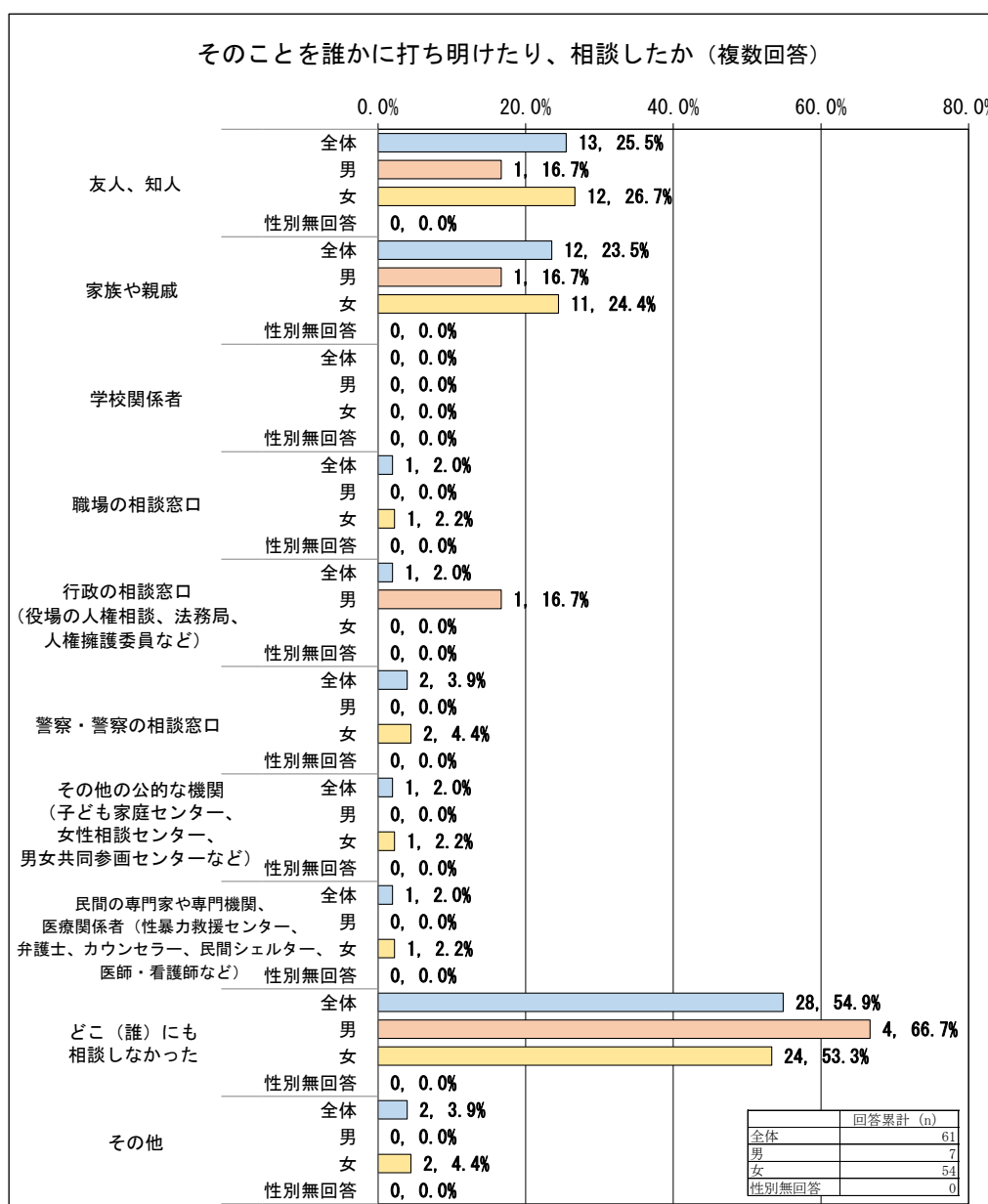


【その他回答】

- ・話したものもあれば、話してないものもある
- ・何年も後に、母に打ち明けた

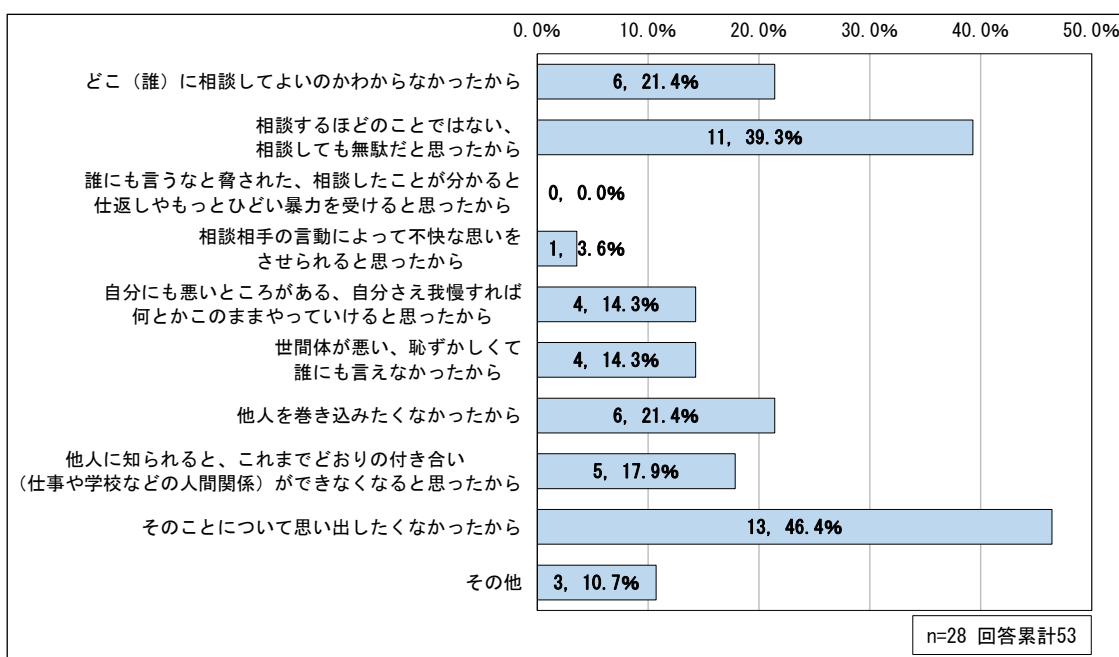
【男女別クロス集計】

- ・「どこ（誰）にも相談しなかった」は、男性が 66.7%、女性が 53.3%と、男性は母数が 6 名と少ないため割合が大きくなっているが、ともに最も多く、13 ポイント以上の差で男性が多くなっている。
- ・次いで、「友人、知人（男性が 16.7%、女性が 26.7%）」、「家族や親戚（男性が 16.7%、女性が 24.4%）」となっている。
- ・一方、「その他の公的な機関（子ども家庭センター、女性相談センター、男女共同参画センターなど）」や「民間の専門家や専門機関、医療関係者（性暴力救援センター、弁護士、カウンセラー、民間シェルター、医師・看護師など）」への相談は、ごくわずかとなっている。



問 24-2 どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった）のはなぜですか（複数回答）
（問 24-1 で「どこ（誰）にも相談しなかった」と回答した方が対象の設問）

- ・「そのことについて思い出したくなかったから」が 46.4%と最も多く、次いで「相談するほどのことではない、相談しても無駄だと思ったから」が 39.3%、「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから」と「他人を巻き込みたくなかったから」が同率で 21.4%となっている。
- ・DV を「相談しなかった（できなかった）理由」に関する設問（問 22-1）の回答結果と比べると、「他人に知られると、これまでどおりの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなるといったから」が 10 倍以上の割合と大きくなっている。また、「そのことについて思い出したくなかったから」が 4 倍以上、「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから」が 3 倍以上の割合であり、DV とは傾向が大きく異なっている。



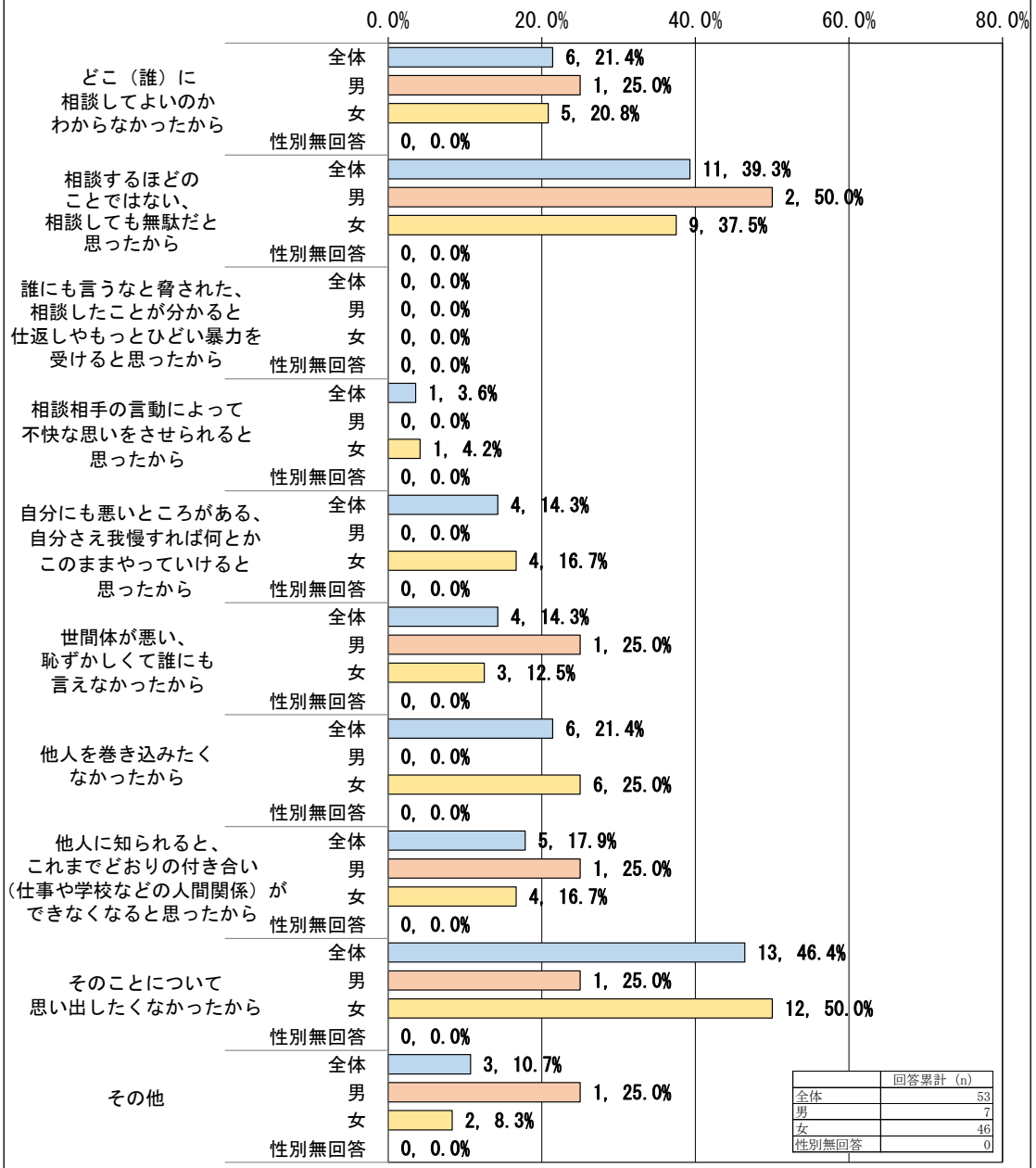
【その他回答】

- ・言えなかった、言える人がいなかった
- ・子どもの時だったので、対応がよく分からなかった
- ・相手が夫だったから

【男女別クロス集計】

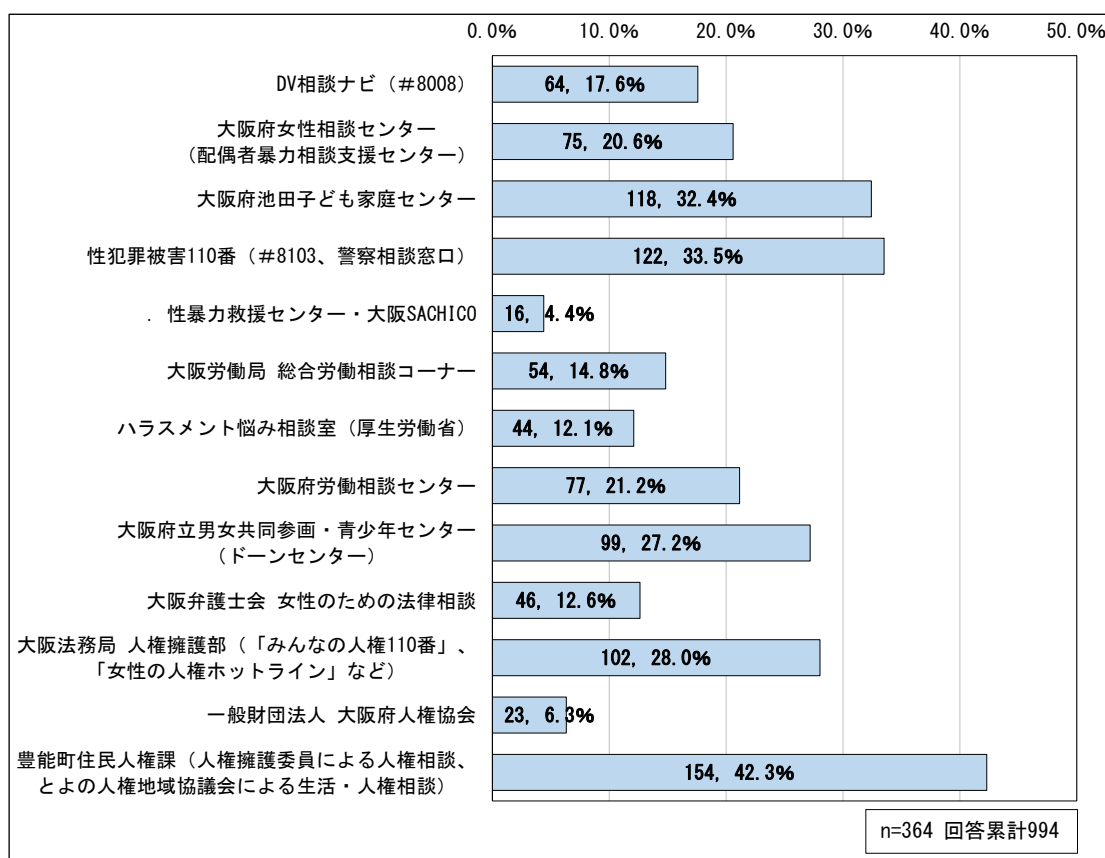
- ・「そのことについて思い出したくなかったから」は、男性が 25.0%、女性が 50.0%と、25 ポイントの差で女性がかかなり多くなっている。
- ・一方、「相談するほどのことではない、相談しても無駄だと思ったから」は、男性が 50.0%、女性が 37.5%と、12 ポイント以上の差で男性が多くなっている。
- ・男性は母数が 4 名のため割合が大きくなっているため、他の項目の回答者数を見ると、「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから」は、男性が 1 名（25.0%）、女性が 5 名（20.8%）と、相談する人・場所が分からないとの回答も多くみられる。
- ・また、「他人を巻き込みたくなかったから」は、男性が 0 名、女性が 6 名（25.0%）。
「他人に知られると、これまでどおりの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから他人を巻き込みたくなかったから」は、男性が 1 名（25.0%）、女性が 4 名（16.7%）。
「自分にも悪いところがある、自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから」は、男性が 0 名、女性が 4 名（16.7%）と、他者とのかわりを考えて黙ってしまう、自身を責めてしまうような回答も一定数みられる。

どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった）のはなぜか（複数回答）



問 24-3 人権に関する相談窓口（主なもの）には次のようなものがあります、知っているものはありますか（複数回答）

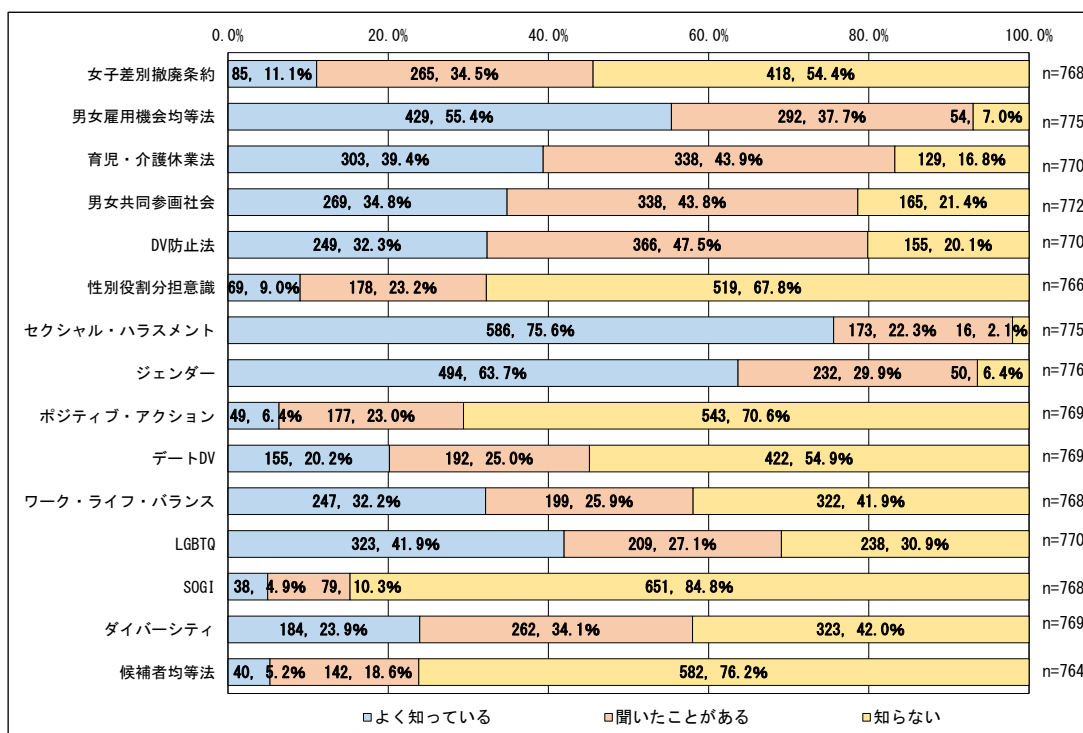
- ・「豊能町住民人権課（人権擁護委員による人権相談、とよの人権地域協議会による生活・人権相談）」が42.3%と最も多く、「性犯罪被害110番（#8103、警察相談窓口）」が33.5%、「大阪府池田子ども家庭センター」が32.4%となっている。
- ・行政による地域の相談窓口や警察の相談窓口の認知度は比較的高いが、労働に関する相談窓口や弁護士相談窓口、人権協会、民間の性暴力救援センターの認知度が低くなっている。



8. 男女共同参画に関する用語の認知度について

問 25 次の言葉について、あてはまるものはどれですか

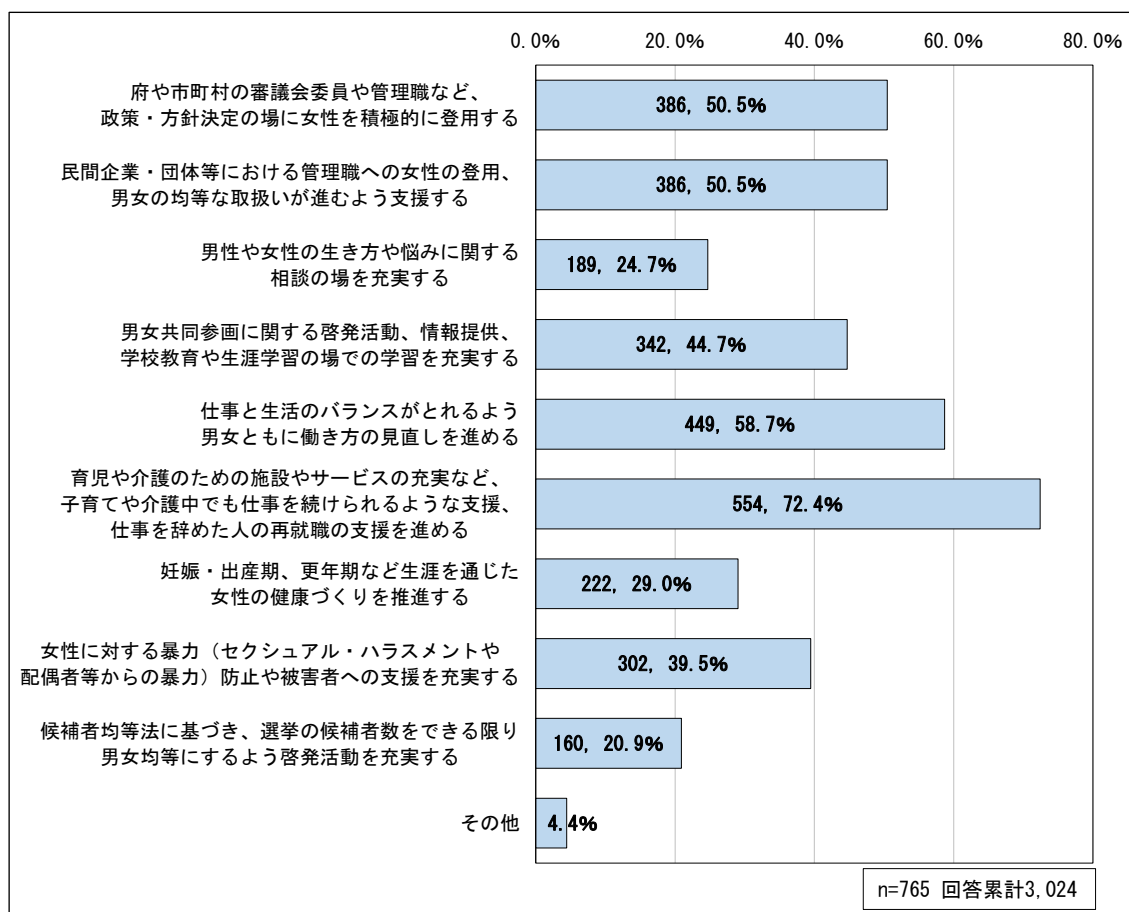
- ・「よく知っている」と回答した項目は、「セクシャル・ハラスメント」が75.6%と最も多く、次いで「ジェンダー」が63.7%、「男女雇用機会均等法」が55.4%となっている。
- ・一方、「知らない」と回答した項目は、「SOGI」が84.8%と多く、次いで「候補者均等法」が76.2%、「ポジティブ・アクション」が70.6%となっている。



9. 男女共同参画社会の実現に向けて

問 26 男女共同参画社会を推進していくために府や市町村は今後どのようなことにかを入れていくべきだと思いますか（複数回答）

- ・「育児や介護のための施設やサービスの充実など、子育てや介護中でも仕事を続けられるような支援、仕事を辞めた人の再就職の支援を進める」が 72.4%と最も多く、次いで「仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める」が 58.7%、「府や市町村の審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する」と「民間企業・団体等における管理職への女性の登用、男女の均等な取扱いが進むよう支援する」が同率で 50.5%となっている。
- ・就労を継続できる環境づくりや働き方の見直し、女性の管理職への登用、男女の均等な取扱いについて力を入れるべきという意見が多くなっている。



【主なその他回答】

- ・男女共同参画プランについて、豊能町民にもっと周知することが必要
- ・初等教育から性別役割分担意識を持たせない教育を推進する
- ・教育が未来を作ると思います ・小学校から、男が先とか男がいばるのを止める
- ・男性女性どちらかに特化したものではない政策をするべきだと思う
- ・男女の乗り越えられない差は出産だけである。それ以外のことについては個人の選択的平等にすると良い。
- ・平等というよりも、出産しても安心して働ける環境が欲しい。
- ・これから社会に参画する若い世代に、経済的余裕を持たせるような制度。
など

自由記述回答

【男女共同参画社会に関して、あなたのご意見・ご要望をお聞かせください】

自由記述回答は150名(18.4%)で、意見は延べ数で274件が寄せられた。これらの意見を12項目に分類した。項目ごとの件数は次のとおりである。

| 項目番号 | 項目 | 件数 |
|------|------------------------|-----|
| 1 | 社会全般について | 27 |
| 2 | 職場について | 24 |
| 3 | 家庭生活について | 14 |
| 4 | 「男女平等」教育について | 12 |
| 5 | 法制度や支援策について | 27 |
| 6 | 相談窓口について | 8 |
| 7 | 女性の参画支援・登用について | 12 |
| 8 | 男女共同参画に賛成(男女の区別はなくすべき) | 28 |
| 9 | 男女の区別はあるべき | 23 |
| 10 | その他 | 55 |
| 11 | 豊能町への意見・要望 | 17 |
| 12 | 本調査について | 27 |
| | 計 | 274 |

※意見の内容により、複数の項目に該当する場合もある

次頁以降、項目番号順に意見を掲載する。

1. 社会全般について (27 件)

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|-------------------------------|--|------------------|
| 「男性優位社会」批判 | | |
| 1 | 家事育児以外でも、男性は社会に甘やかされすぎていると思います。この設問でも、男性は「参加」と表現されています。大人ならば自分の身のまわりのことや、ある程度の家事は当たり前にするべきでしょう。もっと当事者意識をもってください。 | 女性 30-39 歳 |
| 2 | 男性はいつまで下駄をはかされて満足しているつもりですか？ | 女性 30-39 歳 |
| 3 | 医師など女性が優秀でも落とされてしまう現状を改善すべきです。 | 女性 30-39 歳 |
| 4 | 政治においても、女性に立場をうばわれたくない、権力をもったおじいちゃんたちが女性の進出をはばんでいるのは目に見えて分かる、情けないと思う。国が女性半分男性半分の立ち場を取らなくて、どーするんだ？とよくおもいます。 | 女性 40-49 歳 |
| 世代間ギャップ | | |
| 5 | 以前、中学校で教鞭をとらせて頂いておりました。その中で感じたのは、今の子どもは昔ほどゲイやトランスジェンダーといった方に抵抗を持っていないということです。しかし残念なのは、社会に出た時に上の世代が圧倒的に今の時代と逆行した考えをお持ちなことですね。 | 男性 20-29 歳 |
| 6 | 今だに上に立つ人間が女性を軽く見てる人が多いのは事実です。 | 男性 20-29 歳 |
| 7 | 教育現場では男女平等への意識改革はすすんでいます、社会ではまだまだだと思います。 | 女性 20-29 歳 |
| 8 | 最近の若い子は、だいぶ意識が変わってきたと思う。 | 女性 40-49 歳 |
| 9 | 特に年配の世代では、昔ながらの男尊女卑の考えが根強いと思う。 | 男性 70 歳以上 |
| 共同参画の障壁となる経済格差 | | |
| 10 | 私は男女間の格差というものは、その経済的余裕のなさに比例すると考えています。理由として一つは経済的な不安によって人々の心の余裕が失われ、物事に対する寛容さがなくなることがあります。男女共同参画社会という一つの理想の実現のためには経済的豊かさの実現も必要だと考えています。 | 男性 20-29 歳 |
| 11 | 単純に世の中のあらゆる問題を解決する為に、沢山お金をかけられる方が良いということがあります。計画の実行に使うお金が多ければ多程、その規模や選択肢が増えて良い結果を出す可能性は高くなり、逆もまた然りです。 | 男性 20-29 歳 |
| 12 | 現状、共働きしないと生活、出産もままならないために男女共に働いている(働かなければならない)ようなふしがある。 | 性別無回答 20-29 歳 |
| 「男性優位社会」に隠れている男性の不利益など | | |
| 13 | 男性が育児・家事をすることは推奨されていても、その周りにいるひとがサポートしたり、理解しなければ、さらにイクメンが減るのではないのでしょうか。 | 女性 20-29 歳 |
| 14 | セクハラも女性に多いコトかもしれませんが、少数でも男性もあるコトだと思います。 | 女性 30-39 歳 |
| 15 | 正直、女性が不快に感じる瞬間=セクハラ・パワハラとなってる気もします。女性がイケメンにされたらうれしいコトを女性から見て“好きじゃない”“気持ち悪い”男性からされたから=パワハラ、セクハラとなってる様な社会が嫌です。この場合、この方々もパワハラ、セクハラを受けてる。とならないのが不思議です。 | 女性 30-39 歳 |

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|---------------------|---|---------------|
| 16 | 育児・家事に男性はもっと参加せよと義務になってくると、(効率化が叫ばれている)社会でギリギリのところ働いている男性には、休むところが全くなり疲弊していきそう。 | 女性 60-69 歳 |
| その他の社会全般について | | |
| 17 | ハラスメントや差別意識を失くしていこうという活動は結構なのですが、一方で古き良き習慣や共同体が衰退することになり、また個人の尊重ばかりが叫ばれて結果的に少子化が進み地域の活気がなくなるのはいただけません。 | 男性 30-39 歳 |
| 18 | 上の立場の者が後輩の私的部分に踏み込むことを過度におそれ、家庭を築くことの大切さ、仕事との両立の見識といったことが、若い層につたわらなくなっていく危うさを感じます。個の尊重は結構なことで、他人に立ち入らせない物理的・心理的領域が守られることは望ましいのですが、なにかしらの共同体(国家、地方自治体、地区自治会など)あつての個人が保障されるということが理解されなくなりつつあるのでは、と感じます。 | 男性 30-39 歳 |
| 19 | 日本は全然男女平等が進んでいない! | 女性 30-39 歳 |
| 20 | 社会では男女平等とは、まだまだ確立されていないと思う。特に家庭では、まだまだである。 | 男性 50-59 歳 |
| 21 | 少子化などは、女性が男性並みに働くようになったことも一因ではないか? | 男性 60-69 歳 |
| 22 | 自己責任という言葉が人々を苦しめている。ともかく物理的にも精神的にもゆとりが社会的な要因としてなくなってきていると思う。 | 女性 60-69 歳 |
| 23 | 社会・会社・自治体など全てにおいて、意識を改善していく必要。 | 女性 60-69 歳 |
| 24 | 男性優位が当然の社会で育ってきた男性の思考を 180 度転回させるには、啓蒙運動では効果が全くない。啓蒙で社会が変わるならアメリカでも黒人差別が無くなっているだろう。 | 男性 70 歳以上 |
| 25 | 行政にたずさわる人々の必要性を感じているものの、いつか将来的なものと思い、取組がないく国会議員・地方公務員等 | 男性 70 歳以上 |
| 26 | 今、政治家がどれほどひとりひとりを大切にしているか、謙虚に問い直してもらいたいものである。 | 女性 70 歳以上 |
| 27 | 世界経済フォーラムが、ジェンダーギャップ指数を公表しているようですが、日本はいつも最下位に近いようです。2006 年のジェンダーギャップ指数から全く改善されていません。 | 女性 70 歳以上 |

2. 職場について(24 件)

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|-----------------|---|---------------|
| 意識変革の必要性 | | |
| 1 | 女性の管理職への登用や、育休制度をいくら充実させたとしても、それを気兼ねなく利用できる周囲の理解がなければ意味がないように思います。 | 女性 20-29 歳 |
| 2 | 核家族になり、専業主婦では生活できない家庭が大多数の現状を理解している方が会社の役職者に総入れ替わりした時、初めて日本の働き方が変わると思います。 | 女性 30-39 歳 |
| 3 | "上司の理解が得られない"という意見もあるので、若い人というよりは、上の人の意識を変えることが重要ではないだろうか。 | 女性 30-39 歳 |
| 4 | 子供が病気などのとき、女性が優先してあたりまえのように休む。社会も男性に育児休暇を認めているのであるから、女性ばかりを優先させて休ませるのはおかしいと思う。会社を休むのは女性で、それが当たり前になっているのは本当の平等といえない。 | 男性 50-59 歳 |

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|-----------------|---|------------------|
| 5 | (仕事)と(育児・介護・看護)は別の事という発想ではなく、一体化したものであるという発想でないと、当該課題はなかなか解決できないのではないだろうか。 | 男性 60-69 歳 |
| 6 | 社内のセクハラであれば厳重処分となることが常識化されねばならない。 | 男性 70 歳以上 |
| 長時間労働の解消 | | |
| 7 | とりあえず働く時間を短縮すればみんなハッピー。充実するし、海外の人からロボットみたいだと言われることもなくなると思う。 | 女性 20-29 歳 |
| 8 | 男性、特に 40 前後の働きざかりの人が会社にしばられていることがすべて…。男性は長時間労働 and 長期出張、転勤も多いので、女性はそれにあわせて自分のライフスタイルを変化させざるを得ない。男性がもう少し家にいれる時間をつくる会社にすべき。 | 男性 30-39 歳 |
| 9 | 一時期、欧州への出張が多かったのですが、一般労働者の労働についてかなりきびしく権利がまもられていた。(1 週間の労働時間 38h/週がまもられていた)。そのかわりに無駄な仕事 and 不要なルールがなかった。(不要なルール、意味がないことをボクメツすることが習慣化されていて、無駄な仕事がないから早く回る。) | 男性 30-39 歳 |
| 10 | 昔と比べ、便利な機械や道具が増え作業が効率化しているのに、労働時間が減っていかないのがおかしい。 | 女性 40-49 歳 |
| 11 | 労働時間の長い社会がおかしいと思う。ヨーロッパのように食事や余暇に時間を十分さければ、おのずと内需拡大にもなると思うし、子育てにも男女ともにゆとりを持ってかかわれると思う。 | 女性 60-69 歳 |
| 待遇の改善 | | |
| 12 | 働きたい人が働き、家庭を担いたい人がそうできるような賃上げなどが必要だと感じる。 | 性別無回答 20-29 歳 |
| 13 | 未婚者や子どもの難しい人は子育て、介護をしている人のフォローにまわる事が多い。その立場に立ててないから分からない所も多いけど、フォローばかりしていると、都合良く使われている気分になってくる。1 人分の仕事をして、フォローして 1.5 人分の仕事をして手当ても何もないし。休憩を減らしたり、時間のやりくりを頑張って就業時間内に 1.5 人分の仕事をして、疲れるだけで終わる。平等平等言うなら、都合良く使われる人にも「フォローに入ろう」と思える何かを考えないと、頼る側、頼られる側の人間関係が悪くなるだけだと思う。 | 女性 30-39 歳 |
| 14 | 最近では男性が育児や介護に関わりやすいように配慮してくれる職場が増えてきてはいると思うのですが、まだまだその為の休暇をとるとなると難しいように思います。 | 女性 60-69 歳 |
| 15 | 現在女性が多い職種の待遇を良くすれば良い。看護婦とか保育とか図書館司書とか。 | 男性 70 歳以上 |
| 変革は不要 | | |
| 16 | 育休を使い、あえて働かない大人を育てる日本に将来の不安を感じます。 | 男性 30-39 歳 |
| 17 | 経営者の立場からすれば、結婚、出産で仕事を辞める可能性がある女性より男性を優遇するのは当然である。平等を求めるのであれば、文字通り平等な条件で働くべきであり、どちらかが負担するものではない。男性が女性がと言っている時点で間違えである。 | 男性 30-39 歳 |
| その他 | | |
| 18 | 私は就職するまでは、さほど男女の差を感じることはありませんでした。しかし、会社に入ってから「女性だから～」と言われることも多く、自分の性別を意識することが増えました。 | 女性 20-29 歳 |
| 19 | 男女がもっている特性を最大限活用できるワークスタイルをめざすこと。 | 男性 60-69 歳 |

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|-----|--|---------------|
| 20 | 職場では管理職以外、一つの課の中では男女を問わず誰でもみんながひととおりの仕事をこなせる様にすれば、欠席者や退職がでても仕事上のミスや遅れが最低限におさえられるのではないかと思う。 | 女性 60-69 歳 |
| 21 | 何でも彼でも、男女が平等であればよいという考えは反対である。但し、仕事の時間、給与、待遇に関しては平等であるべきである。 | 男性 70 歳以上 |
| 22 | 育児休暇等の休みは、民間では無理。代りをする人がいない。 | 男性 70 歳以上 |
| 23 | 公務員、企業家の責任も大きいです。 | 女性 70 歳以上 |
| 24 | 豊能町という狭い地域で、誰がパワハラを訴えたかすぐわかる。狭い職場のことで働き辛くなる。訴えられない地域性もあると思う。 | 女性 70 歳以上 |

3. 家庭生活について (14 件)

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|-----|---|---------------|
| 1 | まずは家庭から平等を心がける。家事分担、収入分担。 | 男性 30-39 歳 |
| 2 | 子育てや介護を家庭だけで見る必要がないと思います。社会的な資源も必要だと思いますが、家族も自分の家族だけにとらわれなくて良いのかと感じます。 | 女性 30-39 歳 |
| 3 | 働かねば食べていけない状況さえなければ、私自身ももう少し子供と過ごす時間をとれたのになと思います。 | 女性 30-39 歳 |
| 4 | お互い働いていれば、家事を分担することは当たり前。 | 女性 30-39 歳 |
| 5 | 豊能町に住んでいる人は、男の人がしっかり稼いでいる専業主婦の家庭、もしくは自営業の家でなければ非常に難しい立地なので、ある意味一昔前の日本だと思う。そのおかげでお母さんが家において子供は安心できているように思う。 | 女性 40-49 歳 |
| 6 | 家事や育児が基本的にめんどろであるから、立場の弱い女性に押しつけることになる。小さい頃からそういう家庭で育った子は、みんな全してお母さんがすれば良いと思っていることが多い | 女性 40-49 歳 |
| 7 | 子供が生まれたら、世話をしなくてはいけないという責任感が生まれ、それをきっちり取り組もうとすると、いくら子供がかわいくともストレスもたまったりしたので、忙しくても、最低週 3 日、4~5 時間働ける仕事でもあれば息ヌキができていいのになと思った。 | 女性 40-49 歳 |
| 8 | 最低週 3 日、4~5 時間働ける仕事をするには保育所代の方が高額になり預けられない現実がある。特に、配偶者が正規社員で普通の収入があれば高額になる。 | 女性 40-49 歳 |
| 9 | 夫婦であるなら男性も半分は協力すべきである。 | 男性 50-59 歳 |
| 10 | 個々の家庭内で、そもそも男尊女卑がなくなる限り、いくら一般社会や企業で男女平等が進んでいるとしても、いつまでも男性は産休・育休は取らないし、子供の送迎や通院をさせるのも女性が多い。家庭が男女平等であれば、おのずと社会もそうなるはず。 | 女性 50-59 歳 |
| 11 | 保守的かも知れないが、私は、子どもと過ごす生活(時間)を大切に考えフルタイムでは働いてこなくて良かったと思っている。 | 女性 50-59 歳 |
| 12 | 教育の場はもちろんのこと、家庭内でも子どもが小さい頃から男女の差ではなく一人一人の個性、特性が生かされるように育てていく必要があると思います。 | 女性 60-69 歳 |
| 13 | (働く) 女性は、以前から疲弊しているのだから苦勞を分かち合うのが夫婦としてよいと思うのだが、家庭にだけ責任を押しつけるのはどうかと思う。 | 女性 60-69 歳 |

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|-----|--|---------------|
| 14 | 家庭では、夫婦で役割分担を決めなくてもどちらか手がある方が家事をすれば時間を作れるし、空いた時間、プライベートな時間も作れると思う。 | 女性 60-69 歳 |

4. 「男女平等」教育について (12 件)

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|-----|---|---------------|
| 1 | 学校等できちんとした性教育をしてほしい。私自身は、女性の生理現象について、身体的な現象としては少し知っていたものの、とくに精神的な影響については全く無知であった。もっと早く、適切な知識が身についていれば、もっと配慮のできる場面があったのではと思う。 | 男性 20-29 歳 |
| 2 | 小・中学校教育で、男女共同参画社会について伝えていくことで、人格形成期での教育となり効果があると思います。 | 男性 20-29 歳 |
| 3 | 幼い頃の潜在的な教えは、気づきづらいつら差別的考えにつながります。根本的に考えを見つめ直す機会や方法について、学校などの集団で教えることができればよいと思います。 | 女性 20-29 歳 |
| 4 | 「初等教育から性別役割分担意識を持たせない教育を推進する」これが大事だと思います。教育を変えることが大切。 | 男性 40-49 歳 |
| 5 | 教育現場において、性別による区別・差別をやめる。 | 男性 40-49 歳 |
| 6 | 子供の頃から、家事、育児は家族全員の仕事としつけることが大切。特に、仕事してれば家事育児しなくて良いと思っている人が多く見られる。仕事は家事と同列ではないと教える必要がある。もう大人になってる人を変えることは難しいので、子供の頃からの教育が大切になると思われる。 | 女性 40-49 歳 |
| 7 | 学校(義務教育→高校・大学にかけて)では、未だに社会生活や生きていくために必要なことが教えられていない。やっと投資や英語教育の低学年化が行われるようになってきたが、法律・労働・結婚・男女や性の多様化教育など、ほとんどのことができていないから成人しても身体だけ大人で、社会に出ていくことになる。教育を充実させることが、これからどんどん小さくなっていく日本でも住みづづけたいと思える国になるのではないかと思います。 | 男性 50-59 歳 |
| 8 | 高齢者より、これからの未来を担う子どもたちに、幼年期から教育の一環として、共同参画について教えてほしい。少人数の学校だからこそ、子どもたちに自然に学んでもらえると思う。 | 女性 50-59 歳 |
| 9 | 男女平等をいう意識を、子どもの時から学習することが必要だと思います。 | 女性 60-69 歳 |
| 10 | 情報・教育を享受できなければ意識の改革がなされる筈はない。 | 男性 70 歳以上 |
| 11 | 退職前は、教育関係の仕事についていましたので、研修で男女共同参画について学ぶ機会が多く、自分なりに考えることも多かったです。 | 女性 70 歳以上 |
| 12 | 低学年児の「クン」「チャン」づけを、全員「さん」付で呼ぶこと。女の児・男の児という群れを作らない。日頃の生活様式を差別してないか考えること。男児でも料理や掃除など手伝いさせる。社会観が男、女と差別が産れないように教育していく。 | 女性 70 歳以上 |

5. 法制度や支援策について (27 件)

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|---------------|--------------------------|---------------|
| 法制度の充実 | | |
| 1 | 未来ある子どもたちの為に法整備を至急して下さい。 | 男性 20-29 歳 |

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|------------------|--|--------------|
| 2 | 企業については、具体的なルールを設ける。例えば管理職の男女比などを公にして、企業評価の数値にするなど。育児、介護休暇の取得率など。 | 男性 30-39歳 |
| 3 | 社会の全ての人間に、男女共同参画社会の実現に向けて変わってもらうためには、制度やルールを作り強力にそれを実行する必要がある。(例：産休・育休を男女関係なく同期間取得を義務付ける→職場は人員に不足が生じる際に対応せざるを得ない→徐々に対応することが「普通」になる→常日頃から業務の回し方を準備する) | 女性 30-39歳 |
| 4 | 男女それぞれの特徴を理解した上で、制度や法整備を行って欲しい。 | 男性 40-49歳 |
| 5 | 法律からもっと平等や女性が働きやすい整備をしていくべき | 男性 50-59歳 |
| 6 | 育児、介護、看護を仕事の一部として組み入れた働き方のできる、①社会のしくみ、②制度、③法律が必要。 | 男性 60-69歳 |
| 7 | DV 関連法があるのだから、何かあればただちに警察が事案化して取りくむべきで、何度も話を加害者側から聞く必要なし、なまぬるい。接近禁止命令をすばやく発令することが重要。 | 男性 70歳以上 |
| 8 | 官公庁、一般企業は9:00~17:00までの勤務を原則とし、それ以降は原則禁止を法令化する(但し、サービス業その他公共機関等々について、別途、規定)→残業等を禁止、削減を法制化し、男性の家事、女性のスキルの向上の時間を増やす。男・女とも「産休」制度の推進、むしろ強制的な積極的推進。 | 男性 70歳以上 |
| 経済的支援について | | |
| 9 | 女性の低賃金が、そもそもの生活基盤や安定をこわしてしまっていると思います。 | 女性 20-29歳 |
| 10 | 女性ももっと稼げる人が増えれば、DV 自体も減ると考えます。男女の収入格差も DV の原因の1つと考えている。 | 男性 30-39歳 |
| 11 | 労働については、男女ともに賃金を上げ、プライベートな時間をもてるよう勤務時間を減らし、雇用を流動化させるべきです。 | 女性 30-39歳 |
| 12 | 生涯年収の平均値が、すでに男女差を明確に象徴していると思うので、まずは女性の生涯年収が上がるようにしていくべきだと思う。 | 女性 30-39歳 |
| 13 | 相談の場を持つだけでなく、具体的に支援(特に経済的に)がなければ参画は難しい。 | 女性 30-39歳 |
| 14 | 日本ではシングルマザーに対して差別的で保護・保障が少ない。アメリカ、ヨーロッパでは、一般的な夫婦と同様に、シングルマザーは保護されている。 | 男性 70歳以上 |
| 15 | だれもが自立して生きていく力をつけていくべきです。(経済的にも精神的にも)それぞれ個人差があるので、不足分は国が保障できる体制をとることがあたり前です。 | 女性 70歳以上 |
| 子育て世代への支援 | | |
| 16 | 妊娠・出産のことや、比較的女性の方が男性より体力が劣っている人が多いと思うので、配慮してもらえると助かる時もあります。 | 女性 20-29歳 |
| 17 | 「面倒見たい人が面倒をみる」ことがもっと当たり前になり、マッチングできれば社会が回りやすくなるのでは。 | 女性 30-39歳 |
| 18 | 子育て支援の充実により不安なく子育てに専念できる環境作りの方が大事だと思います。 | 女性 30-39歳 |
| 19 | 国全体の活動を考えると、いろんな施策の中で安心して2人でも3人でも子どもが持てる社会になるような制度、施策の充実が必要かと思います。 | 男性 60-69歳 |

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|------------|--|---------------|
| 20 | 子育て、仕事、介護と自由に使える時間が無い女性が、安心して社会へ参加したり、向上の為の時間がとれる環境を整えてほしい。 | 女性 60-69 歳 |
| 21 | 保育所の充実、保育時間を 8:00~19:00 まで等、育児を社会全体のかかわりとしてとらえていく。 | 男性 70 歳以上 |
| 22 | まず、子どもを生みはたらける社会を今すぐつくってほしい。給付金なんちゃらといって配布するのではなく、生み育てやすい環境作り、どここの地方でもとりくむ。そのための人材作り、長い目でそのための予算を使ってほしい。そうすれば、女性も社会の地位があがり、世の中の考え方も行動力も男性と同じようになると思う。 | 女性 70 歳以上 |
| その他 | | |
| 23 | 北欧 3 国のような、改革が必要。個々においては差別を感じているが、行政の取組が遅れている。 | 男性 70 歳以上 |
| 24 | (文部科学省所管) 独立行政法人男女共同参画機構 (新たに設ける) → 地方男女共同参画機構 (地方毎にそれぞれ設ける。その地方に合った施策を行う) (長はすべて女性を任命する) | 男性 70 歳以上 |
| 25 | 日本の戸籍、結婚概念を国レベルで見直しする必要がある。そうで成れば、日本の人口は減っていき、男女共同の平等理念も、ほど遠いものに成る。 | 男性 70 歳以上 |
| 26 | 数多くの法律や審議会等(このアンケートもそのうちの一つです)を作っても、現に男女差別のある社会に法を平等に適用しても社会は全く変わらないと思います。要するに政策立案、実施にあたって本気度が無いということでしょう。現状を変えるような政策や法を作らなければ意味がないと思います。立法機関を構成する議員の意識が変わらない限り、日本の男女不平等解消は絶対不可能だと思います。制度を変える実行性ある施策が必要です。 | 女性 70 歳以上 |
| 27 | 制度が変われば意識が変わり、意識が変われば行動が変わり、社会が変わります。 | 女性 70 歳以上 |

6. 相談窓口について (8 件)

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|-----|---|------------------|
| 1 | 相談窓口の充実よりも、パンフレットを置くなど、他の誰にも知られずに学べる・問題を解決する手段がもっと充実していて良いのではないかな。 | 男性 20-29 歳 |
| 2 | 近年男性の育児休暇取得がすすめられています、それに対する相談窓口やネットワークを発展させるべきだと思います。 | 女性 20-29 歳 |
| 3 | 男性の方が自殺者多いのに、性の話になったら、たいてい「女性のため」。男性の相談窓口を増やせ! | 女性 20-29 歳 |
| 4 | 男女共同参画社会と言いながら、問 24-3 に記載されている相談窓口は「女性向け」と「誰でも可」しかないことに違和感はありませんか? 「男性」と「どちらでもない」人達は「誰でも可」しか利用できず、行政サービスの品質に性差があることは問題ありませんか? それぞれの専用窓口を設置するか、全てで「誰でも可」とするかの対応は不要ですか? | 男性 30-39 歳 |
| 5 | 男女の関わりに関しては、男性女性の話をきける場を増やすべき。DV セクハラをうけてる人は話せないから悩んでる。 | 女性 30-39 歳 |
| 6 | 地域に住んでいる人と役場が意見交換する場、(固い感じではなくフランクに話せる場)をつくったりするべきではないか。若者を増やしたいならもっとつくるべき。 | 女性 30-39 歳 |
| 7 | 相談業務にあたる行政の職員の意識変革、研修を十分に行なって下さるようお願いいたします。 | 性別無回答 60-69 歳 |

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|-----|--|--------------|
| 8 | 公的な相談窓口と受皿(施設含む)の積極的 PR が必要である。居住している自治体だけでなく最寄の自治体も含めて、自宅から離れた相談しやすいところを考えるべきである。(ご本人の機密保持を考えて)相談の手順も簡単にできるように配慮する。(Q&A の事例も明示する)相談と支援の法制化も必要である。 | 男性 70 歳以上 |

7. 女性の参画支援・登用について (12 件)

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|-----|---|---------------|
| 1 | あくまでも目指すべきは、男女やそれ以外の性別全員の“平等”であり、女性や LGBTQ をむやみに優遇するのも平等ではないのではと感じます。 | 女性 20-29 歳 |
| 2 | 男女共同参画社会を実現するためには、やはり女性の社会進出の機会をふやすことが必要と思う。機会は増えてきていると思うが、共同参画というにはまだ少ないというのは、やはり出産、育児により社会的にもっとも活躍できるタイミングで離脱してしまうのが原因だと思う。 | 男性 30-39 歳 |
| 3 | 「男女共同参画社会」とはなっているが「女性」に重点が置かれていると思う。 | 男性 30-39 歳 |
| 4 | ただただ形だけ女性の管理職を増やせばいいということではなく、それぞれのライフプランに合った、選択肢が増えていけばいいと思います。 | 女性 30-39 歳 |
| 5 | 何事も「女性を優先すべき」とはならず、男女共に能力に見合った評価がされる世の中になればと思います。 | 女性 30-39 歳 |
| 6 | 管理職への女性の登用には賛成ですが、育児や介護のための制度を自身も十分に利用した経験のある人でなければ、意味がないと思います。反対に、その条件を満たしているのであれば、管理職が女性である必要はないと思います。 | 女性 30-39 歳 |
| 7 | 女性が社会に進出し、男性と同じように働くことは望ましいが、男女平等ということで女性の管理職への登用を無理にする必要はないと思う。男性でも女性でも能力のある方を平等に起用してほしい。 | 女性 40-49 歳 |
| 8 | 男性並みに社会で重責を任いたいなら、生活の一番を職務に向ける覚悟が必要だと考える。 | 女性 50-59 歳 |
| 9 | 政治レベルが低すぎる、あるいは進歩しない大きな原因は女性不在によると思う。ドラスティックなアクションが必須。 | 男性 60-69 歳 |
| 10 | 国がつぶれかかるまで「候補者均等法」を強行して、真に有能な女性を発掘するしかない。 | 男性 60-69 歳 |
| 11 | 世の中、会社においても過度の女性優遇が横行しており、業務の効率化よりも世間体を重視する風潮が強まっている。本末転倒である。 | 男性 60-69 歳 |
| 12 | 女性ばかりを優遇するのめどうかと思います。男性の方の中にも不平等な扱いを受けてる人もいます。 | 女性 60-69 歳 |

8. 男女共同参画に賛成 (男女の区別はなくすべき) (28 件)

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|-----|--|------------------|
| 1 | 自分には心の性別がありません。なので男女平等であることは自分のような人にとっても、とてもありがたいことなので、このような取り組みは今後とも続けてほしいと思っています。 | 性別無回答 18-19 歳 |
| 2 | 性別が違うために機会すら与えられない社会では良くないと思うので、そこは「公平」ではなく「平等」な機会が得られるようになればいいと思っています。 | 男性 20-29 歳 |
| 3 | 男女がお互いを尊重し合い、学校、職場、家庭、地域社会などでのあらゆる分野で、性別にかかわらず個性や能力を十分に発揮し、喜びや責任を分かち合うことができる社会になる必要があると思う。 | 女性 20-29 歳 |

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|-----|--|------------------|
| 4 | 1 人の人として、性別以外の能力や実績を生み出せるということを理解し合える世の中になればいいかと願っています。 | 女性 20-29 歳 |
| 5 | 男女共に仕事をするというだけが男女共同参画ではないと思う。共働きも、専業主婦(主夫)も、様々な家庭のあり方を許容できる社会が正しい。仕事も家庭も、男女関係なく、やりたい人が安心して参加できる社会が男女共同参画社会だと考える。 | 性別無回答 20-29 歳 |
| 6 | 男女共同参画社会に関して、まだまだ個人的には何も変わってない様な感じがするのですが、永遠に挑戦していくものなんだと思います。(少しでも皆が幸せだと感じて生きていく為に。) | 女性 30-39 歳 |
| 7 | 性別にとらわれない考え方を増やしていきたいなら男、女と性別を考えるのをやめて個々としての能力で分けていく社会になったら素晴らしいと思います。 | 女性 30-39 歳 |
| 8 | 性別に関係なく対等な立場である事は大切だと思う。 | 女性 30-39 歳 |
| 9 | 海外では、女性が働いて男性が家事をすることもある。 | 女性 30-39 歳 |
| 10 | 社会の風潮として、男性も子育て、介護に参加できるようにもっと意識を変える必要があると思う | 女性 30-39 歳 |
| 11 | 全性別・全年齢の意識改革、社会通念、慣習を改める必要はある。理想論にはなるが、男女共同参画を多少無理矢理に進め、意識は後からいく程度が丁度良いのではないかと。 | 女性 30-39 歳 |
| 12 | これからの時代は、男女性別にかかわらず、世界の人々が互いの人権を尊重して過ごせるようになりたいものです。 | 女性 40-49 歳 |
| 13 | 男女の性別に関係なく育児、出産、介護などで休むにしろ働くにしろ、ストレスなく安心して暮らせる制度や社会になって欲しいです。 | 女性 40-49 歳 |
| 14 | 1999 年に男女共同参画社会基本法が施行されてから、ずっと変化していないと感じます。話題になった年に少しだけの改善があるだけのように感じています。 | 男性 50-59 歳 |
| 15 | 男女平等は守られつつ、しかしながらそれぞれ得意分野を生かせる社会になっていけば良いと思います。 | 女性 50-59 歳 |
| 16 | 「男女共同参画」に否定的な発言をしている議員を一人でも多く国会から排除すべきです。 | 男性 60-69 歳 |
| 17 | 男女平等社会の実現は絶対に必要なことであり、現実には時代とともに改善されてきたといえます。 | 男性 60-69 歳 |
| 18 | 頑張りましょう、お互いに！ | 男性 60-69 歳 |
| 19 | 男女間では「上・下」があるのではなく、それぞれがお互いの違いを認めつつ、協力してよりよい家庭、社会になっていくことを期待します。 | 女性 60-69 歳 |
| 20 | 男女共同参画社会が実現すれば、すてきな事と思いますが、私のようなデジタルツールが苦手な人間でも、困らない、参加できる活動を行って頂けるとありがたいです。 | 女性 60-69 歳 |
| 21 | 問 26 の⑦⑧の質問のように、まだまだ男性・女性の固定観念があると思います。気づかない差別、偏見に気づくよう、学びを深める必要があると思います。 | 女性 60-69 歳 |
| 22 | 法律や制度、メディアでの発信などでは、男女共同参画社会の為に着実に進歩してきていると思うが、実態があまりついてきていないように思う。 | 男性 70 歳以上 |
| 23 | 男女の別なく、各々の特長と言え資質を伸ばし、それぞれいかに発揮できる社会的環境を整えていくこと。 | 男性 70 歳以上 |

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|-----|--|-------------|
| 24 | 性別に関係なく、自分が進みたい道を選ぶ事が出来る社会の実現。 | 男性 70歳以上 |
| 25 | これから日本の人口が減少していくなか。男女共同参画社会を確立していくことは重大なことだと考えています。 | 男性 70歳以上 |
| 26 | 日本は先進諸国の中で大変遅れていて、そのことが社会的損失を招いていると思います。欧米先進国でも50年～100年までは女性従属型社会であったことを考えると、日本も意識や価値観を変えれば男女を問わずより多くの人が社会で活躍し、より活発な社会をつくることができると思います。 | 女性 70歳以上 |
| 27 | 何かにしても、男女平等にしてほしい。 | 女性 70歳以上 |
| 28 | 男性女性の差別なく、各々が甘える事なく、活動の場で責任の一端を、明日の社会を担ってほしいです。 | 女性 70歳以上 |

9. 男女の区別はあるべき (23件)

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|-----|---|--------------|
| 1 | 男女が性別に関係なく対等な立場にいることは大事だと思うが、そもそも生物学的に「体のつくり」や「感性」が違うのでそれぞれが活躍できる場が異なっているので、対等になることは厳しいと感じています。 | 男性 20-29歳 |
| 2 | どこまで男女平等を求めるのか気になります。 | 男性 20-29歳 |
| 3 | 皆の当たり前がそれぞれ違っている | 男性 20-29歳 |
| 4 | 男女平等は理想的ですが、平等にできない部分もあると思います。 | 女性 20-29歳 |
| 5 | 本人の意思を最も尊重できるような形に持って行かなければ、また別の困る人達が出てくると思います。例えば何にも参画したくない女性は、男女共同参画社会を推進しすぎると肩身が狭くなったりするのではないかと思います。また別の形の「男だから、女だから」を作り出すのだけはやめて頂きたい。 | 男性 30-39歳 |
| 6 | 男女、向き不向きがある中で、すべて平等にするべきという考えが理解できない。 | 男性 30-39歳 |
| 7 | 無理に両性が参加できる環境であるべきだが、同数にする必要がない。 | 男性 30-39歳 |
| 8 | 差別問題にしても人は十人十色で、差別など当たり前で問題はそれが不当かどうかであったはずですが。それが今では言葉が独り歩きし、差別の忌避を推進した為、逆差別や不当な平等など新たな問題を生み、区別と言葉を言い換える始末です。 | 男性 30-39歳 |
| 9 | 人間の中性化も気になるので、ある程度の区別は必要かと思いますが、1人1人が思いやりを持って差別する事のない世の中になれば良いのでは？と思っています！！ | 女性 30-39歳 |
| 10 | 男女には、身体や考え方が異なるので明確に同一とはいかない。 | 男性 40-49歳 |
| 11 | 男性でも女性でも、どちらかしか担えない役割があるので全てを平等にするのは難しいと思う。 | 女性 40-49歳 |
| 12 | 性別の多様性を追求して、トイレの表示がわかりにくかったり(男女のトイレの表示が全て同色の人の形で、どちらに入るか迷ったことがあります)、男女の区別をあいまいにしすぎて、そもそもの利便性が失われては、本末転倒だと思う。 | 女性 50-59歳 |

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|-----|--|---------------|
| 13 | 男女共同参画社会の意味を正しく理解して推進しないといけないと思う。性差があるのはあたりまえで、それぞれの立場を尊重し、思いやれる社会になればよいと思う。 | 女性 50-59 歳 |
| 14 | そもそも、男と女は違うのに、全てを平等にするのはおかしいと思う。 | 女性 50-59 歳 |
| 15 | 女性しかできることができなくなるのは困ります。 | 男性 60-69 歳 |
| 16 | あくまで適材適所であるべき。何でも男の真似をさせることが男女平等でも女性活用でもない。 | 男性 60-69 歳 |
| 17 | 男性女性は、もともとから機能の異なっている性ですので、そこから役割は当然違ってきます。義務教育の段階から明治憲法の悪を教えて、“おかあさん”に代表される女性の特質を教えていくことが大切だと思います。 | 女性 60-69 歳 |
| 18 | 女性のことは、女性でないとわかりづらいものとも思いますので、女性の政治家も半分は出すくらいの法律。又女性目線は、特に子供をもつ母親経験の目線は、きめ細く生命を慈しむ目線を男性以上にもっていると思いますので、その特質を充分生かせる制度は、社会をやさしく、安心な町にするべく大きく貢献していくと思います。 | 女性 60-69 歳 |
| 19 | 難しい問題だとは思いますが、何でも OK というのではないと考えます。 | 女性 60-69 歳 |
| 20 | 種の保存のために性があり、男女それぞれに肉体的にも感性も違いがあつてあたりまえ。その違いを生かす社会はどういうものかの議論がもっとあるべき。単に平等を言うだけでは解決しない。 | 男性 70 歳以上 |
| 21 | 均等であるべきだが、数の均等で流れない様に。 | 男性 70 歳以上 |
| 22 | 男が今では、全ての面において、下におかれ、やゆされているように思う。これで、イザ戦えといわれても、戦う奴はいない。現在の風潮では、勇氣ある男は育たない | 男性 70 歳以上 |
| 23 | 何でも彼でも、男女が平等であればよいという考えは反対である。但し、仕事の時間、給与、待遇に関しては平等であるべきである。 | 男性 70 歳以上 |

10. その他 (55 件)

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|-------------|--|---------------|
| 豊能町内のことについて | | |
| 1 | 豊能町でくらしていくのに、これから人とのかかわりを持ち、勉強して行きたい。 | 男性 20-29 歳 |
| 2 | 以前は仕事していて今は育児をしています、(こちらに住んで間もないですが)年配の方が楽しむ事ができる地域なんだと思いました。もちろんそれも大事なのですが、小さな子供が育っていきやすい、育てやすい状態になれば…とも思います。(私が、まだ知らない事もあるかもしれませんが) | 女性 30-39 歳 |
| 3 | 豊能町に住んでいる人は、男の人がしっかり稼いでいる専業主婦の家庭、もしくは自営業の家でなければ非常に難しい立地なので、ある意味一昔前の日本だと思う。そのおかげでお母さんが家にいて子供は安心できているように思う。 | 女性 40-49 歳 |
| 4 | 豊能町は高齢者が多い。特に旧村においては、自治会役員は高齢男性で占められており、旧態依然としている。考え方や価値観が、昔ながらの男尊女卑的な雰囲気なので、いつまでも刷新しないままである。(役員となり手不足も原因かもしれないが。)旧村の高齢者の意識改革は非常に難しいと思う。 | 女性 50-59 歳 |
| 5 | 地元の方の意見が片寄っているように思う。小学校でも、人権問題が起きても地元を気に遣っての指導が多々見られる。 | 男性 60-69 歳 |

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|--------------------------|---|---------------|
| 6 | 集会等参加にも「今までこうしてきたから！」と改善しようとしな。少子化が進んでいるので、以前と同じようにという考え方は改めるべきと強く思います。 | 男性 60-69 歳 |
| 7 | 最近、若いパパさんが子供を連れて出かけているのを良くみかけます、良い事です。 | 女性 60-69 歳 |
| 8 | 自治会、日中の会合、働いている者には難しい。持病があり、幹事や役員の活動が出来ないので病名を知られるのは嫌だったが退会した。 | 女性 60-69 歳 |
| 不平等はなくなるらない・解消は困難 | | |
| 9 | 折角、学校教育で男女平等などを伝えても、今、上の立場に居る人がそういう考え方でなければ矯正されてしまう…ただただ早く世代交代が進むことを祈るばかりです。 | 男性 20-29 歳 |
| 10 | 正直な話、自分が生きてる限り男女間のこの問題はなくなるらないと考えています。 | 男性 20-29 歳 |
| 11 | まだまだ、男性優位の場面をみると、男女共同参画社会になるには大きな課題があると思う。 | 女性 20-29 歳 |
| 12 | 全性別・全年齢の意識改革、社会通念、慣習を改める必要はあるが、その改革についてくることが出来るのは、そもそも関心のある個人に限ると考えられる。 | 女性 30-39 歳 |
| 13 | 日本では、男女平等は、絶対に無理があると思います。なぜなら歴史的背景があるので。 | 男性 60-69 歳 |
| 14 | 社会政治を見ると、閉鎖的な男社会、それではいくら女性の地位をあげ、女性が働きやすい環境づくりを唱えなくても、実行できないと思う。 | 女性 70 歳以上 |
| 社会・男性の意識改革が必要 | | |
| 15 | 出産は命を落とすこともある、大変な負担のかかる行為です。男性はあまりにその現実を軽視しています。どれだけ肉体的・精神的に負荷のかかることか理解する必要があります。出産で女性の身体はボロボロになるわけですから、育児くらい男性が主体的にすべきではないでしょうか？ | 女性 30-39 歳 |
| 16 | 社会の風潮として、男性も子育て、介護に参加できるようにもっと意識を変える必要があると思う。 | 女性 30-39 歳 |
| 17 | 先日、電車でズボン姿の制服の女子中学生を見ました。すてきだなと思いました。義母は夫が子ども(乳児の時)のおしめを替えているのを見て「そんなことさせられて、かわいそうに。おむつがえは奥さんの仕事でしょ」って言われました。昔の人の意識はもう変えられないので、若いこれからの人達に新しい価値感の世界を作っていってほしいなと思います。 | 女性 60-69 歳 |
| 18 | 社会・会社・自治体など全てにおいて、意識を改善していく必要。 | 女性 60-69 歳 |
| 19 | 社会の変化とともに私たちの考え方にも変化が必要だと考える。 | 女性 30-39 歳 |
| 共同参画等に対する批判的意見 | | |
| 20 | 性差を無くすとか言いながら、男がどうか女がどうか性差を考えさせる話ばかりするから差別が広がってしまうねん。「女性のため」と「マイノリティの差別すんな」ばかり人権学習で取り扱って、大多数派の男性を殺す気？！！ | 女性 20-29 歳 |
| 21 | SDGs は目標であり、目的ではありません。目標はあくまでも手段であることを忘れず、因果関係、相関関係を問わず弊害も含めこまめに評価して、損切り、廃案も考えられることが制度設計では大切だと思います。 | 男性 30-39 歳 |
| 22 | 一見無駄とも思える慣習も時の偉い人が考えているわけですから、今の人より愚かと決めつけるのはそれこそ只の偏見です。 | 男性 30-39 歳 |

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|------------------------|--|---------------|
| 23 | 育児・介護で仕事を辞めても生活できる社会にし、働きたければ働き、働きたくなければ働かなくてよいようにすべきで、一方的に社会復帰を求める考えはおかしい。 | 男性 30-39 歳 |
| 24 | 「男女共同参画社会」という言葉自体が、もう今の時代に合っていないように感じます。 | 女性 30-39 歳 |
| LGBTQ について | | |
| 25 | あくまでも目指すべきは、男女やそれ以外の性別全員の“平等”であり、女性や LGBTQ をむやみに優遇するのも平等ではないのではと感じます。 | 女性 20-29 歳 |
| 26 | LGBTQ とか、役者ばかり演じてて、本当にいるの？ | 女性 20-29 歳 |
| 27 | BL とかもっときちんと取り締まれよ！差別が水面下で広がってんぞ！！「表記すれば表現の自由が認められる」とか甘い幻想を語ってんじゃねえ！ | 女性 20-29 歳 |
| 28 | LGBT でも SOGI でも、テレビマスコミでよく耳にするが、急にアルファベットで言われても分からない人が多いのではないかと。言っている人も本当に分かっている？説明できる？性の言葉以外にも、アルファベットの言葉の他に日本語字幕でも付けて欲しい位。 | 女性 60-69 歳 |
| 29 | ジェンダーの問題が取り上げられていますが、たしかに精神的に肉体とは違うというのは理解は出来ますが、男性の体のまま(骨格)女性扱いするというのは非常に抵抗があります。(具体的に身近に例があるわけではありません)ニュース等で、会社の上司に「女子トイレを使用したいのなら身体的な手術をするべきだ」と言われて傷ついたというのがありました。女性の立場からすると、その上司の方の言い分に同調したいと思います。精神的に女性であっても肉体的優位はくつがえせないからです。(力ではどうしてもあらがえませんので) | 女性 60-69 歳 |
| その他(希望・期待・提案など) | | |
| 30 | 問 26 の 1 のように、女性だけでなく色々な世代の人間がルール作りに関わるようにした方が良いと思う。 | 男性 20-29 歳 |
| 31 | 社会に余裕が無いと男女平等は成り立たないと思いますので、単純に法律やルールで制限するだけではなく、性別関係なく余裕を持って暮らすことができる社会にしていく必要があるかと思います。 | 男性 30-39 歳 |
| 32 | 男性や女性に関わらず、義務教育の現場で、税制度や金銭感覚、大人になる前にリアルな日本生活を学ぶ場があれば、嬉しいです。 | 男性 30-39 歳 |
| 33 | 男女間にも、得意、不得意があると思います。どうか得意が増えるような日本になりますよう願います。 | 男性 30-39 歳 |
| 34 | 子どもの頃から、それぞれが望む生き方が社会の考えや制度で狭められないような社会であることを知り、自分で選択できる社会であってほしい。 | 女性 30-39 歳 |
| 35 | 男女の平等というのは子供の有無によってまた違ったレベルの話になると思います。 | 女性 30-39 歳 |
| 36 | 日本文化の歴史、利己主義、利他の精神の推移、グローバル化の是非の検討に立脚した男女共同参画社会を思案する必要がある。 | 男性 40-49 歳 |
| 37 | 性別によって選択肢が狭められる制服を撤廃すべき。 | 男性 40-49 歳 |
| 38 | 私は父親から不当にキビシクされ、時になぐられ、にらまれ、どなられ育ち、医師から虐待を認められ、脳に傷もあります。しかし、その様な女性差別も「そういうものだ」と、周りの家族がみな対応しません。この様な事を日本は終わらさなければなりません。 | 女性 40-49 歳 |
| 39 | 男や女やと言っている時点で、まだまだだと思ふ。男女というより、向き不向きで仕事なり政治なりできるような世の中の方がいいと思う。 | 女性 40-49 歳 |

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|-----|--|---------------|
| 40 | 金が中心の世の中のあり方を変えてほしい。人口が減っているのに経済成長とか白々しくきこえる。成長するために労働時間を減らせない→みんな余裕ない→ジェンダー問題をかえりみる余裕ない→今の社会が慣性でつづいていく。となっているのでは。 | 女性 40-49 歳 |
| 41 | 小学生の頃は、男の子の方が大事にされていると性差別を感じて、強い女性になりたいと思ったが、強い女性と強い人間を混同していたように思う。 | 女性 50-59 歳 |
| 42 | 企業で働くことだけが(高収入を得ることだけが)社会的価値のある人間とは思わない。それぞれの価値感と多幸感の問題だと思う。 | 女性 50-59 歳 |
| 43 | 権力が「男の方が上」は違うと思うので、その部分を平等にすれば良いのでは？ | 女性 50-59 歳 |
| 44 | これから先、若い人達が住みやすい社会になるよう望みます。 | 女性 60-69 歳 |
| 45 | 太古の昔から、男性は狩りに女性は家を守るという傾向があったことは否定できない事実だと思うが、個々それぞれに特性・得手・不得手があるのも当然だから「できるものがやる」、それぞれの能力が生かせる社会にしていく必要があると思う。 | 女性 60-69 歳 |
| 46 | 「男らしい」「女のくせに」も全く聞かない世の中にはなっていないようです。男の子なのに人形やぬいぐるみが好き、女の子なのに空手やボクシングが好きと、個々ではなく男、女という分け方で特別視されている場面もよく見られます。 | 女性 60-69 歳 |
| 47 | 男女平等といいながら、女性だから許される事もあるのはある意味甘えがあると思います。(以前働いていたので、そう感じるがありました) | 女性 60-69 歳 |
| 48 | 現状とあるべき、あってほしい姿のギャップが大きい。人々の意識を変えるのは、本当に難しいと思います。 | 女性 60-69 歳 |
| 49 | 適材適所を基本に！！ | 男性 70 歳以上 |
| 50 | 男女平等、仕事、性暴力・性犯罪については、小生が就職時の意識で記入しました。 | 男性 70 歳以上 |
| 51 | 皆がより良い社会になることを望む。 | 男性 70 歳以上 |
| 52 | 立法趣旨を理解し、書いてないことはしてもよいと解する社会からの旅立ちが必要。 | 男性 70 歳以上 |
| 53 | その様な社会に変わりつつある。 | 男性 70 歳以上 |
| 54 | だれもが安心して、安全に暮らせる社会をめざして役割を果たされることを望みます。 | 女性 70 歳以上 |
| 55 | 男性、女性にこだわらず、物事に対して人間的(として)に考えることが大切だと思う。 | 女性 70 歳以上 |

1 1. 豊能町への意見・要望 (17 件)

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|-----|---|---------------|
| 1 | 希望ヶ丘の幼稚園、余野の保育所もなくなって、子供もあずけるところも遠い。女性のほうが負担はふえると思う。 | 男性 20-29 歳 |
| 2 | 出産育児の負担を男女バランスよくできるような社会・風習・意識付けできる世の中になるよう、自治体レベルからでも進めていけたらいいですね。 | 男性 30-39 歳 |

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|-----|--|------------------|
| 3 | 地域に住んでいる人と役場が意見交換する場、(固い感じではなくフランクに話せる場)をつくったりするべきではないか。若者を増やしたいならもっとつくるべき。 | 女性 30-39 歳 |
| 4 | 豊能町を支えている税金の担い手は、お金を稼ぐと子供の手当てが乏しくなる。子育てし易い町を目指しているはずなのに、お金を稼ぐと子供が差別を受けるといふ悲しい仕組みに非常に憂慮をおぼえる。男女平等もいいけど、その前に子供に平等に権利を与えてあげて欲しい、豊能町の未来に目を向けて欲しいと思う。 | 女性 40-49 歳 |
| 5 | 議員数削減・行政サービスを精査し、子育てのしやすさ、通勤通学のしやすさを充実することで、住民の定住化する方策を検討してほしい。 | 女性 40-49 歳 |
| 6 | この課題は、行政、政治が率先して改革していかなければならない事案です。政治、行政が変わらないのに一般社会に変化はありません。 | 男性 50-59 歳 |
| 7 | 男女平等、それぞれの立場、状況を把握して、町はよりそってほしい！！人にやさしい町になってほしい！ | 女性 50-59 歳 |
| 8 | 公務員の職場は意識改革や制度も充実しているが、民間はまだまだ。担当の方は現実を正確に把握し、行政に生かしてほしい。 | 女性 50-59 歳 |
| 9 | 自治体・職員、町長・議員が率先垂範することが心須。 | 男性 60-69 歳 |
| 10 | こう言うプランをされているのを知りませんでした。 | 女性 60-69 歳 |
| 11 | 相談業務にあたる行政の職員の意識変革、研修を十分に行なって下さるようお願いいたします。 | 性別無回答 60-69 歳 |
| 12 | 発信をメディアのみならず自治体もとりにくむべき。 | 男性 70 歳以上 |
| 13 | 自治体からの発信も頑張してほしい。 | 男性 70 歳以上 |
| 14 | 行政にたずさわる人々の必要性を感じているものの、いつか将来的なものと思い、取組がないく国会議員・地方公務員等 | 男性 70 歳以上 |
| 15 | 超高齢化が進行する豊能町には、高齢者に向けての啓発活動、情報提供、生涯学習の場が無いに等しい。一部に NPO による学習、活動の場が提供されているが結構負担が重い。町単独では無理であっても、NPO 他の団体との協働により生涯学習の場の提供を願います。 | 男性 70 歳以上 |
| 16 | 公務員、企業家の責任も大きいです。 | 女性 70 歳以上 |
| 17 | 他の町に対して、住民の為の色んな設備が遅すぎます。町全体を良くしない町会議員の数へらして下さい。害になっています。 | 女性 70 歳以上 |

12. 本調査について (27 件)

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|-----|---|---------------|
| 1 | アンケートの質問および選択内容に男女への差別・偏見が感じられます。アンケートの内容を考えなおした方が良いと思います。 | 男性 20-29 歳 |
| 2 | 正直この様なアンケートに回答したからと言って、この問題は日本の古来よりの習慣というか私が産まれる前から続いてと思うので、改善できるとは考えていません。 | 男性 20-29 歳 |
| 3 | 今回のアンケートでも、女性が被害にあってる前提で進められていたけれど、それはどうなんだろうかとも思う。男女共に被害にあうかもしれないのに、女性のみが被害者感が満載で嫌気が増した。 | 女性 20-29 歳 |

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|-----|--|------------------|
| 4 | アンケートの配布先が世帯主宛でなければいいのですが、世帯主であれば、男性に偏る可能性が高いのではないかと思います。 | 男性 30-39 歳 |
| 5 | このアンケートの質問が女性主体になってませんか？シングルファザーへの配慮がない。このアンケートの意図は？アンケートに答えることで、どのように今後、変わっていくのか？ | 男性 30-39 歳 |
| 6 | Web 回答にしてください。 | 男性 30-39 歳 |
| 7 | そもそもこのアンケート自体、男性か女性かどちらか一方に限る選択肢については答えていて不満を覚えた。「男だから」「女だから」ではなく、「やりたい方がやる」「適性のある方がやる」というような選択肢があればそう答えるのに…と思う質問があり、答えにくかった。(問9など) | 男性 30-39 歳 |
| 8 | 家事育児以外でも、男性は社会に甘やかされすぎていると思います。この設問でも、男性は「参加」と表現されています。大人ならば自分の身のまわりのことや、ある程度の家事は当たり前にするべきでしょう。もっと当事者意識をもってください。 | 女性 30-39 歳 |
| 9 | 男女平等を…との企画のはずなのに、問 26-8 のように女性に対しての暴力や女性の管理職への登用など女性に対して得になると言ったら変ですが、女性に対してのごきげんりの様に感じてしまいます。 | 女性 30-39 歳 |
| 10 | 問 26 について「男女均等」や「平等」というのは何を以て平等なのか。その人の生活や周りの環境によってちがうと思います。 | 女性 30-39 歳 |
| 11 | こういったアンケートは自身を見つめるきっかけにもなりますが、やはり私たちの世代としては紙だけでなくスマートホンなどのネットから答えられるようになれば、更にアンケートの回答率も上がるのではと考えます。 | 女性 30-39 歳 |
| 12 | アンケートを書いたことが無駄にならない様、しっかりと役立てて欲しい。後、参画社会に関してではないですが、もう紙でのアンケートは辞めませんか？時代に合っていないし紙の無駄です。ネット上で QR コードを使ってアンケートにするべきでは？それが出来ない方にだけ、連絡してもらい紙を送る。この方が良いと思います。今どき高齢者でもスマホ使っています。 | 男性 40-49 歳 |
| 13 | 極端な質問がされないぐらい、普通に自然に生きていければいいですね。このようなアンケートがなくなるくらいの世の中になれば良いと思います。 | 女性 40-49 歳 |
| 14 | 税金を使っているから協力しますが、このアンケートがもっと簡単なものにはならないかと思いながらやりました。 | 女性 40-49 歳 |
| 15 | 今回の調査で少しでも男女平等に近づく事を願っております。 | 女性 40-49 歳 |
| 16 | 質問の項目数が多すぎて、回答に時間がかかりました。項目について、工夫をお願いします。 | 男性 50-59 歳 |
| 17 | この質問は、とても微妙な内容が含まれており回答者も簡単に応答できるものではありません。その重さを十分にうけとめた上で、よりよい社会づくりに生かしていただけるように切に願います。形だけのものとしなないでください。 | 男性 50-59 歳 |
| 18 | 回答用紙の記入方法が一定ではない為、非常に記入困難。何度も書き直し、時間がかかる。回答用紙を一定方向に統一してほしい。 | 女性 60-69 歳 |
| 19 | 問 9、11、は質問自体が「女は家庭に」を前提としているように思われ、このアンケートの目的に合っていないように思います。問 12 は無職なので答えられない質問です。 | 女性 60-69 歳 |
| 20 | 今回のアンケート調査の結果と分析については、何らかの形で公表して下さることを望みます。 | 性別無回答 60-69 歳 |
| 21 | 男女別々のアンケートでないと解答出来ない質問が多い。正確さはあまりないと思う。 | 男性 70 歳以上 |

| No. | 記述内容 | 性別・年代 |
|-----|--|--------------|
| 22 | 色々まちがえました。申し訳ございません。 | 男性 70歳以上 |
| 23 | このアンケートをしながら、まだまだ学ぶことはあるなと思っておしています。 | 女性 70歳以上 |
| 24 | 80才をこえる者にアンケートは不要であると思います。 | 女性 70歳以上 |
| 25 | こういうアンケート類も「やってる」感を演出するために実施しているように思っています。 | 女性 70歳以上 |
| 26 | 特記事項ありません。 | 女性 70歳以上 |
| 27 | 申し訳ありませんが、無回答で返送させていただきます。 | 性別不明 年代不明 |

前回調査結果や内閣府調査・大阪府調査結果との比較について

現在の豊能町における施策課題等の把握のため、今回の男女共同参画社会に関するアンケートの調査結果について、前回に実施したアンケートや、内閣府および大阪府が実施したアンケートの調査結果と比較し、約 10 年間の社会情勢の変化や、より対象範囲が広く回収数も多い調査との差異などをみる。

今回、比較対象とする調査結果は、以下の 3 つである。

- ① 豊能町「男女共同参画社会に関するアンケート」、平成 23 年 11 月に実施
- ② 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」、令和元年 9 月に実施
- ③ 大阪府「男女共同参画社会に関する府民意識調査」、令和元年 8 月に実施

以下、①を H23 豊能町、②を R1 内閣府、③を R1 大阪府と表記し、今回の調査結果と合わせて一覧表に整理して比較した。

次頁以降の表に掲載している数値 (%) は、四捨五入のため、内訳合計が 100%にならない場合がある。また、H23 豊能町は小数点以下の値の表記は報告書に未記載であった。

また、比較対象となる項目や選択肢が、今回調査のものと完全一致しない場合は、その記載内容を吟味して今回のものに当てはめた。該当する項目等について表の右に※を付し、表の下に説明を入れた。

さらに、今回調査以外では「わからない」「特になし」などの選択肢もみられるため、「はい」「いいえ」などの意向を示す割合が、いくぶんか少なく出ていることに留意が必要である。

1. 回答者の性別・年代別の割合（問1～2）

問1 あなたの性別は 問2 あなたの年齢はおいくつですか

- ・一般的に、アンケート調査は20代～30代の若年層、特に男性の回収率が低くなる傾向があるため、今回は配布数3,000のうち18～39歳の割合を増やした。
- ・回収数をみると、18～39歳の割合は男性が28.9%、女性が30.4%と3割近くとなり、H23豊能町の同年代（男性10%、女性13%）、R1内閣府の同年代（男性19.5%、女性19.8%）と比較すると、若年層が大きく増加している。
- ・この結果から、今回調査では若年層の意向がより把握できたと考えられる。

| | n=366 | n=184 | n=1,238 | n=384 |
|-----------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 |
| 男性 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| 男性×18～19歳 | 2.7% | — | 2.3% | 0.8% |
| 男性×20～29歳 | 12.8% | 3% | 7.2% | 11.7% |
| 男性×30～39歳 | 13.4% | 7% | 10.0% | 12.8% |
| 男性×40～49歳 | 8.2% | 10% | 17.9% | 19.3% |
| 男性×50～59歳 | 10.9% | 17% | 16.9% | 16.1% |
| 男性×60～69歳 | 23.2% | 42% | 19.2% | 19.0% |
| 男性×70歳以上 | 28.7% | 21% | 26.6% | 20.3% |
| 男性×年代不明 | 0.0% | 0% | — | — |
| 女性 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| 女性×18～19歳 | 3.2% | — | 1.9% | 0.6% |
| 女性×20～29歳 | 12.7% | 5% | 6.9% | 11.9% |
| 女性×30～39歳 | 14.5% | 8% | 11.0% | 15.7% |
| 女性×40～49歳 | 15.5% | 12% | 15.9% | 21.1% |
| 女性×50～59歳 | 14.3% | 19% | 17.0% | 17.5% |
| 女性×60～69歳 | 22.3% | 39% | 20.0% | 15.3% |
| 女性×70歳以上 | 17.3% | 16% | 27.2% | 17.9% |
| 女性×年代不明 | 0.2% | 0% | — | — |
| 性別無回答 | 10名 | — | — | — |
| 性別不明×年代不明 | 1名 | — | — | — |

2. 男女平等に対する意識について（問7～9）

問7 次の分野において男女の地位は平等になっていると思いますか

- ・H23 豊能町と比較すると、男性が優遇されている（「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）が、「職場では」の男性優遇は減少しているも、特に「学校教育の場」での増加が目立つ。しかしながら、表には記載していないが、この項目の H23 豊能町の「平等である」が 70%で、今回調査の 72.7%とあまり変わらない。
- ・男性が優遇されているが、「政治の場では」や「冠婚葬祭などの慣習やしきたりでは」で多く、「学校教育の場」や「地域活動の場」で少ない、R1 内閣府、R1 大阪府と同様の傾向がみられる。
- ・「政治の場では」や「法律や制度の場では」については、他調査よりも男性が優遇されているとの割合が多くなっている。

| | 男性が優遇されている | | | | 女性が優遇されている | | | |
|---------------------|------------|--------|-------|-------|------------|--------|-------|-------|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 |
| ア. 家庭や生活の場では | 50.0% | 50% | 44.9% | 47.2% | 7.0% | 6% | 7.2% | 9.5% |
| イ. 職場では | 54.6% | 63% | 53.5% | 53.0% | 5.8% | 1% | 5.0% | 9.2% |
| ウ. 学校教育の場では | 23.0% | 8% | 18.5% | 20.1% | 4.2% | 3% | 2.6% | 3.9% |
| エ. 冠婚葬祭などの慣習やしきたりでは | 63.6% | 57% | 70.1% | 70.7% | 2.5% | 4% | 2.3% | 4.5% |
| オ. 政治の場では | 82.1% | 71% | 79.0% | 71.0% | 1.3% | 1% | 1.2% | 2.5% |
| カ. 法律や制度の場では | 58.3% | 36% | 46.9% | 44.7% | 5.1% | 8% | 4.4% | 9.6% |
| キ. 地域活動の場では | 39.8% | 26% | 34.7% | 33.4% | 7.1% | 9% | 10.2% | 6.4% |

問8 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか

- ・H23 豊能町と比較すると、「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」の肯定的な意見が5ポイント以上増加しているが、R1 内閣府やR1 大阪府と比べると少なくなっている。
- ・「どちらかといえばそう思わない」と「そうは思わない」の否定的な意見は、R1 内閣府の結果よりも10ポイント程度多くなっている。

| | 肯定的な意見 | | | | 否定的な意見 | | | |
|------------------|--------|--------|-------|-------|--------|--------|-------|-------|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 |
| 「男は仕事、女は家庭」という風潮 | 30.4% | 25% | 35.0% | 34.0% | 69.6% | 71% | 59.8% | 64.8% |

問8-1 「男は仕事、女は家庭」と思う理由について教えてください

- ・R1 大阪府と比較すると、似たような傾向となっている。

| | 複数回答 | 設問なし | 複数回答 | 複数回答 |
|-----------------------|-------|--------|-------|-------|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 |
| 1. 日本の伝統・美德だと思うから | 5.1% | — | 19.2% | 9.8% |
| 2. 女性の方が家事に向いていると思うから | 44.9% | — | — | 40.0% |
| 3. 子どもの成長にとってよいと思うから | 47.7% | — | 55.2% | 55.1% |
| 4. 個人的にそうありたいから | 16.7% | — | — | 26.2% |
| 5. 理由を考えたことはない | 8.8% | — | 1.1% | 5.2% |
| 6. その他（具体的に） | 8.8% | — | 0.4% | 5.9% |

問8-2 「男は仕事、女は家庭」と思わない理由を教えてください

- ・R1 大阪府と比較して、「男女平等に反すると思うから」、「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから」が、それぞれ8～9ポイント程度多くなっている。
- ・一方、R1 内閣府とは、「男女平等に反すると思うから」と「一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから」で、10ポイント以上少なくなっている。

| | 複数回答 | 設問なし | 複数回答 | 複数回答 |
|---------------------------------------|-------|--------|-------|-------|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 |
| 1. 男女平等に反すると思うから | 29.4% | — | 40.0% | 20.8% |
| 2. 女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから | 50.6% | — | 43.3% | 42.7% |
| 3. 男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとってよいと思うから | 60.1% | — | — | 61.3% |
| 4. 少子高齢化により労働力が減少し、女性も仕事をする必要があると思うから | 23.0% | — | — | 26.7% |
| 5. 一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから | 46.8% | — | 56.9% | 44.6% |
| 6. 男性の所得だけでは経済的に難しいと思うから | 37.7% | — | 42.1% | — |
| 7. 理由を考えたことはない | 4.6% | — | 0.4% | 1.7% |
| 8. その他（具体的に） | 6.0% | — | 1.0% | 6.2% |

問9 次のことがらについて、主に男性、女性のどちらが担う方がよいと思いますか

- ・R1 大阪府の項目「日常の家事」は細分化されており、今回調査と単純比較はできないが、それ以外の項目では同様の傾向がみられる。
- ・R1 大阪府と比較して、男性の役割として「生活費をかせぐ」の割合と、女性の役割として「日々の家計を管理する」の割合が、それぞれ7ポイント、11ポイント程度少なくなっている。

| | 男性の役割 | | | | 女性の役割 | | | |
|-----------------------|-------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|
| | 設問なし | | | | 設問なし | | | |
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 |
| ア. 生活費をかせぐ | 55.5% | — | — | 62.5% | 0.2% | — | — | 0.2% |
| イ. 日々の家計を管理する | 2.9% | — | — | 2.0% | 35.7% | — | — | 47.1% |
| ウ. 日常の家事 | 0.2% | — | — | 0.3% | 35.1% | — | — | 49.2% |
| | | — | — | 0.4% | | — | — | 44.2% |
| | | — | — | 1.5% | | — | — | 32.0% |
| | | — | — | 5.6% | | — | — | 18.6% |
| エ. 老親や病身者の介護・看護 | 1.6% | — | — | 1.0% | 14.1% | — | — | 13.2% |
| オ. 子ども教育としつけ、学校行事への参加 | 1.5% | — | — | 0.5% | 16.5% | — | — | 18.5% |
| カ. 乳幼児の世話 | 1.1% | — | — | 0.1% | 50.7% | — | — | 54.4% |
| キ. 自治会、町内会などの地域活動への参加 | 11.5% | — | — | 14.5% | 5.8% | — | — | 6.6% |

※1 R1 大阪府「日常の家事（炊事）」 ※2 R1 大阪府「日常の家事（洗濯）」 ※3 R1 大阪府「日常の家事（掃除）」

※4 R1 大阪府「日常の家事（それ以外）」

3. 結婚に対する意識について（問 10）

問 10 あなたのお考えに近いものを選んでください

- ・H23 豊能町と比較すると、肯定的な意見（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）が、いずれもかなり多くなっている。
- ・R1 大阪府とは、「あえて結婚する必要がない」についてのみ、肯定的な意見、否定的な意見の両方とも 20 ポイント以上の大きな差がみられる。

| | 肯定的な意見 | | | | 否定的な意見 | | | |
|---------------------------|--------|--------|---------------|-------|--------|--------|---------------|-------|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | 設問なし R1内閣府 | R1大阪府 | R4豊能町 | H23豊能町 | 設問なし R1内閣府 | R1大阪府 |
| ア. あえて結婚する必要はない | 55.0% | 33% | — | 80.0% | 45.0% | 61% | — | 15.9% |
| イ. 結婚生活がうまくいかなければ離婚した方がよい | 82.8% | 65% | — | 76.7% | 17.2% | 27% | — | 15.8% |
| ウ. 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない | 63.5% | 34% | — | 67.9% | 36.4% | 61% | — | 25.9% |
| エ. 希望する夫婦は別々の姓名を名乗っても構わない | 69.8% | — | — | 64.9% | 30.2% | — | — | 28.1% |

4. 仕事に対する意識について（問 11～15）

問 11 女性が仕事をするということについてどう思われますか

- ・H23 豊能町の項目には、育児期が過ぎてから以降の仕事について、フルタイム・パートタイムの区別がないため今回調査の結果を合計して比較すると、15 ポイント程度少なくなっている。
- ・一方で「結婚や出産に関わらず仕事を続けたい・続けてほしい」が 10 ポイント以上、多くなっている。
- ・R1 大阪府とは、同様の傾向になっている。

| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 |
|--|-------|--------|-------|-------|
| 1. 結婚や出産に関わらず仕事を続けたい・続けてほしい | 36.6% | 25% | 61.0% | 35.2% |
| 2. 結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念したい・専念してほしい | 4.1% | 5% | 4.8% | 3.3% |
| 3. 子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたなら家事や育児に専念したい・専念してほしい | 10.6% | 5% | 6.5% | 8.5% |
| 4. 育児の時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けたい・続けてほしい | 18.8% | 54% | 20.3% | 15.6% |
| 5. 育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けたい・続けてほしい | 20.3% | | | 20.7% |
| 6. 仕事には就きたくない・就いてほしくない | 1.1% | 1% | 3.9% | 0.8% |
| 7. その他（具体的に） | 8.6% | — | — | 6.1% |

問 12 今の職場で性別によって差があると思いますか

- ・ R1 大阪府と比較して、「働き続けやすい雰囲気」を除いて、女性が優遇されているでは同様の傾向がみられる。
- ・ しかし、男性が優遇されているは、すべての項目で R1 大阪府よりも高く、特に「賃金」、「昇進・昇格」、「管理職への登用」、「働き続けやすい雰囲気」では、20 ポイント以上も多くなっている。

| | 男性が優遇されている | | | | 女性が優遇されている | | | |
|-------------------------|------------|--------|-------|-------|------------|--------|-------|-------|
| | 設問なし | | | | 設問なし | | | |
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 |
| ア. 募集・採用 | 33.2% | — | — | 18.4% | 5.4% | — | — | 9.0% |
| イ. 賃金 | 45.8% | — | — | 21.3% | 1.4% | — | — | 1.2% |
| ウ. 仕事の内容 | 34.8% | — | — | 18.6% | 10.5% | — | — | 12.8% |
| エ. 昇進・昇格 | 52.9% | — | — | 30.1% | 3.2% | — | — | 2.2% |
| オ. 管理職への登用 | 57.8% | — | — | 36.8% | 3.0% | — | — | 2.2% |
| カ. 能力評価（業績評価、人事考課など） | 35.6% | — | — | 19.8% | 3.2% | — | — | 2.4% |
| キ. 研修の機会や内容 | 22.2% | — | — | 12.2% | 3.5% | — | — | 2.0% |
| ク. 働き続けやすい雰囲気 | 32.4% | — | — | 6.9% | 8.1% | — | — | 18.8% |
| ケ. 育児・介護休暇などの休暇の取得のしやすさ | 5.5% | — | — | 3.0% | 50.3% | — | — | 27.2% |

問 13 あなたは今後働きたいとお考えですか

- ・ R1 大阪府と比較して、「はい」が 24 ポイント程度多くなっている。

| | はい | | | | いいえ | | | |
|---------------|-------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|
| | 設問なし | | | | 設問なし | | | |
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 |
| 今後働きたいとお考えですか | 64.8% | — | — | 40.9% | 28.1% | — | — | 16.1% |

(参考) 問 13-1 今後は働きたいけれども、現在働けない理由は何ですか

- ・ R1 大阪府は人数表記のため、割合比較ではなく参考として人数をみると、「仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないから」が、今回調査でも最も多くなっている。

| | 人数 | 設問なし | | | 人数 |
|--|-------|--------|-------|-------|----|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 | |
| 1. 保育施設に入所できなかったから | 2 | — | — | 1 | |
| 2. 延長保育や一時預かり、休日保育などの保育サービスが身近にないから | 4 | — | — | 2 | |
| 3. 仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないから | 29 | — | — | 17 | |
| 4. 家事や育児、介護・看護について、配偶者、パートナー等の協力が得られないから | 5 | — | — | 3 | ※1 |
| | | | | 3 | ※2 |
| | | | | 1 | ※3 |
| 5. 介護・看護について施設やサービスを利用できなかったから | 3 | — | — | 2 | |
| 6. 働くことについて配偶者、パートナー等家族の同意が得られないから | 1 | — | — | 3 | |
| 7. 働くことで家族に迷惑がかかると思う | 6 | — | — | 2 | |
| 8. 仕事と家庭の両方をうまくやっていく自信がないから | 8 | — | — | 11 | |
| 9. 仕事に必要な知識や能力、職場での人間関係に不安を感じるから | 13 | — | — | 9 | ※4 |
| | | | | 8 | ※5 |
| 10. その他（具体的に） | 18 | — | — | 9 | |

※1 R1 大阪府「配偶者、パートナー等家族の協力が得られない（家事）」

※2 R1 大阪府「配偶者、パートナー等家族の協力が得られない（育児）」

※3 R1 大阪府「配偶者、パートナー等家族の協力が得られない（看護・介護）」

※4 R1 大阪府「仕事に必要な知識や能力が備わっているか不安」 ※5 R1 大阪府「職場での人間関係をうまくやっていけるか不安」

(参考) 問 13-2 「いいえ」と回答した理由は何ですか

- ・問 13-1 と同様、R1 大阪府は人数表記のため、割合比較ではなく参考として人数をみると、最も多い回答が「今のところ仕事に就く必要を感じていないから」は変わらないが、「病気・怪我で働くことができないから」、「希望する仕事、条件に合う仕事がないから」、「仕事に就く自信がないから」が、比較的多くなっている。

| | 人数 | 設問なし | | 人数 |
|-----------------------------|-------|--------|-------|-------|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 |
| 1. 出産・育児を優先したいから | 2 | — | — | 1 |
| 2. 家族等の介護・看護をしなければならないから | 3 | — | — | 1 |
| 3. 病気・怪我で働くことができないから | 8 | — | — | 1 |
| 4. 学校以外で進学や資格取得などの勉強をしているから | 1 | — | — | 0 |
| 5. 今のところ仕事に就く必要を感じていないから | 12 | — | — | 6 |
| 6. 希望する仕事、条件に合う仕事がないから | 8 | — | — | 2 |
| 7. 仕事に就く自信がないから | 10 | — | — | 4 |
| 8. その他（具体的に） | 2 | — | — | 1 |

問 14 出産、育児、介護・看護などの理由で女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか

- ・H23 豊能町と比較すると、「夫・パートナーなどの家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加」が 2 倍以上になっている。また、「育児、介護、看護休暇制度の充実」も増加している。
- ・R1 大阪府とは同様の傾向ではあるが、「夫・パートナーなどの家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加」を除いて、他の項目の割合は少なくなっている。

| | 複数回答 | 単数回答 | 設問なし | 複数回答 |
|--------------------------------------|-------|--------|-------|-------|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 |
| 1. 育児、介護、看護休暇制度の充実 | 42.1% | 35% | — | 54.5% |
| 2. 育児、介護、看護休暇取得のしやすさ | 46.5% | — | — | — |
| 3. 企業経営者や職場の理解 | 50.6% | — | — | 55.1% |
| 4. 労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入 | 39.4% | — | — | 44.3% |
| 5. 育児や介護・看護のための施設やサービスの充実 | 34.5% | — | — | 41.7% |
| 6. 夫・パートナーなどの家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加 | 51.8% | 21% | — | 46.2% |
| 7. その他（具体的に） | 2.9% | — | — | 1.8% |

問 15 出産、育児、介護・看護などで仕事を辞めた後、再就職を希望する女性が再就職しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか

- ・R1 大阪府とは同様の傾向も、「就職情報や職業紹介などの相談機関の充実」が5ポイント程度少なく、一方で「夫・パートナーなどの家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加」が5ポイント程度多くなっている。

| | 複数回答 | 設問なし | | 複数回答 |
|--------------------------------------|-------|--------|-------|-------|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 |
| 1. 就職情報や職業紹介などの相談機関の充実 | 18.7% | — | — | 23.9% |
| 2. 技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実 | 12.2% | — | — | 13.5% |
| 3. 育児や介護・看護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及 | 46.7% | — | — | 44.3% |
| 4. 企業経営者や職場の理解 | 44.3% | — | — | 44.9% |
| 5. 労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入 | 46.2% | — | — | 43.5% |
| 6. 育児や介護・看護のための施設やサービスの充実 | 31.6% | — | — | 33.3% |
| 7. 夫・パートナーなどの家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加 | 39.5% | — | — | 34.6% |
| 8. 夫・パートナーの育休取得が当たり前となっている社会 | 22.3% | — | — | — |
| 9. その他（具体的に） | 1.9% | — | — | 1.8% |

5. 「仕事」「家庭や地域活動」「プライベートの時間」の関わり方について

(問 16～18-2)

問 16 生活の中で「仕事」、「家庭や地域活動」、「プライベートの時間」で何を優先しますか

(1) 希望として

- ・R1 内閣府との比較は、各項目の区切り方が厳密には異なるため単純にはできず、傾向も明らかに違いがみられる。
- ・R1 大阪府とは、おおむね似通った傾向ではあるが、「仕事」と「プライベートの時間」をともに優先したい」と「仕事」と「家庭や地域活動」と「プライベートの時間」の3つとも大切にしたい」が、それぞれ10ポイント程度多くなっている。

| | 設問なし | | | |
|--|-------|--------|-------|-------|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 |
| 1. 「仕事」を優先したい | 6.0% | — | 9.9% | 8.4% |
| 2. 「家庭や地域活動」を優先したい | 4.3% | — | 28.4% | 4.7% |
| 3. 「プライベートの時間」を優先したい | 24.8% | — | 4.7% | 22.0% |
| 4. 「仕事」と「家庭や地域活動」をともに優先したい | 5.0% | — | 28.7% | 6.4% |
| 5. 「仕事」と「プライベートの時間」をともに優先したい | 16.8% | — | 3.3% | 26.4% |
| 6. 「家庭や地域活動」と「プライベートの時間」を優先したい | 12.6% | — | 10.1% | 7.3% |
| 7. 「仕事」と「家庭や地域活動」と「プライベートの時間」の3つとも大切にしたい | 29.9% | — | 13.1% | 20.9% |
| 8. その他（具体的に） | 0.8% | — | — | 0.7% |

※1 R1 内閣府：「家庭生活を優先したい」

※2 R1 内閣府：「地域・個人の生活を優先したい」

※3 R1 内閣府：「仕事と家庭生活を優先したい」

※4 R1 内閣府：「仕事と地域・個人生活を優先したい」

(2) 現実（現状）として

- ・R1 内閣府との比較は、各項目の区切り方が厳密には異なるため単純にはできず、傾向も明らかに違いがみられる。
- ・R1 大阪府とは、傾向が多少異なる。「仕事」を優先している」の割合が最も多いことは同様も、18ポイント程度低くなっている。また、「家庭や地域活動」を優先している」や「プライベートの時間」を優先している」も多いことから、比較的「仕事」以外の時間を優先していることが推測できる。

| | 設問なし | | | |
|---|-------|--------|-------|-------|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 |
| 1. 「仕事」を優先している | 24.9% | — | 25.9% | 42.6% |
| 2. 「家庭や地域活動」を優先している | 9.7% | — | 30.3% | 4.1% |
| 3. 「プライベートの時間」を優先している | 17.1% | — | 4.5% | 10.6% |
| 4. 「仕事」と「家庭や地域活動」をともに優先している | 8.0% | — | 21.0% | 7.1% |
| 5. 「仕事」と「プライベートの時間」をともに優先している | 15.2% | — | 3.1% | 22.3% |
| 6. 「家庭や地域活動」と「プライベートの時間」を優先している | 9.6% | — | 8.1% | 2.4% |
| 7. 「仕事」と「家庭や地域活動」と「プライベートの時間」の3つとも大切にしている | 12.6% | — | 5.1% | 6.4% |
| 8. その他（具体的に） | 2.9% | — | — | 0.8% |

※1 R1 内閣府：「家庭生活を優先している」

※2 R1 内閣府：「地域・個人の生活を優先している」

※3 R1 内閣府：「仕事と家庭生活を優先している」

※4 R1 内閣府：「仕事と地域・個人生活を優先している」

問 17 今後、男性が家事、子育て、介護・地域活動に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか

- ・ R1 内閣府の項目「男女の役割分担について社会通念や慣習、しきたりを改めること」は細分化されており、これのみ今回調査と単純比較はできないが、「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」を除いた他の項目では、割合が少なくなっている。「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」は、17ポイントも少ない。
- ・ R1 大阪府とは、10ポイント程度多くなっている「男女の役割分担について社会通念や慣習、しきたりを改めること」以外は、似通った傾向を示している。

| | 複数回答 | 設問なし | 複数回答 | | |
|---|-------|--------|----------------------------------|-------|----------------------|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 | |
| 1. 男女の役割分担について社会通念や慣習、しきたりを改めること | 48.1% | — | 58.5% 56.0% 40.5% 30.5% | 38.2% | ※1 ※2 ※3 ※4 |
| 2. 男性が家事、育児、介護・看護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること | 36.3% | — | 46.9% | 36.7% | |
| 3. 夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと | 42.1% | — | 59.1% | 41.0% | |
| 4. 労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること | 36.1% | — | 33.8% | 34.8% | |
| 5. 小さい時から男性に家事や育児に関する教育をすること | 38.8% | — | — | 36.1% | |
| 6. 男性が育児や介護・看護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りを進めること | 15.2% | — | 27.9% | 15.3% | |
| 7. 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること | 12.7% | — | 25.3% | 11.1% | |
| 8. その他（具体的に） | 2.5% | — | — | 2.3% | |

※1 R1 内閣府：「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進める」
 ※2 R1 内閣府：「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」
 ※3 R1 内閣府：「年配者や周りの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重する」
 ※4 R1 内閣府：「男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす」

問 18 現在地域活動に参加されていますか

- ・ R1 大阪府とは同様の傾向も、「何らかの地域活動に参加している」が8ポイント多くなっている。

| | 設問なし | | | |
|------------------------------------|-------|--------|-------|-------|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 |
| 1. 何らかの地域活動に参加している | 34.8% | — | — | 26.8% |
| 2. 特に参加している地域活動はないが、今後参加してみたいものがある | 10.6% | — | — | 10.3% |
| 3. 参加したいと思うが参加できない | 25.3% | — | — | 24.7% |
| 4. 今後とも参加したくない | 29.3% | — | — | 31.7% |

問 18-1 あなたが現在参加している、または今後参加してみたいと思われる地域活動は何ですか

- ・R1 大阪府とは同様の傾向も、「趣味やスポーツのサークル活動」と「清掃・美化や環境保全のための活動」は、7～8 ポイント程度多くなっている。

| | 複数回答 | 設問なし | | 複数回答 |
|--------------------------|-------|--------|-------|-------|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 |
| 1. 自治会・町内会などの行事や活動 | 55.4% | — | — | 55.4% |
| 2. 高齢者や障害者のための福祉活動 | 12.7% | — | — | 12.3% |
| 3. 育児支援や子どもの育成活動 | 13.0% | — | — | 18.7% |
| 4. 消費者問題等に関する市民活動 | 1.0% | — | — | 0.3% |
| 5. 清掃・美化や環境保全のための活動 | 27.0% | — | — | 20.2% |
| 6. 防犯活動や防災活動 | 11.1% | — | — | 16.3% |
| 7. 国際理解・国際交流関連や外国人の支援活動 | 8.5% | — | — | 10.5% |
| 8. 趣味やスポーツのサークル活動 | 41.7% | — | — | 33.4% |
| 9. 自治体主催の講座や文化・教養講座などの受講 | 16.0% | — | — | 14.8% |
| 10. その他（具体的に） | 3.9% | — | — | 1.8% |

問 18-2 地域活動に参加できない、参加したくない理由は何ですか

- ・R1 大阪府の項目は細分化されており、今回調査と単純比較はできないが、同一項目の「仕事との両立が難しい」、「参加したい活動がない」、「健康状態に自信がない」の傾向は変わらない。
- ・今回調査の独自項目である「人間関係が面倒だから」、「プライベートの時間を優先したい」が、上位の2つを占めていることが特徴的である。

| | 複数回答 | 設問なし | | 複数回答 |
|----------------------------|-------|--------|-------|---------------------------------|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 |
| 1. 家事や育児、介護・看護との両立が難しい | 6.8% | — | — | 8.3% ※1 3.2% ※2 |
| 2. 仕事との両立が難しい | 34.5% | — | — | 38.3% |
| 3. 家族の理解を得られない | 0.6% | — | — | 0.6% |
| 4. 活動場所がない、活動がどこでできるかわからない | 9.9% | — | — | 20.6% ※3 9.3% ※4 10.9% ※5 |
| 5. 一緒に活動する仲間や活動資金がない | 5.6% | — | — | 14.2% ※6 7.5% ※7 |
| 6. 参加したい活動がない | 22.9% | — | — | 23.9% |
| 7. 健康状態に自信がない | 14.7% | — | — | 16.4% |
| 8. 人間関係が面倒だから | 34.5% | — | — | — |
| 9. プライベートの時間を優先したい | 42.1% | — | — | — |
| 10. その他（具体的に） | 3.7% | — | — | 4.3% |

※1 R1 大阪府：「家事や育児との両立が難しい」

※2 R1 大阪府：「家族の介護・看護との両立が難しい」

※3 R1 大阪府：「活動時間が合わない」

※4 R1 大阪府：「身近なところに活動場所がない」

※5 R1 大阪府：「希望する活動がどこでできるかわからない」

※6 R1 大阪府：「一緒に活動する仲間がいない」

※7 R1 大阪府：「活動資金がない」

6. DV（ドメスティック・バイオレンス）について（問 19～22-1）

問 19 配偶者・パートナーからの暴力（なぐる、ける、無視するなどの身体的、精神的な暴力等）について、相談できる窓口があることを知っていますか

- ・ R1 大阪府と比較すると、20 ポイント以上多くなっている。

| | 設問なし | | | |
|-------|-------|--------|-------|-------|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 |
| 知っている | 71.1% | — | — | 50.7% |

問 19-1 相談窓口としてどのようなものを知っていますか

- ・ R1 大阪府と比較すると、具体的な窓口や名称を尋ねた場合は、認知度が低くなっている。

| | 複数回答 | 設問なし | | | 複数回答 |
|---|-------|--------|-------|-------|-------|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 | R1大阪府 |
| 1. 配偶者暴力相談支援センター | 16.7% | — | — | 39.3% | |
| 2. 警察 | 65.1% | — | — | 83.7% | |
| 3. 法務局、人権擁護委員 | 10.3% | — | — | 11.0% | |
| 4. 役場の相談窓口（生活・人権相談窓口など） | 42.8% | — | — | 53.8% | |
| 5. 上記 1～4 以外の公的な機関 | 3.4% | — | — | 19.6% | |
| | | | | 1.5% | |
| 6. 民間の専門家や専門機関（弁護士、弁護士会、カウンセラー、民間シェルターなど） | 26.4% | — | — | 39.3% | |
| 7. 具体的な名称は知らないが、相談窓口があることは知っている。 | 36.7% | — | — | 0.7% | |

※1 R1 大阪府：「男女共同参画のための総合的な施設（男女共同参画センター、女性センターなど）」

※2 R1 大阪府：「1～5 以外の公的な機関」

問 20 交際相手から、次のようなことをされたことがありますか

- ・ この設問は、H23 豊能町と R1 大阪府では、回答対象者を「10 歳代、20 歳代に交際相手がいる（いた）方」と限定している。
- ・ 今回調査では、どの項目も H23 豊能町よりも多く、R1 大阪府の※1 と※2 の「1～2 回はある」合計以外の項目も多くなっている。これは、上記の年代の限定を外して広く尋ねたことが反映されていると推測できる。

| | 何回もある | | | | 1～2回はある | | | |
|---|-------|--------|---------------|-------|---------|--------|---------------|-------|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | 設問なし R1内閣府 | R1大阪府 | R4豊能町 | H23豊能町 | 設問なし R1内閣府 | R1大阪府 |
| ア. なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた | 2.4% | 1% | — | 1.4% | 9.0% | 2% | — | 6.0% |
| イ. 人格を否定するような暴言、交友関係を細かく監視する、なぐるふりをして脅かすなどの精神的な嫌がらせを受けた | 4.1% | 1% | — | 1.7% | 9.5% | 3% | — | 7.8% |
| | | | | 1.2% | | | | 4.7% |
| ウ. あなたが嫌がっているのに性的な行為を強要された | 2.8% | 1% | — | 1.0% | 6.2% | 2% | — | 3.1% |

※1 R1 大阪府：「何を言っても無視する、なぐるふりをしておどす、暴言をはくなど」

※2 R1 大阪府：「携帯電話の履歴やメールを強引にチェックする、アドレスを消す、友達付き合いを制限するなど」

問21 あなたは配偶者やパートナーから、次のようなことをされたことがありますか

- ・H23 豊能町と比較すると、「ア～ウの暴力に関する項目」は「何回もある」、「1～2回ある」の両方で減少している。また、「大声で罵声を浴びせられる」も同様である。
- ・R1 大阪府は、暴力に関する項目が 12.7%と大きな割合となっているが、「なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど」と、1つにまとめられているため単純比較はできない。

| | 何回もある | | | | 1～2回はある | | | | |
|------------------------------|-------|--------|-------|-------|---------|--------|-------|-------|----|
| | 設問なし | | | R1大阪府 | 設問なし | | | R1大阪府 | |
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | | |
| ア. 命の危険を感じるぐらい暴力を受ける | 0.6% | 1% | — | 3.1% | 1.7% | 3% | — | 12.7% | ※1 |
| イ. 医師の治療が必要なくらいの暴力を受ける | 0.6% | 0% | — | | 0.9% | 2% | — | | |
| ウ. 医師の治療が必要なくらいの暴力を受ける | 1.5% | 2% | — | | 2.6% | 4% | — | | |
| エ. 嫌がっているのに性的な行為を強要される | 2.2% | 2% | — | 1.6% | 3.9% | 4% | — | 4.9% | ※2 |
| オ. 見たくないのに、アダルトビデオ等を見せられる | 0.6% | 0% | — | | 0.7% | 3% | — | | |
| キ. 生活費を渡されない | 0.9% | 2% | — | 1.7% | 2.2% | 1% | — | 3.0% | |
| ク. 交友関係や電話を細かくチェックされる | 1.5% | 1% | — | 1.6% | 3.7% | 4% | — | 3.7% | |
| ケ. 「養ってやっている」とか「男のくせに」等と言われる | 2.0% | 3% | — | — | 8.9% | 7% | — | — | |
| カ. 何を言っても無視され続ける | 4.5% | 3% | — | 6.5% | 8.6% | 11% | — | 12.7% | ※3 |
| コ. 大声で罵声を浴びせられる | 4.7% | 8% | — | | 10.8% | 19% | — | | |
| サ. 意味なく人間性を否定される | 3.2% | — | — | — | 9.0% | — | — | — | |

※1 R1 大阪府：「なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど」

※2 R1 大阪府：「望まないのに性的な行為を強要する、無理にポルノ画像などを見せるなど」

※3 R1 大阪府：「何を言っても無視する、なぐるふりをしておどす、暴言をはくなど」

問22 そのことを誰かに打ち明けたり、相談しましたか

- ・H23 豊能町とは同様の傾向も、「友人・知人」、「家族や親戚」が5ポイント程度多くなっている。
- ・R1 大阪府と比較すると、「家族や親戚」が15ポイント以上多くなっている。
- ・一方、「どこ（誰）にも相談しなかった」は、H23 豊能町、R1 大阪府よりも10ポイント多く、50%を超えている。

| | 複数回答 | | 設問なし R1内閣府 | 複数回答 R1大阪府 | |
|---|-------|--------|---------------|---------------|----|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | | | |
| 1. 友人、知人 | 30.4% | 24% | — | 25.2% | |
| 2. 家族や親戚 | 27.0% | 22% | — | 11.5% | |
| 3. 学校関係者 | 1.4% | 2% | — | 0.0% | |
| 4. 職場の相談窓口 | 0.0% | 0% | — | — | |
| 5. 行政の相談窓口（役場の人権相談、法務局、人権擁護委員など） | 0.7% | 1% | — | 0.7% | ※1 |
| 6. 警察・警察の相談窓口 | 1.4% | 2% | — | 2.9% | ※2 |
| 7. その他の公的な機関（子ども家庭センター、女性相談センターなど） | 1.4% | 2% | — | 0.0% | |
| 8. 民間の専門家や専門機関、医療関係者（弁護士、カウンセラー、民間シェルター、医師・看護師など） | 3.4% | 2% | — | 1.4% | ※3 |
| 9. どこ（誰）にも相談しなかった | 55.4% | 44% | — | 44.6% | ※4 |
| 10. その他（具体的に） | 0.0% | — | — | 2.2% | |

※1 H23 豊能町・R1 大阪府：「職場の相談窓口」

※2 H23 豊能町・R1 大阪府：「法務局、人権擁護委員」

※3 H23 豊能町・R1 大阪府：「民間の専門家や相談機関」

※4 H23 豊能町・R1 大阪府：「医療関係者」

問 22-1 どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった）のはなぜですか

- ・H23 豊能町と比較すると、「相談するほどのことではない、相談しても無駄だと思ったから」が大幅に増加し、「世間体が悪い、恥ずかしくて誰にも言えなかったから」以外の項目も割合が増えている。
- ・「世間体が悪い、恥ずかしくて誰にも言えなかったから」は、H23 豊能町、R1 大阪府の※7 と※8 の合計よりも、5～10 ポイント程度少なくなっている。
- ・R1 大阪府は、※5 「自分にも悪いところがあると思ったから」、※6 「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」の割合が、H23 豊能町や今回調査よりも、かなり高くなっている。

| | 複数回答 | | 設問なし | 複数回答 | |
|--|-------|--------|-------|-------|----|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 | |
| 1. どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから | 6.3% | 3% | — | 17.7% | |
| 2. 相談するほどのことではない、相談しても無駄だと思ったから | 73.8% | 36% | — | 45.2% | ※1 |
| | | 11% | — | 24.2% | ※2 |
| 3. 誰にも言うなと脅された、相談したことが分かる と仕返しやもっとひどい暴力を受けると思ったから | 1.3% | 0% | — | 0.0% | ※3 |
| | | 1% | — | 1.6% | ※4 |
| 4. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられる と思ったから | 2.5% | 1% | — | 1.6% | |
| | | | | | |
| 5. 自分にも悪いところがある、自分さえ我慢すれば 何とかこのままやっていけると思ったから | 26.3% | 13% | — | 29.0% | ※5 |
| | | 12% | — | 25.8% | ※6 |
| 6. 世間体が悪い、恥ずかしくて誰にも言えなかった から | 7.5% | 6% | — | 3.2% | ※7 |
| | | 7% | — | 16.1% | ※8 |
| 7. 他人を巻き込みたくなかったから | 7.5% | 3% | — | 14.5% | |
| 8. 他人に知られると、これまでどおりの付き合い (仕事や学校などの人間関係) ができなくなると思っ たから | 1.3% | 1% | — | 3.2% | |
| 9. そのことについて思い出したくなかったから | 10.0% | 3% | — | 9.7% | |
| 10. その他（具体的に） | 5.0% | | — | 6.5% | |

※1 H23 豊能町・R1 大阪府：「相談するほどのことではないと思ったから」

※2 H23 豊能町・R1 大阪府：「相談しても無駄だと思ったから」

※3 H23 豊能町・R1 大阪府：「加害者に誰にも言うなと脅されたから」

※4 H23 豊能町・R1 大阪府：「相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから」

※5 H23 豊能町・R1 大阪府：「自分にも悪いところがあると思ったから」

※6 H23 豊能町・R1 大阪府：「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」

※7 H23 豊能町・R1 大阪府：「世間体が悪いから」

※8 H23 豊能町・R1 大阪府：「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」

7. 性暴力・性犯罪について（問 23～24-3）

問 23 次のことはセクシャル・ハラスメント（性的嫌がらせ）だと思いますか。

- ・ H23 豊能町と比較すると、肯定的な意見（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）が、いずれも多くなっている。

| | 肯定的な意見 | | 設問なし | |
|----------------------------|--------|--------|-------|-------|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 |
| ア. 地位や権限を利用して、性的な関係をせまること | 98.6% | 93% | — | — |
| イ. さわる、抱きつくなど肉体的な接触をすること | 97.3% | 91% | — | — |
| ウ. 性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけること | 94.7% | 86% | — | — |
| エ. 宴席で異性にお酒を強要すること | 97.2% | 74% | — | — |
| オ. 結婚予定や出産予定をたびたび聞くこと | 82.0% | 56% | — | — |
| カ. 恋人の有無についてたびたび聞くこと | 81.6% | — | — | — |
| キ. 容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる | 89.7% | — | — | — |
| ク. 身体をじろじろ見られる | 94.0% | — | — | — |

問 24 これまでに望まないのに性的な行為をされたことがありますか

- ・ R1 大阪府と同様、8%前後が「ある」と回答している。

| | 設問なし | | | |
|----|-------|--------|-------|-------|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 |
| ある | 7.2% | — | — | 8.8% |

問 24-1 そのことを誰かに打ち明けたり、相談しましたか

- ・ R1 大阪府と比較すると、「友人・知人」が 11 ポイント以上、「家族や親戚」が 17 ポイント程度多くなっている。
- ・ 一方、「どこ（誰）にも相談しなかった」は、20 ポイント以上少なくなっている。

| | 複数回答 | 設問なし | | 複数回答 |
|---|-------|--------|-------|----------|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 |
| 1. 友人、知人 | 25.5% | — | — | 13.9% |
| 2. 家族や親戚 | 23.5% | — | — | 6.3% |
| 3. 学校関係者 | 0.0% | — | — | 1.3% |
| 4. 職場の相談窓口 | 2.0% | — | — | — |
| 5. 行政の相談窓口（役場の人権相談、法務局、人権擁護委員など） | 2.0% | — | — | — |
| 6. 警察・警察の相談窓口 | 3.9% | — | — | 3.8% |
| 7. その他の公的な機関（子ども家庭センター、女性相談センターなど） | 2.0% | — | — | 0.0% |
| 8. 民間の専門家や専門機関、医療関係者（弁護士、カウンセラー、民間シェルター、医師・看護師など） | 2.0% | — | — | 0.0% ※1 |
| 9. どこ（誰）にも相談しなかった | 54.9% | — | — | 75.9% ※2 |
| 10. その他（具体的に） | 3.9% | — | — | 3.8% |

※1 R1 大阪府：「民間の専門家や専門機関」

※2 R1 大阪府：「医療関係者」

問 24-2 どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった）のはなぜですか

- ・R1 大阪府と比較すると、「そのことについて思い出しなくなかったから」が 21 ポイント以上も多くなっている。また、「他人を巻き込みたくなかったから」は 18 ポイント以上、「他人に知られると、これまでどおりの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから」も 10 ポイント弱、多くなっている。
- ・それ以外の項目の傾向と合わせてみると、今回調査では、「相談しても無駄」や「我慢すればやっていける」という「あきらめ」もありつつ、調査範囲が豊能町という小さな自治体ということもあり、「思い出したくない」、「他人に知られたくない」という心理が表れてた結果ではないかと思われる。

| | 複数回答 | 設問なし | | 複数回答 | |
|---|-------|--------|-------|-------|----|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 | |
| 1. どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから | 21.4% | — | — | 15.0% | |
| 2. 相談するほどのことではない、相談しても無駄だと思ったから | 39.3% | — | — | 21.7% | ※1 |
| | | | | 36.7% | ※2 |
| 3. 誰にも言うなと脅された、相談したことが分かると仕返しやもっとひどい暴力を受けると思っ | 0.0% | — | — | 0.0% | ※3 |
| | | | | 8.3% | ※4 |
| 4. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから | 3.6% | — | — | 0.0% | |
| 5. 自分にも悪いところがある、自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから | 14.3% | — | — | 18.3% | ※5 |
| | | | | 13.3% | ※6 |
| 6. 世間体が悪い、恥ずかしくて誰にも言えなかったから | 14.3% | — | — | 8.3% | ※7 |
| | | | | 26.7% | ※8 |
| 7. 他人を巻き込みたくなかったから | 21.4% | — | — | 3.3% | |
| 8. 他人に知られると、これまでどおりの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから | 17.9% | — | — | 8.3% | |
| 9. そのことについて思い出したくなかったから | 46.4% | — | — | 25.0% | |
| 10. その他（具体的に） | 10.7% | — | — | 5.0% | |

1 R1 大阪府：「相談するほどのことではないと思ったから」

※2 R1 大阪府：「相談しても無駄だと思ったから」

※3 R1 大阪府：「加害者に誰にも言うなと脅されたから」

※4 R1 大阪府：「相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから」

※5 R1 大阪府：「自分にも悪いところがあると思ったから」

※6 R1 大阪府：「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」

※7 R1 大阪府：「世間体が悪いから」

※8 R1 大阪府：「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」

問 24-3 人権に関する相談窓口（主なもの）には次のようなものがあります、知っているものはありますか

- ・H23 豊能町で最も多いのは「性犯罪被害 110 番（# 8 1 0 3、警察相談窓口）」であったが、今回調査では「豊能町住民人権課」であり、24 ポイント以上増加している。
- ・また、今回調査では「公的機関」の割合が大幅増加しているが、これは細分化されて具体的な名称が記載されているためと推測される。
- ・R1 内閣府と比較すると、「DV相談ナビ（# 8 0 0 8）」で 10 ポイント位以上少なく、項目表記が「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター」となっているため単純比較はできないが、「性暴力救援センター・大阪 S A C H I C O」も、8 ポイント程度少なくなっている。

| | 複数回答 | 複数回答 | 複数回答 | 設問なし | |
|---|-------|--------|-------|-------|-----|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 | |
| 1. DV相談ナビ（# 8 0 0 8） | 17.6% | | 28.9% | — | ※1 |
| 3. 大阪府池田子ども家庭センター | 20.6% | | — | — | ※2 |
| 6. 大阪労働局 総合労働相談コーナー | 14.8% | | — | — | ※3 |
| 7. ハラスメント悩み相談室（厚生労働省） | 12.1% | 2% | — | — | ※4 |
| 8. 大阪府労働相談センター | 21.2% | | — | — | ※5 |
| 9. 大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター） | 27.2% | | 23.5% | — | ※6 |
| 2. 大阪府女性相談センター（配偶者暴力相談支援センター） | 20.6% | 14% | — | — | |
| 4. 性犯罪被害110番（# 8 1 0 3、警察相談窓口） | 33.5% | 32% | 24.2% | — | ※7 |
| | | | 14.3% | — | ※8 |
| 5. 性暴力救援センター・大阪 S A C H I C O | 4.4% | | 12.7% | — | ※9 |
| 1 0. 大阪弁護士会 女性のための法律相談 | 12.6% | 18% | — | — | ※10 |
| 1 2. 一般財団法人 大阪府人権協会 | 6.3% | | — | — | ※11 |
| 1 1. 大阪法務局 人権擁護部（「みんなの人権110番」、「女性の人権ホットライン」など） | 28.0% | 12% | 31.5% | — | |
| 1 3. 豊能町住民人権課（人権擁護委員による人権相談、とよの人権地域協議会による生活・人権相談） | 42.3% | 18% | — | — | |

※1～5 H23 豊能町：「その他の公的な機関」 ※6 H23 豊能町：「警察」、R1 内閣府：「警察相談専用電話#9110」

※7 R1 内閣府：「性犯罪被害相談電話に係る全国共通電話番号#8103」

※8 H23 豊能町：「民間の専門家や専門機関」、R1 内閣府：「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター」

※9～10 H23 豊能町：「民間の専門家や専門機関」

8. 男女共同参画社会に関する用語の認知度について（問 25）

問 25 次の言葉について、あてはまるものはどれですか

- ・ R1 内閣府は、選択肢が「見たり聞いたりしたことがあるもの」のみであり、できるかぎり比較可能とするため、今回調査と H23 豊能町は「よく知っている」と「聞いたことがある」を、R1 大阪府は「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合計して認知度の割合を出した。
- ・ H23 豊能町と比較すると、9 割以上みられた「男女雇用機会均等法」と「セクシャル・ハラスメント」の認知度は変わらないが、「育児・介護休業法」、「DV 防止法」は減少している。
- ・ また、「女子差別撤廃条約」や「性別役割分担意識」の割合が少なくなっている一方で、「ジェンダー」が倍増し、「ワーク・ライフ・バランス」、「男女共同参画社会」も 10 ポイント以上多くなっている。
- ・ R1 内閣府の項目は「DV」であり「DV 防止法」ではないため単純比較はできないが、これ以外の項目では、今回調査の方が割合は多くなっている。
- ・ R1 大阪府とはおおむね似た傾向にあるが、「ジェンダー」は 20 ポイント以上多い。

| | よく知っている+聞いたことがある | | | |
|-----------------|------------------|--------|-------|-------|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 |
| ア. 女子差別撤廃条約 | 45.6% | 62% | 34.7% | 46.5% |
| イ. 男女雇用機会均等法 | 93.1% | 93% | 79.3% | 86.1% |
| ウ. 育児・介護休業法 | 83.3% | 91% | — | — |
| エ. 男女共同参画社会 | 78.6% | 66% | 64.3% | 65.4% |
| オ. DV防止法 | 79.8% | 91% | 81.5% | 74.0% |
| カ. 性別役割分担意識 | 32.2% | 43% | — | — |
| キ. セクシャル・ハラスメント | 97.9% | 95% | — | — |
| ク. ジェンダー | 93.6% | 45% | 55.8% | 70.1% |
| ケ. ポジティブ・アクション | 29.4% | 35% | 18.3% | 25.9% |
| コ. デートDV | 45.2% | 43% | — | — |
| サ. ワーク・ライフ・バランス | 58.1% | 41% | 43.1% | 61.0% |
| シ. LGBTQ | 69.0% | — | — | 69.3% |
| ス. SOGI | 15.2% | — | — | 17.7% |
| セ. ダイバーシティ | 58.0% | — | — | 49.5% |
| ソ. 候補者均等法 | 23.8% | — | — | 34.9% |

※1 R1 内閣府：「DV」

9. 男女共同参画社会の実現に向けて（問 26）

問 26 男女共同参画社会を推進していくために府や市町村は今後どのようなことにか
を入れていくべきだと思いますか

- ・ H23 豊能町と比較すると、「民間企業・団体等における管理職への女性の登用、男女の均等な取扱いが進むよう支援する」、「仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める」、「育児や介護のための施設やサービスの充実など、子育てや介護中でも仕事を続けられるような支援、仕事を辞めた人の再就職の支援を進める」が増加し、職場・仕事に関する項目、特に仕事の継続や再就職についての施策推進に期待されていることが分かる。
- ・ 一方、「男性や女性の生き方や悩みに関する相談の場を充実する」は、14 ポイント以上の減少がみられる。
- ・ R1 内閣府と比較すると、「男性や女性の生き方や悩みに関する相談の場を充実する」以外の項目では、今回調査の方が割合は多くなっている。
- ・ R1 大阪府とは、すべての項目について今回調査の方が割合は多くなっている。

| | 複数回答 | | | | |
|--|-------|-------------------|-------------------------|-------------------------|----------------|
| | R4豊能町 | H23豊能町 | R1内閣府 | R1大阪府 | |
| 1. 府や市町村の審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する | 50.5% | 54% | 37.8% | 30.0% | |
| 2. 民間企業・団体等における管理職への女性の登用、男女の均等な取扱いが進むよう支援する | 50.5% | 41% 46% | 37.8% | 24.1% 32.4% | ※1 ※2 |
| 3. 男性や女性の生き方や悩みに関する相談の場を充実する | 24.7% | 39% | 28.6% | 15.6% | |
| 4. 男女共同参画に関する啓発活動、情報提供、学校教育や生涯学習の場での学習を充実する | 44.7% | 40% | 28.9% | 17.4% 23.3% 13.4% | ※3 ※4 ※5 |
| 5. 仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める | 58.7% | 51% | 44.2% | 46.7% | |
| 6. 育児や介護のための施設やサービスの充実など、子育てや介護中でも仕事を続けられるような支援、仕事を辞めた人の再就職の支援を進める | 72.4% | 66% 67% 69% | 58.0% 52.7% 57.8% | 48.5% 44.7% 37.7% | ※6 ※7 ※8 |
| 7. 妊娠・出産期、更年期など生涯を通じた女性の健康づくりを推進する | 29.0% | 30% | — | 19.1% | |
| 8. 女性に対する暴力（セクシュアル・ハラスメントや配偶者等からの暴力）防止や被害者への支援を充実する | 39.5% | 45% | 31.5% | 27.0% | |
| 9. 候補者均等法に基づき、選挙の候補者数をできる限り男女均等にしよう啓発活動を充実する | 20.9% | — | — | 8.4% | |
| 10. その他（具体的に） | 4.4% | 1% | 0.9% | 0.7% | |

※1 H23 豊能町・R1 大阪府：「民間企業・団体等における管理職への女性の登用が進むように支援する」

※2 H23 豊能町・R1 大阪府：「職場において男女の均等な取扱いが図られるよう企業等に働きかける」

※3 H23 豊能町・R1 大阪府：「男女共同参画社会づくりに役立つ情報を収集し広く提供する」

※4 R1 大阪府：「学校教育や生涯学習の場で男女共同参画に向けた学習を充実する」

※5 R1 大阪府：「男女共同参画社会を進めるための啓発活動を充実する」

※6 H23 豊能町・R1 内閣府・R1 大阪府：「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」

※7 H23 豊能町・R1 内閣府・R1 大阪府：「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」

※8 H23 豊能町・R1 内閣府・R1 大阪府：「育児や介護のための施設やサービスを充実する」

調査結果からわかる豊能町の施策課題等について

調査結果からわかる傾向や施策課題等について、第2次豊能町男女共同参画プランの基本目標に記載の「施策の方向と概要」ごとにとりまとめた。

【基本目標1：男女共同参画社会を実現するための教育・啓発の推進】

(1) 生涯にわたる男女平等教育の推進

問9の男女の役割分担意識では、中高年世代と比べ、18～39歳の若年層が各項目で「両方同じ程度の割合」と回答している割合が多くなっている。これは近年の教育・啓発や情報提供により、意識の変化につながった結果と考えられる。

自由記述回答でも、「小・中学校の人格形成期での教育となり効果がある」、「根本的に考えを見つめ直す機会や方法について、学校などの集団で教えることができればよい」という若年層の意見や、高齢層からも「これからの未来を担う子どもたちに、幼年期から教育の一環として、共同参画について教えてほしい」、「情報・教育を享受できねば意識の改革がなされるはずがない」等の意見がみられた。

これらのことから、早期からの発達段階に応じた男女平等教育の継続と、世代を問わず、男女の地位平等や役割分担意識の変化につながる施策の要望がうかがえる。

(2) 男女共同参画についての意識改革の推進

問7の男女の地位平等で、男性が優遇されているは「冠婚葬祭などの慣習やしきたり」が63.6%、「法律や制度の場」が58.3%、「地域活動の場」が39.8%と、いずれも前回調査よりも割合が増加しており、旧来の制度や慣行がもたらす意識への影響は根強いことが把握できる。

また、問26の行政が男女共同参画社会を推進していくために力を入れていくべきことでは、「男女共同参画に関する啓発活動、情報提供、学校教育や生涯学習の場での学習を充実する」が44.7%と比較的多くなっている。

自由記述回答では、男女共同参画について「性別が違うために機会すら与えられない社会は良くない」、「性別に関係なく対等な立場である事は大切」という意見もみられたことから、引き続き、広報・啓発活動や情報の収集・提供を通じての、男女共同参画の視点に立った社会慣行の見直しや、男女共同参画社会に向けた意識形成が重要と思われる。

【基本目標 2：働く場における男女平等の推進】

(1) 女性の就労支援

問 11 の女性が仕事をするることについて、「結婚や出産に関わらず仕事を続けたい・続けてほしい」の割合が 3 分の 1 以上で最も多く、前回調査では 4 分の 1 だった女性の就労継続の意思・就労継続への期待が増加している。

また、問 15 で、出産、育児、介護・看護などで離職した後、再就職を希望する女性が再就職しやすくなるために必要な施策を尋ねたが、「育児や介護・看護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」や「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」、「企業経営者や職場の理解」という企業内施策が上位を占める一方で、「就職情報や職業紹介などの相談機関の充実」、「技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実」という公的な役割も、一定の割合を示している。

以上のことから、企業へのさらなる啓発にあわせて、能力や技能を習得する機会や情報の提供、セミナーなどの充実も望まれていることがわかる。

(2) 働き続けられる環境の整備

問 14 で、出産、育児、介護・看護などの理由で女性が仕事を辞めずに働き続けるために必要な施策を尋ねたが、「夫・パートナーなどの家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加」と「企業経営者や職場の理解」の 2 つが 5 割強であった。女性の回答のみをみると、「家族の理解と参加」が 6 割弱と男性の回答よりもかなり多く、「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」も男性より 7 ポイント程度の差で多くなっている。

また、職場などでのセクシャル・ハラスメントは、示されたどの項目も該当するとの認識が非常に高く、かつ前回調査よりも割合が増加しているにもかかわらず、実際の被害の発生が後を絶たない現状があり、自由記述回答では「パンフレットを置くなど、誰にも知られず解決する手段が充実しても良いのでは」との提案もあった。さらに、数は女性と比べると少ないが男性の被害の訴えもみられる。

女性が働きながら安心して出産することが選択できる家庭生活・就業・社会環境の整備に向けた、法律や制度の一層の啓発・情報提供や、性別を問わず人間の尊厳と働く権利を侵害するハラスメント行為については、関係機関との連携を図り、誰にも知られず安心して相談ができる窓口や相談手段の設置とともに、ハラスメント防止につながるさらに強い施策が求められる。

(3) 職業生活と家庭生活の充実

問 8 の「男は仕事、女は家庭」という考え方について、否定的な意見が 7 割弱もみられるが、問 9 の男女の役割分担意識では、女性の役割として「乳幼児の世話」が 5 割強、

「日常の家事」が3割強あり、依然として旧来の役割分担意識が強く残っていることがうかがえる。

しかしながら、年代別にみた場合、年代が若くなるにつれて「両方同じ程度の役割」が増えてきていることから、近年の教育・啓発や情報提供が一定、功を奏していると考えられる。

教育・啓発については、問17で、男性の家事・子育て・介護・地域活動への参加を尋ねているが、「小さい時から男性に家事や育児に関する教育をすること」の割合は、全体では38.8%も、女性の回答は45.0%、男性の回答は31.2%と差があり、自由記述回答でも女性から「男性自らが意識を改めること」や「当事者の自覚を」との厳しい意見もみられた。

さらに、働きながら子どもを育てている親への支援も、問26の行政が男女共同参画社会を推進していくために力を入れていくべきことで、「育児や介護のための施設やサービスの充実など、子育てや介護中でも仕事を続けられるような支援、仕事を辞めた人の再就職の支援を進める」が、7割を超えて最も多くなっており、自由記述回答でも「生み育てやすい環境づくり」を望む意見がみられる。

ワーク・ライフ・バランスを整え、性別を問わず家事や育児などを均等に担い、職場や社会全体での支えあいにつながる施策や、ニーズに対応した環境づくりがより必要とされていることがうかがえる。

【基本目標3：健康の保持・増進と女性の性保護】

(1) 健康の保持・増進

(2) 女性の性保護と母子保健の充実

今回調査では、女性特有の健康や出産に関する直接的な設問はなかったが、自由記述回答で、男性から「学校等できちんとした性教育をしてほしい。もっと早く適切な知識が身につくのであれば、もっと配慮のできる場面があった」や「男女や性の多様化教育など、ほとんどのことができていない」などの意見がみられた。

女性も男性もお互いの身体的特性に対する十分な理解が深まり、妊娠・出産に関して男性の当事者としての認識が高まるよう、啓発、教育、相談等の施策実施のさらなる継続が必要と思われる。

【基本目標4：男女の自立を支える保健・福祉サービスの推進】

(1) 高齢者の自立の推進 (2) 高齢者・障害者（児）の保険・福祉施策の充実

問13-1の現在働けない理由で、「家事や育児、介護・看護について、配偶者パートナ一等の協力が得られない」との回答は、男性より女性が多くなっている。また、問13-2の働きたいとは考えていない理由として、「家族等の介護・看護をしなければならないから」を挙げたのは、すべて女性であった。

一方、問9の男女の役割分担意識で、老親や病身者の介護・看護は「男性の役割」という認識は、40歳以上の年代ではごくわずかも、39歳以下の年代で少しずつ増えてきている。また、30～39歳では「両方同じ程度の役割」がすべての年代で最も多いことから、「女性の役割」ではなく、両性平等に男性も一定の役割を担う意識が形成されてきている。

引き続き、高齢者が介護を要する状態にならないよう介護予防などの充実や、障害者や高齢者と地域で共に生きる社会づくり、福祉コミュニティの形成により、女性のライフコース選択における介護・看護の負担を少なくしていく方策とともに、特に中高年世代に対する、両性平等に役割を担うという意識醸成のための啓発や情報提供などが望まれる。

(3) ひとり親家庭の自立の支援

問10の結婚に対する意識で、「うまくいかなければ離婚した方がよい」に肯定的な回答が8割以上あり、女性の方が男性よりも高い割合となっている。また、この割合は、前回調査よりも大きく増えており、近年の社会情勢の変化がみてとれる。

さらに自由記述回答では、「シングルマザーに対して差別的」や「シングルファザーへの配慮」というひとり親家庭がおかれた現状に対する意見もみられた。

親の性別によらない、なによりも安心して子どもを育てるために必要な、幅広いひとり親家庭への社会的・経済的な支援や、いわゆるモデル世帯に限らない多様な家族のあり方の尊重が、より重要と思われる。

【基本目標5：男女共同参画社会の促進】

(1) 施策・方針決定への女性の参画の促進

問7の男女の地位平等で、施策・方針決定の場でもある「政治の場」において男性優遇と思う割合が前回調査よりも増加しているなか、問26の行政が男女共同参画社会を推進していくために力を入れていくべきことでは、「府や市町村の審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する」が50.5%で上位3番目となっている。

さらに、自由記述回答では「機会は増えてきていると思うが、共同参画というにはまだ少ない」との意見もみられたことから、男女共同参画社会の推進のため、一層の女性の参画の促進が必要であり期待されていることがうかがえる。

(2) 地域活動への参加の推進

問18の地域活動の参加で、男女ともおよそ3分の1は「何らかの地域活動に参加」している。一方、3割弱が「今後とも参加したくない」と回答しており、参加できない理由として、「プライベートの時間を優先したい」の他、特に女性では「人間関係が面倒だから」、「仕事との両立が難しい」が男性よりも多くなっている。

地域活動については、自由記述回答で「役員が旧態依然。考え方や価値観が昔ながらの男尊女卑的な雰囲気」や「日中の会合は働いている者には難しい」などの意見もあるが、問9の男女の役割分担意識で、地域活動への参加は「男女両方同じ程度の役割」が8割以上あり、特に18～29歳の若い世代では「女性の役割」という認識も1割程度みられることから、若い女性の参画、活躍が推察できる結果も出てきている。

今後、地域コミュニティ活動における女性リーダーの育成ともども、時代に合った雰囲気づくりや活動方法の模索も、女性の参画や世代間交流には重要と思われる。

【基本目標6：DV被害防止と被害者支援対策】

(1) DV被害防止に向けた啓発の推進

問20の交際相手からのDV被害の経験で、全体的に1割前後が「ある」と回答しており、「性的な行為を強要」では女性の割合が男性の約2.5倍となっている。

問21の配偶者・パートナーからのDV被害の経験での回答で、身体に多大な被害を受ける直接的な暴力の被害者の存在とともに、「大声で罵声を浴びせられる」が15.5%、「何を言っても無視され続ける」が13.1%、「意味なく人間性を否定される」が12.1%など、人格に対する暴力的な行為も見過ごすことはできない。

また、「何を言っても無視され続ける」と回答した割合は、女性よりも男性のほうが多いことから、性別を問わず誰もがDVの被害者や加害者になる可能性があるという認識の浸透が肝要で、引き続き、DVに関する正しい知識を身につけ、DV根絶につながる啓発や教育などが重要であると考えられる。

(2) 被害者に対する救済と支援

(3) 取り組み体制の整備

問19のDV相談窓口認識で、7割以上が「知っている」と回答しているが、問22を見ると、実際に被害に遭った際に行政や警察、民間が開設する相談窓口の利用はわずかで、「相談しなかった」が55.4%と最も多くなっている。

続いて、問22-1で相談しなかった理由を尋ねているが、7割以上が「相談するほどのことではない、相談しても無駄だと思ったから」と回答している。

自由記述回答では「DV防止法の積極的な適用」や「自宅から離れた相談しやすい所を」というDVの早期発見に対する提案とあわせて、「男女の収入格差もDVの一因」、「相談の場だけではなく、具体的な経済的支援を」、「公的な相談窓口と施設を含む受皿の積極的PR」など、困難を抱える人が動けるようなサポートの強化についても述べられている。また、「相談業務にあたる行政の職員の意識変革、研修を十分に」という窓口の質の向上に向けた意見もみられる。

様々な個々の事情により相談窓口につながらないという状況ではあるが、被害者の安全確保を最優先として、DVに関する相談が安心してできる環境づくり、加害者から逃れた後の生活自立に向けた支援などとともに、迅速に対応できるよう関係機関との連携強化や、相談にあたる職員の資質向上による、より専門的で総合的な支援体制の構築まで含めた、幅広い取り組みの継続が重要と思われる。